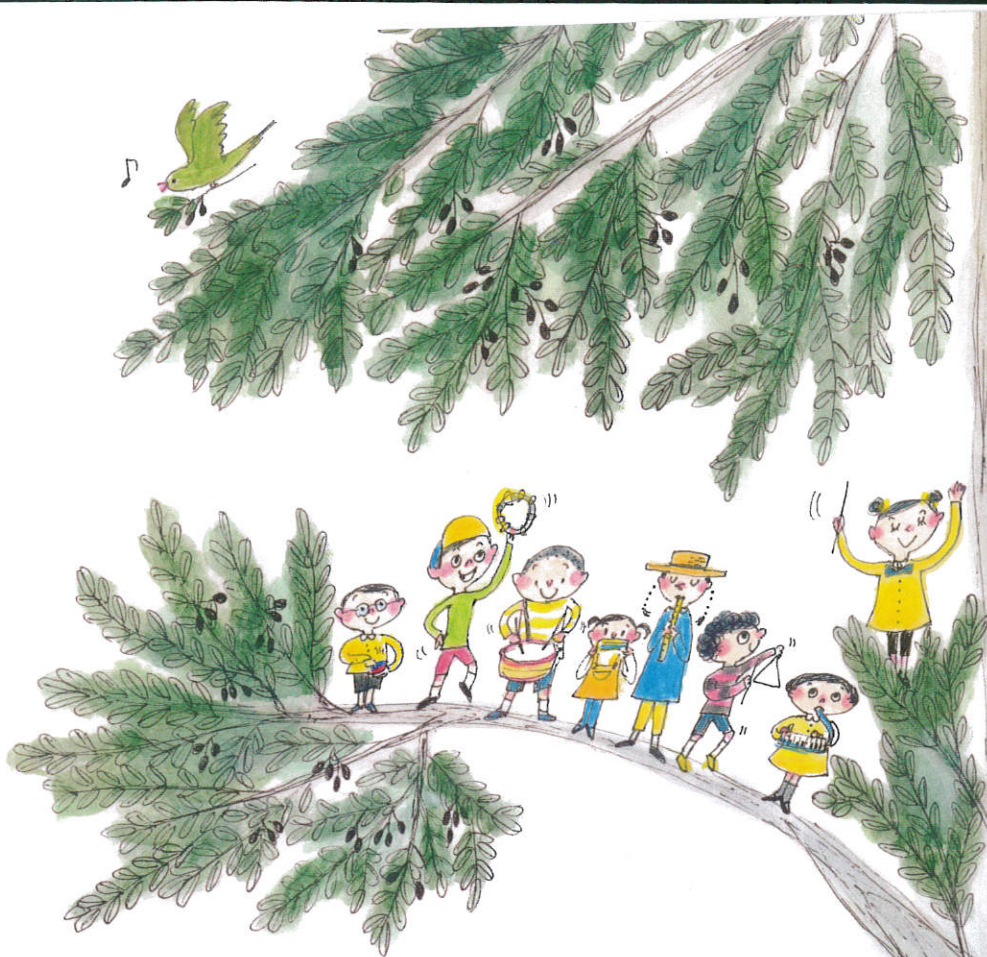


国語

四

下

はばたき



光村図書



この本で学習するみなさんへ

この本では、次の印が使われています。



話したり聞いたりしましょう。



書きましょう。



読みましょう。



言葉の学習をしましょう。



覚えておきましょう。他の学習や生活の中でも役に立ちます。



国語の学習に用いる言葉をたしかめましょう。



学習を進めるときに気をつけることなどをまとめています。



音声を聞いて、学習しましょう。



学習に関係のあるページをしめています。

文字や言葉の印

- 新しく学習する漢字。
- 読み方が新しい漢字。
音はかたかなで、訓は平がなでしめしてあります。
- ◆ 特別な読み方をする言葉。



この印があるところには、学習の助けとなる資料があります。読み取るときには、必ず、先生やおうちの方と、いっしょに行いましょう。

国語

四

下

はばたき



白鳥はくちようのやって来た空から、

ふわりふわりとまい下りてくるのは、

あれは雪ではなくて、

たくさんたくさんの白鳥のはばたきから

飛び散ってくる、

小さな羽ではないのでしょうか。

四年生の国語の学びを見わたそう……………4

④ じょうほう 分ける・くらべる……………9

つづけてみよう……………10

① 気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう 読む……………11

ごんぎつね 新美南吉……………36

クラスみんなで決めるには 話す・聞く……………36

② 中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう 読む 書く……………43

世界にほこる和紙 増田勝彦……………43

④ じょうほう 百科事典での調べ方……………52

伝統工芸のよさを伝えよう……………53

慣用句……………58

短歌・俳句に親しもう(二)……………60

③ 登場人物の変化を中心に読み、物語をしようかいしよう 読む……………63

プラタナスの木 椎名誠……………63





感動を言葉に

書く

詩の楽しみ方を見つけよう 読む

自分だけの詩集を作ろう

82

言葉 熟語の意味

84



4 きょうみをもったことを中心に、しょうかいしよう
ウナギのなぞを追って

読む

塚本勝巳

87

つながりに気をつけよう

101



もしものときにそなえよう

書く

105



調べて話そう、生活調査隊

話す・聞く

112

言葉 まちがえやすい漢字

117



5 読んで感じたことをまとめ、伝え合おう
初雪のふる日

読む

安房直子

119

季節の言葉

秋 34

冬 80

漢字の広場

④ 42

⑤ 62

⑥ 86

付録 学習を広げよう

「たいせつ」のまとめ

140

聞くことのトレーニング

144

本の世界を広げよう

146

百人一首に親しもう

148

これまでに習った漢字

150

この本で習う漢字

157

言葉のたから箱

161



国語の学びを 見わたそう

これから国語の学習が始まります。
みんなで考え、学びを深めていくために、
学習の進め方と、これから学ぶことをたしかめましょう。

学習の進め方

初めに

「こんなことがしたい。」
「こうすればできそう。」
「どうして——だろう。」



読む

書く

話す・聞く



ふりかえる

「考えが^か変わった。」
「知っている言葉がふえた。」
「次はこんなふうにしてみよう。」



学習や生活にいかす

「——のときに、
いかすことができそう。」
「この言葉を使ってみよう。」



四年生で学習すること

これから学ぶことをたしかめたり、学習したことをふり返ったりして、言葉の力を高めていきましょう。

話す・聞く

クラスみんなで決めるには…………… 36

📌 役わりをいしきしながら話し合う

議題

調べて話そう、生活調査隊…………… 112

📌 調べたことを発表する

📌 こんなどころが同じだね

📌 聞き取りメモのくふう

📌 聞きながらメモを取るときは

📌 聞きながらメモを取るときは

要点

📌 あなたなら、どう言う

📌 かじょう書き



書く

伝統工芸のよさを伝えよう…………… 53

📌 理由や例を挙げて考えを伝える

出典

感動を言葉に…………… 77

📌 読み返して、書いたものを整える

もしものときにそなえよう…………… 105

📌 文章の感想を伝え合う

📌 お礼の気持ちを伝えよう

📌 手紙で気持ちを伝える

上

📌 新聞を作ろう

📌 事実を分かりやすく伝える

見出し

取材

わりつけ

アンケート調査



四年上までの学びをたしかめよう

決める 集める

- 相手や目的に合わせて、伝えたいことを決め、メモなどに書き出す。

じゅんびする

- 伝えたいことに合う理由や資料を選ぶ。

話す

- 聞き手を見て、様子をたしかめる。

聞く

- 声の調子や話す速さなどに気をつける。

話し合う

- 話す人の方を見ながら聞く。
- 記号を使ったり、かじょう書きにしたりして、すばやくメモを取る。

話し合う

- 話し合いの目的や進め方、自分の役割りなどを考えながら話し合う。
- 友達の考えと同じところや、ちがうところに気をつける。

つなげる

- 話したり聞いたり話し合ったりして、気がついたことを伝え合う。

四年上までの学びをたしかめよう

決める 集める

- 一人で考えたり、友達と話したりして、何について書くかを決める。
- 書くもののことを、短い言葉や文でメモし、伝えたいことの中心を明らかにする。

組み立てる

- まとめりに段落を分け、「初め」「中」「終わり」などの組み立てを考える。
- 新聞では、記事の大きさなどによって、わりつけを考える。

書く

- 分かったことと考えたことを分けて書く。
- 例を挙げる順序や、絵や写真、図表の使い方を工夫して分かりやすく書く。
- 書いたものを読み返し、まちがいや読みにくいところを直す。

つなげる

- 自分の文章に対する感想を知ると、内容や書き方のよいところがよく分かる。



世界にほこる和紙……………43

要約する

ウナギのなぞを追って……………87

感じ方のちがいに気づき、よさを見つける

上
思いやりのデザイン
アップとルーズで伝える
筆者の考えをとらえる

対比

パンフレットを読む

物語・詩

ごんぎつね……………11

話し合って、考えを深める

情景

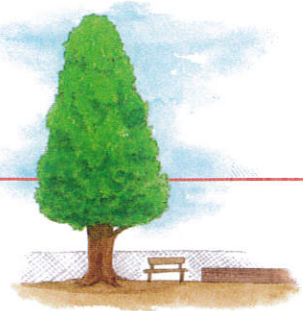
プラタナスの木……………63

登場人物の変化と、出来事の間接をとらえる

自分だけの詩集を作ろう……………82

初雪のふる日……………119

感じ方のちがいを楽しむ



上

春のうた
白いぼうし
場面と場面のつながりを考える
一つの花
特別な言葉に着目する
忘れもの
ぼくは川

設定

言葉 

言葉の使い方

熟語の意味……………84

つながりに
気をつけよう……………101

まちがえやすい
漢字……………117

漢字の広場④⑤⑥

上

漢字の組み立て
漢字辞典の使い方
カンジーはかせの
都道府県の旅12
つなぎ言葉の
はたらきを知ろう
いろいろな意味を
もつ言葉
漢字の広場①③

じょうほう

分けるくらべる……………9

百科事典での
調べ方……………52

上
分ける・くらべる
考えと例
要約するとき

要約

説明する文章

筆者の考えは、文章の初めと終わりの両方に書かれていることが多い。
段落どうしの関係をたしかめ、筆者の考えをとらえる。

とらえる

物語・詩

登場人物のしたことや言ったこと、気持ちを表す言葉に気をつける。
話の組み立てをとらえながら読む。

ふかめる

説明する文章

大事な言葉や文が何かを考える。
例を挙げる順序や写真の使い方など、筆者の例の書き方に気をつける。

まとめる

書かれていること、自分の知っていることなどをつなげて、感想や考えをまとめる。

ひろげる

読んだ感想を伝え合うときには、自分の考えと同じところやちがうところに着目して聞く。

受けつがれる言葉

慣用句……………58

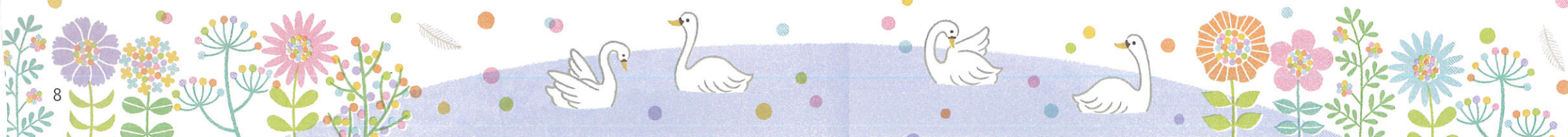
短歌・俳句に
親しもう(二)……………60

上
季節の言葉
秋・冬

短歌・俳句に
親しもう(一)
させつ言葉 春・夏

読書

図書館の達人になろう
事実にもとづいて書かれた本を読む
事実にもとづいて書かれた本を読む
ランドセルは海をこえて





考えるときに使おう

分ける・くらべる

分ける

物事や考えをいくつかに分けたときは、次のような言葉で相手に伝えることができます。

- —という点から、大きく三つに分けました。
- —と—がこのように分けられるのは、—。

なかま分けしたグループを、さらに大きなグループにまとめることがあります。どのようにまとめたのか、伝えましょう。

ここでは、おにごっこ、遊具を使う遊びをまとめて、「外遊びのなかま」とよびます。



「もしものときにそなえよう」

107ページ

5

くらべる

物事や考えをくらべたときは、次のような言葉で相手に伝えることができます。

- —という点でくらべてみると、—。
- —に対して、—は—。

物事や考えの前と後をくらべると、変化が分かります。いつといつをくらべたのか、何がかわったのか、はっきり伝えましょう。

八月と十一月で、葉の色をくらべました。八月は緑でしたが、十一月は赤にかわっています。



「クラスみんなで決めるには」

40ページ

5

つづけてみよう

いろいろな辞典に 親しもう

国語辞典を使うことにはなれましたか。辞典には、他にも、漢字辞典やことわざ辞典、類語辞典など、いろいろな種類があります。それらを使って、言葉の知識しきを広げましょう。

最近の出来事を、辞典で見つけた言葉や漢字を使って表してみましよう。選んだ言葉や漢字は、出来事といっしよに、みんなにしようかいしたり、ノートに書いたりしてもいいですね。



ぼくの、最近の出来事を表す漢字は、「信」です。体育でなかなかとび箱がとべなくてくろうしていましたが、今井さんのアドバイスを信じてやってみたらうまくいきました。やればできるという自信ができました。





読む

気持ちの変化を読み、
考えたことを話し合おう

ごんぎつね

1

この物語には、小ぎつねの「ごん」が出てきます。「ごん」は、どんなきつねでしょうか。そして、「ごん」には、どんなことが起こるのでしょうか。

これまでの学習



場面と場面のつながりを考える

(白いぼうし) ……………

上 28 ページ



特別な言葉に着目する (一つの花) ……………

上 80 ページ



ごんぎつね

新美 南吉 作
にいみ なんきち

かすや 昌宏 絵
まさひろ

これは、わたしが小さいときに、村の茂平もへいというおじいさんから聞いたお話です。

昔は、わたしたちの村の近くの中山なかやまという所に、小さなお城があって、中山様というおとの様がおられたそうです。

その中山から少しはなれた山の中に、「ごんぎつね」というきつねがいました。ごんは、ひとりぼっちの小ぎつねで、しだのいっぱいしげった森の中に、あなをほって住んでいました。そして、夜でも昼でも、あたりの村へ出てきて、いたずらばかりしました。畑へ入っていもをほり散らしたり、菜種たねがらのほしてあるのへ火をつけたり、百姓しやう家のうら手につるしてあるとんがらし(とうがらし)をむしり取っていった

○変化

○菜種
百姓家



り、いろんなことをしました。

ある秋のことでした。二、三日雨がふり続いたその間、ごんは、外へも出られなくて、あなの中にしゃがんでいました。

雨があがると、ごんは、ほっとしてあなからはい出ました。空はからっと晴れていて、もずの音がキンキンひびいていました。

ごんは、村の小川のつつみまで出てきました。あたりのすすきのほには、まだ雨のしずくが光っていました。川は、いつもは水が少ないのですが、三日もの雨で、水がどっとまっていました。ただのときは水につかることのない、川べりのすすきはぎのかぶが、黄色くにこった水に横だおしに

10

5

●小
川

ふり
。続^{つづ}
く



なって、もまれていきます。ごんは、川下の方へと、ぬかるみ道を歩いていきました。

ふと見ると、川の中に人がいて、何かやっています。ごんは、見つからないように、そうっと草の深い所へ歩きよって、そこからじつとのぞいてみました。

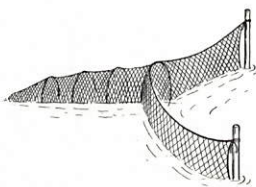
「兵十ひょうじゅうだな。」と、ごんは思いました。兵

十は、ぼろぼろの黒い着物をまくし上げて、こしのところまで水にひたりながら、魚をとるはりきりというあみをゆすぶっていました。はちまきをした顔の横っちょように、円いはぎの葉が一まい、大きなほくらみたいにへばりついていました。

しばらくすると、兵十は、はりきりあみ

10

5



はりきりあみ



のいちばん後ろのふくろのようになったところを、水の中から持ち上げました。その中には、しばの根や、草の葉や、くさった木切れなどが、ごちゃごちゃ入っていました。でも、ところどころ、白い物がきらきら光っています。それは、太いうなぎのはらや、大きなきすのはらでした。兵十は、びくの中へ、そのうなぎやきすを、ごみといっしょにぶちこみました。そして、また、ふくろの口をしばって、水の中へ入れました。

兵十は、それから、びくを持って川から上がり、びくを土手に置いて、何をさがしにか、川上の方へかけていきました。

10

5

きす

ここでは、川魚のやのこと。

びく

とった魚を入れておくかご。



兵十がいなくなると、ごんは、ぴよいと草の中から飛び出して、びくのそばへかけつけました。ちよいと、いたずらがしたくなったのです。ごんは、びくの中の魚をつかみ出しては、はりきりあみのかかっている所より下手の川の中を目掛けて、ぼんぼん投げこみました。どの魚も、トボンと音を立てながら、にごった水の中へもぐりこみました。

いちばんしまいに、太いうなぎをつかみにかかりましたが、なにしろぬるぬるとすべりぬけるので、手ではつかめません。ごんは、じれったくなって、頭をびくの中につっこんで、うなぎの頭を口にくわえました。うなぎは、キュツと言って、ごんの首へまきつきました。そのとたんに兵十が、向こうから、

「うわあ、ぬすつとぎつねめ。」

とどなり立てました。ごんは、びっくりして飛び上がりました。うなぎをふりすててにげようとしたが、うなぎは、ごんの首にまきついたままはなれませんが、ごんは、そのまま横っ飛びに飛び出して、一生けんめいににげていきました。

ほらあなの近くのはんの木の下でふり返って見ましたが、兵十は追っかけては

来ませんでした。

ごんはほっとして、うなぎの頭をかみくだき、やっと外して、あなの外の草の葉の上のせておきました。

2

十日ほどたって、ごんが弥助やすけというお百姓のうちのうらを通りかかりますと、そのいちじくの木のかげで、弥助の家内が、お齒黒をつけていました。かじ屋の新兵衛しんべえのうちのうらを通ると、新兵衛の家内が、かみをすいていました。ごんは、「ふふん、村に何かあるんだな。」と思いました。「なんだろう、秋祭りかな。祭りなら、たいこや笛の音がしそうなものだ。それにだいいち、

10

5

家内

自分の妻つまをよぶ言い方の一つ。ここでは、弥助の妻のこと。

お齒黒

昔、けつこんした女の人は、齒を黒くそめた。そのために使ったもの。





お宮にのぼりが立つはずだが。」

こんなことを考えながらやって来ますと、いつのまにか、表に赤い井戸のある兵十のうちの前へ来ました。その小さなこわれかけた家の中には、おおぜいの人が集まっていた。よそ行きの着物を着て、こしに手ぬぐいをさげたりした女たちが、表のかまどで火をたいています。大きななべの中では、何かぐずぐずにえています。

「ああ、そうしきだ。」と、ごんは思いました。「兵十のうちのだれが死んだんだろう。」

お昼がすぎると、ごんは、村の墓地ぼへ行って、六地藏ぞうさんのかげにかくれていま

六地藏

墓地や道ばたなどに、六体ならべてまつた地藏。



した。いいお天気で、遠く向こうには、お城の屋根がわらが光っています。墓地には、ひがん花が、赤いきれのようにさき続いていました。と、村の方から、カーン、カーンと、かねが鳴ってきました。そうしきの出る合図です。

5

やがて、白い着物を着たそうれつの者たちがやって来るのが、ちらちら見え始めました。話し声も近くなりました。そうれつは、墓地へ入ってきました。人々が通ったあとには、ひがん花がふみ折られていました。

10

ごんは、のび上がって見ました。兵十が、白いかみしもを着けて、いはいをささげています。いつもは、赤いさつまいもみたい

ふみ折おる

かみしも

上下でひとそろいになった、昔の正式なふくそう。ここでは、そうしきのとき、男の人が着る白いかみしものこと。

な元氣のいい顔が、今日はなんだかしおれていました。

「ははん、死んだのは、兵十のおっかあだ。」ごんは、そう思いながら頭を引っこめました。

そのばん、ごんは、あなの中で考えました。「兵十のおっかあは、どこについていて、うなぎが食べたいと言ったにちがいない。それで、兵十が、はりきりあみを持ち出したんだ。ところが、わしがいたずらをして、うなぎを取ってきてしまった。だから、兵十は、おっかあにうなぎを食べさせることができなかった。そのまま、おっかあは、死んじゃったにちがいない。ああ、うなぎが食べたい、うなぎが食べたいと思ひながら死んだんだらう。ちよっ、あんないたずらをしなけりゃよかった。」

3

兵十が、赤い井戸のところまで麦をといでいました。

兵十は、今までおっかあと二人きりで、まずしいくらしをしていたもので、おっかあが死んでしまつては、もうひとりぼっちでした。「おれと同じ、ひとりぼっ

おっかあ
お母さん。

積つむ

ちの兵十か。」こちらの物置の後ろから見ていたごんは、そう思いました。

ごんは、物置のそばをはなれて、向こうへ行きかけますと、どこかで、いわしを売る声がします。

「いわしの安売りだあい。生きのいい、いわしだあい。」

ごんは、そのいせいのいい声のする方へ走っていききました。と、弥助のおかみさんが、うら戸口から、「いわしをおくれ。」

と言いました。いわし売りは、いわしのかごを積んだ車を道ばたに置いて、ぴかぴか光るいわしを両手でつかんで、弥助のうちの中へ持って入りました。

ごんは、そのすき間に、かごの中から五、六ぴきのいわしをつかみ出して、もと来た方へかけだしまし



た。そして、兵十のうちのうら口から、うちの中へいわしを投げこんで、あなへ向かってかけもどりました。とちゅうの坂の上でふり返ってみますと、兵十がまだ、井戸のところで麦をといでいるのが小さく見えました。

ごんは、うなぎのつぐないに、まず一つ、いいことをしたと思いました。

次の日には、ごんは山でくりをどっさり拾って、それをかかえて兵十のうちへ行きました。

うら口からのぞいてみますと、兵十は、昼飯を食べかけて、茶わんを持ったまま、ぼんやりと考えこんでいました。変なことには、兵十のほったたに、かすりきずがついています。どうしたんだろうと、ごんが思っていますと、兵十がひとり言を言いました。

「いったい、だれが、いわしなんかを、おれのうちへ放りこんでいったんだろう。おかげでおれは、ぬすびどと思われて、いわし屋のやつにひどいめにあわされた。」

と、ぶつぶつ言っています。



ごんは、これはしまったと思いました。「かわいそうに兵十は、いわし屋にぶんなぐられて、あんなきずまでつけられたのか。」

ごんはこう思いながら、そっと物置の方へ回って、その入り口にくりを置いて帰りました。

次の日も、その次の日も、ごんは、くりを捨ては兵十のうちへ持ってきてやりました。その次の日には、くりばかりでなく、松たけも二、三本、持っていきました。

4

月のいいばんでした。ごんは、ぶらぶら遊びに出かけました。中山様のお城の下を通って、少し行くと、細い道の向こうから、だれか来るようです。話し声が聞こえます。チンチロリン、チンチロリンと、松虫が鳴いています。

ごんは、道のかたがわにかくれて、じっとしていました。話し声は、だんだん

○松^またけ



近くなりました。それは、兵十と、加助かすけというお百姓でした。

「そうそう、なあ、加助。」

と、兵十が言いました。

「ああん。」

「おれあ、このごろ、とても不思議なことがあるんだ。」

「何が。」

「おっかあが死んでからは、だれだか知らんが、おれにくりや松たけなんかを、毎日くれるんだよ。」

「ふうん、だれが。」

「それが分からのだよ。おれの知らんうちに置いていくんだ。」

10

5

○不フ思シ議ギ
●
○



ごんは、二人の後をつけていきました。

「ほんとかい。」

「ほんのだとも。うそと思うなら、あした見に来いよ。そのくりを見せてやるよ。」

「へえ、変なこともあるもんだなあ。」

それなり、二人はだまって歩いていきました。

加助が、ひよいと後ろを見ました。ごんはびくつとして、小さくなって立ち止まりました。加助は、ごんには気がつかないで、そのままさっさと歩きました。吉兵衛きちべえというお百姓のうちまで来ると、二人はそこへ入っていきました。ポンポンポンと、木魚の音がしています。まどのしようじに

10

5

木魚

おきょうを読むとき
にたたく、木ででき
た道具。



明かりが差していて、大きなぼうず頭がうつつて、動いていました。ごんは、「お念仏ぶつがあるんだな。」と思ひながら、井戸のそばにしゃがんでいました。しばらくすると、また三人ほど人が連れ立って、吉兵衛のうちへ入っていきました。

おきようを読む声が聞こえてきました。

5

ごんは、お念仏がすむまで、井戸のそばにしゃがんでいました。兵十と加助は、またいっしょに帰っていきます。ごんは、二人の話を聞こうと思って、ついていきました。兵十のかけぼうしをふみふみ行きました。

お城の前まで来たとき、加助が言いました。

「さっきの話は、きつと、そりゃあ、神様のしわざだぞ。」

「えっ。」

と、兵十はびっくりして、加助の顔を見ました。

「おれはあれからずっと考えていたが、どうも、そりゃ、人間じゃない、神様だ。」

神様が、おまえがたった一人になったのをあわれに思わ(お思いになつて)つしやって、いろんな

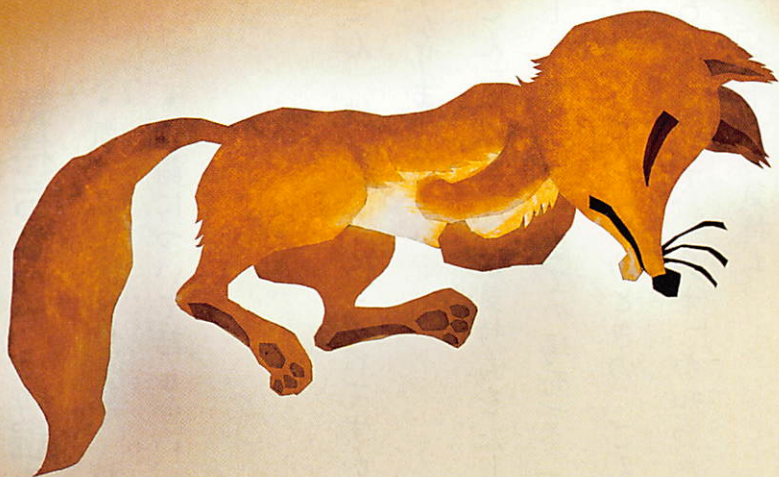
○差す

○お念仏ネン

○お念仏

ここでは、おおぜいの人が集まって念仏をとなえることをいう。

○連れ立つ



「おや。」

と、兵十はびっくりして、ごんに目を落としました。

「ごん、(おまえ)おまいだったのか、いつも、

くりをくれたのは。」

ごんは、ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました。

兵十は、火なわじゆうをばたりと取り落としました。青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました。

10

5

新美 南吉

一九一三〜四三年。

愛知県生まれ。作家。

「おじいさんのラン

プ」「花のき村と盗

人たち」などの作品

がある。



見通しをもとう

気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう

- 気持ちを表す言葉や、情景のえがかれ方に気をつけましょう。
- 物語について話し合い、考えを深めましょう。

情景^{ケイ}



人物の気持ちが表示されている、風景や場面の様子。

163ページ

とらえよう

●「ごん」は、どんなきつねですか。それは、どこから分かりますか。

●「ごん」と「兵十」の気持ちをたしかめましょう。

●「1」から「5」までの場面で、「ごん」が「兵十」にしたことと、そのときの「ごん」の気持ち。

●「6」の場面で、「兵十」が知ったことと、そのときの「兵十」の気持ち。

1

5

ふかめよう

●情景や、場面の様子が目にかぶような表現を見つけてみましょう。そして、その表現からどんなことが分かるかを、友達と話ししましょう。

2

10

1 ノートの例

| 場面 | |
|----------------------|--------------------|
| 1 村の小川 | 「ごん」が「兵十」にしたこと |
| 兵十のとった魚やうなぎにいたずらをした。 | ちよつと、いたずらがしたくなかった。 |
| | そのときの「ごん」の気持ち |

2 情景や、場面の様子がよく分かる表現

• 空はからつと晴れていて、もずの声がキンキンひびいていました。(13ページ6行目)

• 青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました。(29ページ9行目)

など

10

5



ふりかえろう

- 知る
- 読む
- つなぐ

どのような言葉から、人物の気持ちを変えましたか。
 話し合う前後とで、物語や人物に対する考えはどう変わりましたか。
 人物の気持ちの変化について考えるためには、何に着目するとよいですか。

結末^{マツ}が
 変わる

ひろげよう

●考えたことを発表しましょう。そして、さらに考えを深めたいことについて、グループでテーマを決めて、話し合みましょう。

3

4

10

「ごん」の気持ちについての考えは、村田さんと同じです。ただ、そう思った理由は少しちがいます。



まとめよう

●くわしく読んで分かったことや感じたことをもとに、物語や人物についての考えをまとめましょう。

- 「ごん」と「兵十」の気持ちには、どのような変化がありますか。次のことに気をつけて、考えましょう。
- 「ごん」が「兵十」について、思ったり考えたりしたこと。
- 「兵十」が「ごん」のことを表すときに使った言葉。

5

3 テーマの例

- 「ごん」や「兵十」はどんな人物か。
 - 「ごん」のつぐないの気持ちは、「兵十」にとどいたのだろうか。
 - 物語の結末についてどう思うか。
- など

5



たいせつ

話し合って、考えを深める

● 行動や気持ちを表す言葉とともに、情景からも、登場人物の気持ちを想像する。

● 場面と場面を、結びつけたりくんだりして、気持ちの変化をとらえる。

● 他の人の考えや、自分とはちがう見方を知ると、物語に対する考えを深めることができる。



物語を読むときには、情景のえがかれ方から、人物の気持ちを想像しましょう。

10

5

この本、読もう

新美南吉さんは、一九一三年、

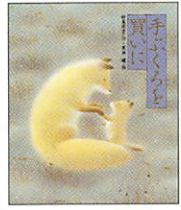
愛知県に生まれました。二十九さいとい
うわかさでなくなりましたが、「ごんぎ
つね」の他にも、多くの童話をのこしま
した。それらは、百年近くたった今も、
読みつがれています。

その中のいくつかを、書きだしの部分
とともにしようかいたします。えがかれて
いる情景や場面の様子を味わいながら、
読んでみましょう。



10

5



手ぶくろを買いに

子どものきつねは、手ぶくろを買いに町まで来ました。はたして手ぶくろは買えるのでしょうか。

「寒い冬が北方から、きつねの親子のすんで森へもやって来ました。」



がちょうのたんじょうび

たん生祝いによばれた私たちは、ついにきぜつしてしまいました。何が起こつたのでしょうか。

「あるお百姓家のうら庭に、あひるや、がちょうや、モルモットや、うさぎや、いたちなどがすんでおりました。」

10



木の祭り

木は、美しい花をさかせましたが、だれも見えてくれずさびしそう。ちようは、木のために祭りをすることに。

「木に白い美しい花がいっぱい咲きました。」



でんでんむしのかなしみ

だれもが悲しみをせおって生きていると気がついたでんでんむしに、あなたは何と言つてあげますか。

「一ぴきのでんでんむしがありました。ある日、そのでんでんむしは大変なことに気がつきました。」

10

変 ヘン
かわる
かえる

種 シユ
たね

続 ゾク
つづく

折 セツ
おる
おれる

積 セキ
つむむ
つむる

飯 ハン
めし

松 シヨウ
まつ

不 ブ

議 ギ

差 サ
さす
さす

念 ネン

連 レン
つらなる
つらねる
つれる

景 ケイ
けい

末 マツ
すえ

九月

ながつき
長月

秋の楽しみ

行事は、ちいきによって行い方や時期がちがいます。あなたには、楽しみにしている秋の行事がありますか。好きな行事の楽しさを知らせる手紙を書いてみましょう。

◆ お月見

中秋の名月

いも名月

十五夜（昔のこよみて、八月十五日の夜）の月。



月見だんご

たまくしげ箱根の山に夜もすがら

薄をてらす月のさやけさ

秋の七草

斎藤 茂吉

はぎ

くず

なでしこ

おみなえし

すすき

ききょう

ふじばかま

おじいちゃんへ

木村りょう

お元氣ですか。十五日から秋祭りが始まります。たくさんのだしが出て、見ごたえがあるので、ぜひ見に来てください。

十月二日

十月

かん なづき
神無月

十一月

しもつき
霜月

◆ もみじがり

十三夜 (昔のこよみて、九月十三日の夜の月。
くり名月
豆名月
後の月



◆ 七五三 (十五日)



ちとせあめ

ちはやぶる 神代も聞かず 竜田川

から紅に水くくるとは

ありわらの なりひら
在原 業平



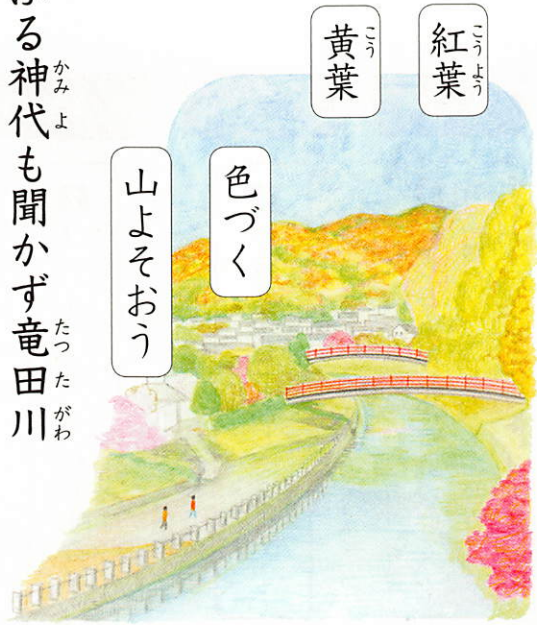
カエデ



イチヨウ



ハゼ





話す・聞く

役わりをいしきしながら話し合おう

クラスみんなで決めるには

話し合いがうまくいなくて、こまったことはありませんか。ここでは、司会や記録係などの役わりにおうじた、よりよい話し合いの進め方について考えましょう。そして、多くの人がなっとくでき、るけつろんを目ざして、話し合いましょう。

議題

ちいきの学習でお世話になった方へのお礼の会で、何をするか。

目的

かんしゃの気持ちを伝える。

進め方



記録係

司会



これから話し合いを始
ます。
まず、今日の議題と目的、
進め方について、みんな
たしかめます。

● たしかめよう

「四年上までの学びをたしかめよう」
「あなたなら、どう言う」
上 118 ページ

● 学習の進め方

決めよう
集めよう

1 役わりを決め、議題と目的を
たしかめる。

じゅんびしよう

2 話し合いのじゅんびをする。

そう
聞こう

3 クラス全体で話し合う。

つなげよう

4 話し合いのしかたについて、
気づいたことを伝え合う。

● ふりかえろう

1 役わりを決め、議題と目的をたしかめよう。

- 話し合いにおける役わりには、次のようなものがあります。
- みなさんも、役わりを決め、話し合うことをたしかめましょう。
- 司会グループ（司会・記録係・時間係）は、多くの参加者が発言できるようにし、出された意見を整理しながら進行する。
 - 提案者は、議題について、理由とともに提案する。
 - 参加者は、進行にそって、自分の立場や考えを発言する。

2 話し合いのじゅんびをしよう。

決められた時間内で話し合いを進めるために、司会グループは、前もって進行計画を立てておきましょう。参加者は、議題や目的におうじて、自分の考えをまとめておくようにします。

3 クラス全体で話し合おう。

38ページからの話し合いの様子から、気をつけるとよいことを考えましょう。そして、実際に話し合ってみましょう。



■議題の例

- 秋の読書週間に、クラスの中でどのような取り組みを行うか。
- 学習発表会に向けて、クラスのキャッチフレーズをどんなものにするか。

今日は、——ということについて話し合いたいと思います。理由を説明します。



■進行計画の例

- ① 議題をたしかめる。（二分）
- ② 意見を出し合う。（八分）
- ③ どうやって決めるかを考える。（五分）
- ④ どれにするかを考える。（十五分）
- ⑤ まとめる。（二分）

○参加者

○議題

○記録係

○司会

163ページ

意見を出し合う



司会

全部で五つの案が出ました。次に、この中からどうやって決めるかを考えます。考えがある人はいますか。——考えが出ないようなので、はんで相談する時間を二分取ります。——二分たちました。どうですか。——では、川上さん、黒田さんの順でおねがいします。

15

- 指名されてから発言する。
- 考えとその理由を言う。
- 前の人の意見を受けているのか、ちがうことを話すのかを、発言の初めに言う。
- ところどころで、そこまでに出了意見をまとめる。
- 意見があまり出ないときは、少数で相談したり、考えをノートに書いたりする時間を取る。
- できるだけ多くの発言が出るように、声をかける。

15



大木



小森



池田

わたしは別の意見なのですが、学校農園で作っているさつまいもを、いっしょに食べるといいと思います。理由は、——。

...

はい。ぼくは、かんしゃじょうをわたしたいと思います。そうすれば、ぼくたちの気持ちを言葉にして伝えることができるからです。ぼくも、池田さんと同じように、かんしゃじょうがいいと思います。クラス全員で一言ずつ書くといいのではないのでしょうか。

10

- 議題をたしかめ、話し合いの進め方をしめす。
- 何について意見をもとめるかをはっきりさせる。

5

議題をたしかめる



北山

司会

今日は、ちいきの学習でお世話になった坂さんたちへのお礼の会で、何をするかを決めます。初めに、何をしたいか、意見を出し合います。次に、どうやって決めるかを考え、その決め方にそって話し合います。それでは、意見のある人は、手を挙げてください。——では、池田さん、小森さん、大木さんの順でおねがいします。

5

- 議題をたしかめ、話し合いの進め方をしめす。
- 何について意見をもとめるかをはっきりさせる。

——
。挙げる

どれにするかを考える



木村



原田



司会

「いっしょに遊ぶ」を提案した木村さんに、しつもんです。いっしょに遊ぶのは楽しいし、じゅんびに時間はかからないと思います。が、どんな遊びをしたら坂さんたちにかんしゃが伝わるでしょうか。そう言われると、いっしょに遊んでも、かんしゃの気持ちは伝わらないかもしれません。考えを変えます。この中では、――。

10

どうやって決めるかを考える



司会



黒田



川上

はい。お礼の会まであと十日しかないので、じゅんびに時間がかからないものにしたほうがいいと思います。

ぼくは、かんしゃの気持ちが伝わるように、ぼくたちの心がこもっているものを選びたいと思います。

――他の人はどうですか。他になれば、じゅんびに時間がかからず、心がこもっているものを、話し合って決めましょう。

5

■黒板に記録する例

◎お礼の会で何をするか

・かんしゃしよう

(全員一言ずつ書く)

…気持ちを言葉で伝えられるから

・学校農園のさつまいもを食べる

…協力して育てた物だから

・いっしょに遊ぶ

◎どうやって決めるか

―じゅんびに時間がかからないもの

2心がこもっているもの

10

- ・たがいにしつもんし合うことで、意見のちがいや、目的に合っているかどうかを明らかにする。
- ・とちゅうで考えを変えてもよい。

15

キョウ
協力

まとめる



司会

それではみなさん、お礼の会では、この三つを行うということでいいでしょうか。いいと思う人は、手を挙げてください。

…

お礼の会では、かんしゃじょうをわたす、さつまいもを食べる、歌を歌う、の三つを行うことに決まりました。次の話し合いでは、当日の進め方や、どんな歌を歌うかを決めたいと思います。

15

どれにするかを考える



小森



司会



黒田



司会

話し合いの時間は、あと五分です。記録係の竹中さんが表にまとめてくれました。じゅんびに時間がかからず、心がこもっているのは、かんしゃじょうをわたすこととさつまいもを食べること、そして歌です。この中から、どれにするかといひでしょうか。

…

三つともするのは、どうでしょうか。この三つなら、じゅんびも大変ではないし、当日も、一時間あればできると思います。

黒田さんの意見について、どう思いますか。はい、小森さん。

はい。ぼくは、黒田さんの意見にさんせいです。ぼくたちのかんしゃの気持ちも、よく伝えられると思います。

…

10

5

最後に、決まったことや、さらに話し合うことをたしかめる。

さんせいや反対など、自分の立場をはっきりさせる。

「分ける・くらべる」
9ページ

| 何をするか | 時間が かからない | 心がこもっているか |
|-------------|--------------|------------------------------|
| かんしゃじょうをわたす | ○ | ○ 全員がかんしゃの気持ちを一言ずつ書く。 |
| さつまいもを食べる | ○ | ○ みんなで協力して育てた物だから、心がこもっている。 |
| いっしょに遊ぶ | ○ | △ 楽しいけれど、かんしゃの気持ちは伝わらない。 |
| プレゼントを作る | △ | ○ 一人一人が作る。 |
| 歌を歌う | ○ | ○ 心をこめて歌う。 ○ 一生けんめいに練習する。 |

記録係が表で整理した例

議題や役わりを変えて何度か話し合おうと、話し合いへのさまざまな関わり方を経験けいできます。

4 話し合いのしかたについて、気づいたことを伝え合おう。

自分たちの話し合いのしかたでよかったところや、次に気をつけたことを伝え合ひましょう。

- ・司会グループの進め方
- ・提案者や参加者の発言のしかた

10

5



たいせつ

役わりをいしきしながら話し合う

〈司会グループの役わり〉

- 多くの参加者の意見が出るように、工夫して進行する。
- 出された意見や、どうやって決めるかななどを、黒板などで整理してしめす。

〈参加者の役わり〉

- 自分の立場を明らかにして、積極的に発言したりしつもんだりする。



いかそう

学級会などで何かを決めるときには、役わりをいしきして話し合ひましょう。

10

5



ふりかえろう

- 知る みんなの意見を整理するとき、どんなことがいちばん大事だと思いましたか。
- 話す・聞く 話し合いのしかたで、うまくできたことや、あまりできなかったことは何ですか。
- つなぐ 次の話し合いで、あなたが司会になったら、どんな進め方をしますか。

経験ケン
積極的キョク

司
シ

録
ロク

参
サン

加
カ

挙
キョ

協
キョウ

験
ケン

極
キョク

↓
157ページ

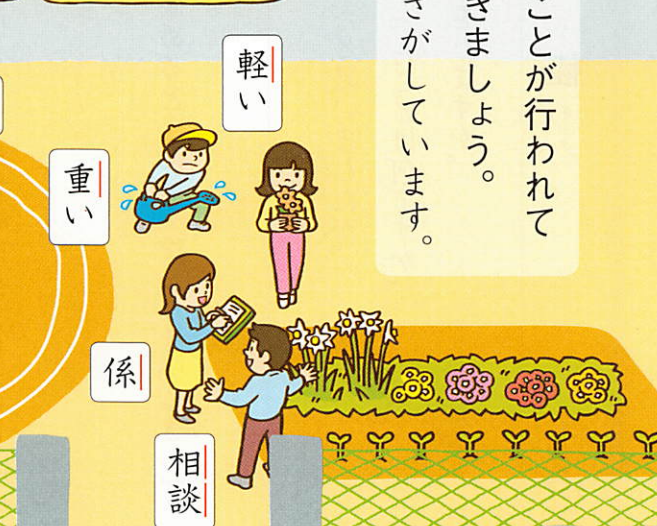
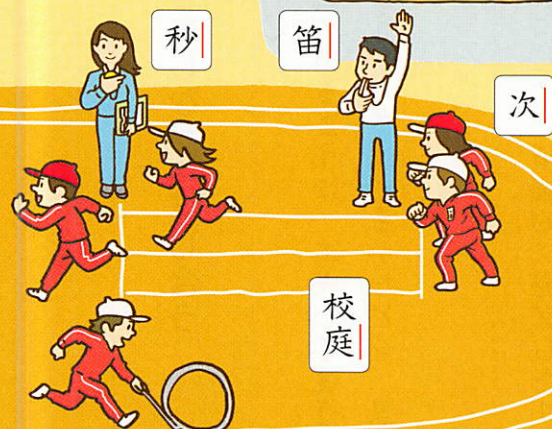


漢字の広場

3年生で
習った漢字

4

ある日の学校の様子です。どこで、どんなことが行われていますか。想像したことも加えて、文章に書きましよう。
〔例〕図書館で、女の子が、童話と神話の本をさがしています。





中心となる語や文を見つけて要約し、
調べたことを書こう

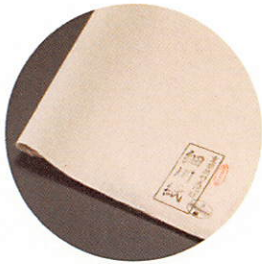
世界にほこる和紙

じょうほう

百科事典での調べ方

伝統とく工芸のよさを伝えよう

日本には、さまざまな伝統工芸があります。その一つである和紙について、筆者はどのように考えているでしょうか。また、みなさんのちいきには、どんな伝統工芸がありますか。



ほそかわし
細川紙 (埼玉県)



にぶたに
二風谷イタ (北海道)



くたにやき
九谷焼 (石川県)



よせぎざいく
寄木細工 (神奈川県)

これまでの学習

筆者の考えをとらえる

(思いやりのデザイン・アップとルーズで伝える)

上 58 ページ

事実を分かりやすく伝える

(新聞を作ろう)

上 95 ページ

世界にほこる和紙

二〇一四年十一月二十六日、和紙を作る日本の伝統的なぎじゅつが、ユネスコの無形文化遺産に登録されました。紙は、せんいというとても細かい系のようなものでできています。植物から取り出したせんいを、人の手によって、ていねいにかませて作る日本のわざが、世界にみとめられたのです。日常生活では、機械で作られた洋紙とよばれる紙を使うことが多くなりましたが、日本には、このすばらしいぎじゅつによって作られた和紙もあるのです。

10

5



伝統的なぎじゅつで和紙を作る様子

増田 勝彦
ますだ かつひこ

伝統工芸^{ゲイ}

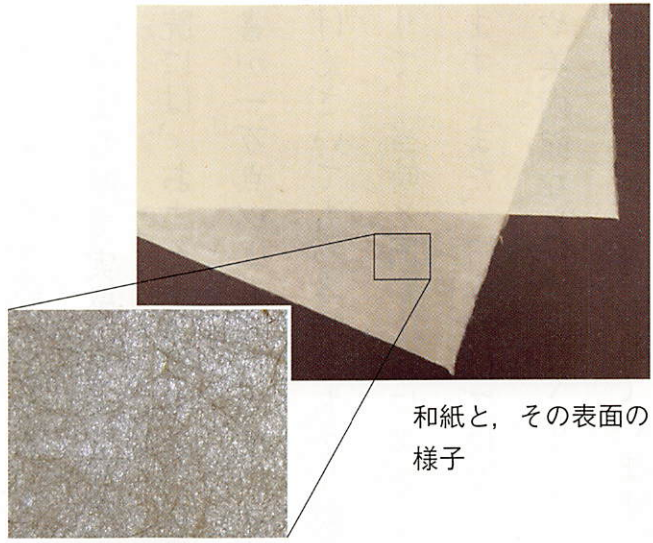
無形^ム

無形文化遺産

ユネスコという国際機関によって登録される、世界的に価値のある無形の文化。伝統工芸や芸能などが対象となる。

機械^{カイ}





和紙と、その表面の様子

わたしは、和紙のことをほこりに思っています。そして、より多くの人に和紙のよさを知ってもらい、使ってほしいと考えています。なぜなら、和紙には洋紙にはないよさがあり、和紙を選んで使うことは、自分の気持ちを表す方法の一つだからです。

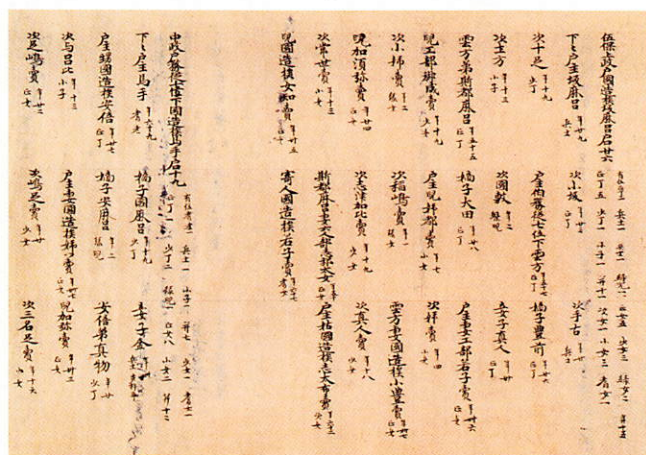
まず、和紙のよさについて考えてみましょう。和紙には、洋紙とくらべて、やぶれにくく、長もちするという二つのとくちょうがあります。

このようなちがいは、何によって生まれるのでしょうか。

紙のやぶれにくさは、せんいの長さのちがいが関係しています。紙は、そこにふくまれるせんいが長いほど、よりやぶれにくくなります。そして、洋紙と和紙をくらべると、和紙はとても長いせんいでできています。そのため、和紙は、洋紙よりもやぶれにくいのです。

紙が長もちするかどうかは、作り方のちがいによります。洋紙を作るときには、とても高い温度にしたり、多くの薬品を使ったりします。しかし、和紙を作るときには、洋紙ほど高い温度にすることはなく、薬品もあまり使いません。よりおだやかなかんきょうで作られている和紙は、時間がたっても紙の成分が変化しにくく、その結果、長もちするのです。

このような和紙のとくちょうは、国内外のさまざまな所で実感することができます。正倉院には、およそ千三百年前の和紙に書かれた文書が一万点以上ものこっています。それらは、げんざいでも、当時とあまり変わらない手ざわりで、当時と同じように文字を読むことができます。また、日本だけではなく、世界の博物館や美術館などで、古くからある絵画や手紙の修復に和紙が使われています。やぶれた所や、



正倉院に保管されている、702年に作られた文書

- 正倉院
- 奈良県の東大寺にある建物。古くから伝わる多くの宝物がしまっている。
- 以上
- 博物館
- 絵画

いたんでしまった作品全体に和紙をはりつけることで、何百年もの間、作品を元のすがたのままで保管し、人々に見せることができるのです。

もう一つ、わたしが、より多くの人に和紙を

使ってほしいと考えるのには、やぶれにくく、

長もちするということが以外にも理由があります。

かつては、ヨーロッパの国々でも、和紙とは原

材料がことなるものの、さかんに人の手によっ

て紙が作られていました。けれども、今では、

そのような場所は、一か国に、一、二か所ぐらいしかのこっていません。いっぽう、

日本には、人の手で和紙を作っている所が、今も、二百か所ほどあります。なぜ、

日本には、和紙を作っている所がこんなにもこっているのでしょうか。それは、

わたしたちが、和紙の風合いを美しいと感じ、自分の気持ちを表す方法の一つと

して、和紙を選んで使ってきたからなのではないかと考えています。

5



作品のうら全体に和紙をはる様子

10

保
管

今からおよそ千年前の平安時代^{へいあん}、短歌を書くときには、美しくかざられたきれいな和紙が使われていました。洋紙があるげんざいで、手紙を書くための便せんを買いに行けば、和紙でできたものもならんでいて、受け取る相手や伝えたい気持ちに合わせて、それらを選ぶ人がいます。

わたしは、自分のことをしようかいするめいしを和紙で作っています。かんとんにはやぶれない、長もちする和紙を使うことで、わたしたち相手との出会いを大切にしている気持ちを表しているのです。孫にお年玉をあげるときにも、和紙のふくろを使います。よりよろこんでもらいたいという思いから、ぬく

10

5



ほんがんじ ぼんさんじゅうろくにん かしゅう そせいしゅう
本願寺本三十六人家集(索性集)

平安時代に作られた短歌が書かれた本

○孫^{まご}

○便せん^{びん}

平安時代
七九四年、平安京
(今の京都府)に都
が置かれてから、約
四百年間の時代のこ
と。

もりのある美しい和紙を選ぶのです。

このように、和紙のもつよさと、使う紙を選ぶわたしたちの気持ちによって、長い間、和紙は作られ、さまざまなところで使われ続けてきたのだと、わたしは考えています。そして、和紙を作るぎじゅつは、世界にほこれる無形文化遺産になりました。みなさんは、今、洋紙だけでなく、和紙を選ぶこともできます。いつも同じものを使うのではなく、美しくかざりたいと思ったり、相手によるこんでもらいたいと考えたりして、紙を選ぶことは、とてもすてきなことです。みなさんも、世界にほこる和紙を、生活の中で使ってみませんか。

10

5



増田 勝彦

一九四二年、東京都生まれ。和紙について研究し、国内外で和紙について教えている。



見通しをもとう

中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書く

- 文章の組み立てをとらえ、中心となる語や文をたしかめて要約しましょう。
- 調べたことをもとに、自分の考えとその理由や例が伝わる文章を書きましょう。

とらえよう

- 文章全体の組み立てについて考えましょう。
- 筆者の考えが書かれている段落^{だん}を見つけて、全体を「初め」「中」「終わり」に分けましょう。
- 筆者は、考えの理由となることを二つ挙げています。それぞれの理由が説明されている段落を考えて、「中」を二つのまとまりに分けましょう。

5

ふかめよう

- 筆者は、「中」でいくつかの例を挙げています。何を説明するために、どのような例を挙げているでしょうか。ノートにまとめましょう。
- 文章全体を要約しましょう。

1

10

1 ノートの例

| | |
|--|--|
| 何を説明するためか | 例 |
| <ul style="list-style-type: none"> • 和紙はやぶれにくく、長もちすること。 | <ul style="list-style-type: none"> • 正倉院にのこっている和紙の例 |

2 まとまりごとに整理する例

| | |
|-----------|---|
| まとめり | 中心となる語や文 |
| ① 初め ② | <ul style="list-style-type: none"> • 和紙 • 洋紙 • より多くの人に和紙のよさを知ってもらい、使ってほしい。 |

10

5

ひろげよう

- 要約した文章を友達と読み合い、次のことについて、感じたことを伝え合いましょう。
- 要約のしかたについて
- 伝統工芸のよさについて

10

まとめよう

- 和紙以外にも、日本にはさまざまな伝統工芸があります。図書館などで本をさがして読み、伝統工芸のよさが書かれていると思う部分を中心に、内容を要約しましょう。

3

- 「初め」「中」「終わり」のまとめりに、中心となる語や文をたしかめましょう。

2

- 中心となる語や文を使って、「世界にほこる和紙」を二百字以内で要約しましょう。

「要約するとき」



上86ページ

5



たいせつ

要約する

- まとまりごとに、中心となる語や文をたしかめる。
- 分量を考えて、元の文章の組み立てをいかしたり、自分の言葉を用いたりして、短くまとめる。

5

- 3 伝統工芸について書かれた本

わくわく発見！日本の伝統工芸



竹でつくる



日本の職人 伝統のワザ ⑥ 工芸の職人



分量
リョウリョウ



じょうほう

調べるときに使おう

百科事典での調べ方

1 見出し語がのっている巻をさがす

百科事典で調べるときには、まず、調べた

事がらがのっている巻を見つけてみましょう。



背からさがす

背には、その巻ののっている見

出し語の、最初の文字がしるさ

れています。



「わがみ」の巻からさがす

「わがみ」の巻には、全ての

見出し語が五十音順にならべてあ

り、その見出し語がのっている

巻・ページがしめされています。

10

5

2 見出し語がのっているページをさがす

百科事典は、国語辞典のように、見出し語

が五十音順にならんでいます。「柱」や「つ

め」を手がかりにして、ページをさがしま

しょう。

柱

つめ

はじめ

わ

例えば、
て知
されて
府地区
川工業

わがみ

和紙の歴史、和紙の製造方法、和紙の用途、和紙の文化などについて詳しく説明しています。また、和紙の種類や特徴についても詳しく説明されています。

柱

柱の歴史、柱の製造方法、柱の用途、柱の文化などについて詳しく説明しています。また、柱の種類や特徴についても詳しく説明されています。

つめ

つめの歴史、つめの製造方法、つめの用途、つめの文化などについて詳しく説明しています。また、つめの種類や特徴についても詳しく説明されています。

はじめ

はじめの歴史、はじめの製造方法、はじめの用途、はじめの文化などについて詳しく説明しています。また、はじめの種類や特徴についても詳しく説明されています。

わ

わの歴史、わの製造方法、わの用途、わの文化などについて詳しく説明しています。また、わの種類や特徴についても詳しく説明されています。

5

わし **和紙** 日本に古くから伝わる製法でつくった紙。「わがみ」ともいう。**洋紙**に対することは、**コウゾ**、**ミツマタ**、**ガンビ**などの植物繊維を原料として、手すきでつくられる。紙をつくる技術は、7世紀までに中国から朝鮮半島をへて日本に伝えられたといわれ、そこから日本独自の技術が開発されていった。江戸時代には全国各地で特色ある和紙がつくられるようになった。

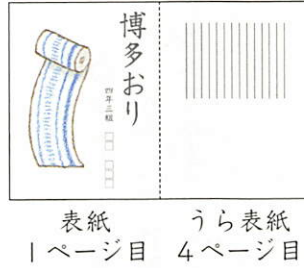
和紙は折ったり曲げたりひらいたりするくりかえしに強い。また、品質があまりかわらないことから、**ふすま**や**障子**などに用いられるほか、日本の**紙幣**にも和紙の技術がつかわれている。

和紙の歴史を詳しく知るには、**和紙の歴史**という本がおすすめです。

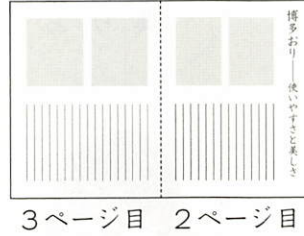
伝統工芸のよさを伝えよう

「世界にはこる和紙」は、和紙のみりよくについて、理由を挙げて書かれていました。ここでは、伝統工芸のよさについて調べ、理由や例とともにリーフレットにまとめ、友達に知らせましょう。

〈外がわ〉



〈内がわ〉



1 調べたい伝統工芸を決めよう。

身近なちいきにどんな伝統工芸があるかを調べ、きょうみをもつたものを選びましょう。「世界にはこる和紙」の学習で読んだ本や、社会の学習をふり返ってもいいですね。

5

●学習の進め方

1 調べたい伝統工芸を決める。
くわしく調べて、整理する。

3 組み立てと資料の使い方を考える。

4 説明する文章を書く。

5 リーフレットを読み合う。

リーフレット
説明やせんでんなどを記した紙で、二つ折りでいどのかんたんなもの。

2 くわしく調べて、整理しよう。

選んだ伝統工芸についてくわしく調べ、分かったことを書き出します。調べるときには、下のように、目的におうじて必要な本や資料を使いましょう。

「博多^{はかた}おり」は、きぬおりものなんだ。「きぬおりもの」について、百科事典で調べてみよう。



書き出したものを整理し、友達によさを伝えるのにふさわしい理由や例を考えましょう。

3 組み立てと資料の使い方を考えよう。

調べた伝統工芸のよさを説明する文章を、リーフレットの二ページ目と三ページ目にのせます。どうす

5

■目的におうじた資料の選び方

● 調べたいものについておおまかに知ったり、それに関わる他の事がらを調べたりするとき。
例：「博多おりはどんな伝統工芸か。」

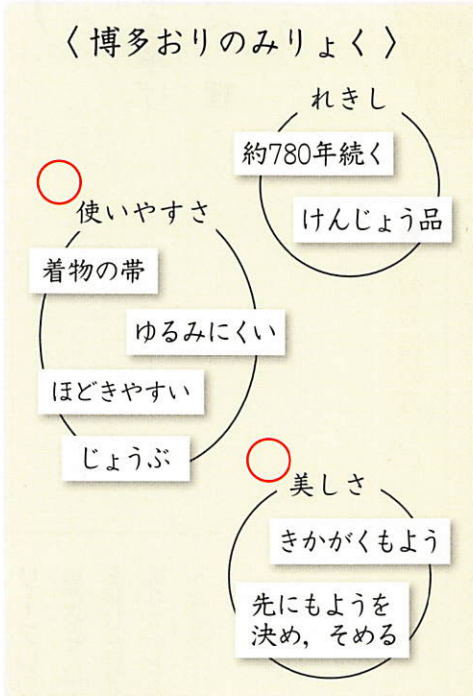
「きぬおりものには、他にどんなものがあるか。」
↓さまざまな伝統工芸がのっている本、百科事典

● 調べたいものについて、くわしく調べるとき。

例：「博多おりは、どうやって作られるか。」

↓ 調べたい伝統工芸の本やパンフレット、見学記録

■よさについてまとめた例



10

5

れば分かりやすく説明できるかを考えましょう。

•どんな組み立てにするか。

•写真や絵などをどのように使うか。

組み立てを考えたたら、友達と読み合い、気づいたことを伝え合いましょう。

4 説明する文章を書こう。

考えた組み立てにそって、説明する文章を書きます。そのとき、理由や例を挙げているまとめまりが読み手に伝わるように気をつけましょう。また、参考にした本などは、出典として文章の終わりにまとめましょう。文章が書けたら、分かりにくいところがないかをたしかめます。表紙やうら表紙も作りましょう。

〈表紙〉 伝統工芸の名前、写真や絵。

〈うら表紙〉 伝統工芸をしようかいするしせつのじよ

うほうなど、他に知らせたいこと。

■組み立ての例

| 終わり | 中 | 初め |
|------------|--|--|
| <p>まとめ</p> | <p>みりよく 2 「美しさ」について</p> <ul style="list-style-type: none"> •先にもようを決め、糸をそめてから、おる。(写真③) •細かいきかがくもよう。(写真④) | <p>博多おりの説明</p> <p>博多おりには、さまざまなみりよくがある。</p> <p>みりよく 1 「使いやすさ」について</p> <ul style="list-style-type: none"> •ゆるみにくく、ほどきやすい。(写真①) •着物の帯に使われる。(写真②) •ぶしが刀を差すときの帯にした。 |

参考
コウ

出典

引用したり参考にし
たりした本や資料の
こと。
 164
ページ

博多おり——使いやすさと美しさ

2



①表面の様子



②博多おりの帯

博多おりは、福岡県で作られている、きぬおりものです。きぬおりものとは、かいこのまゆからとった糸で作るおりもので、全国で作られています。ここでは、博多おりのみりよくをしようかいたします。

その一つは、「使いやすさ」です。博多おりは、写真①のように、表面に波のようなでこぼこがあります。このつくりのために、結んだときにゆるみにくく、ほどきやすいのです。その使いやすさから、例えば、昔は、ぶしが刀を差すときの帯にしたそうです。今でも、着物の帯などによく使われています。(写真②)

また、「美しさ」も博多おりのみりよくです。博多おりは、もようを先に決め、それに合わせ

15

10

5



たいせつ

理由や例を挙げて
考えを伝える

- 伝えたいことを考えて、調べたことを整理する。
- 理由や例と、伝えたいこととの関わりが分かるように書く。



いかそう

理由や例を挙げて説明するときには、伝えたいこととの関わりをはっきりさせましょう。

10

5

芸
ゲイ

無
ブム
ない

械
カイ

以
イ

博
ハク

管
カン
くだ

便
ベン
たより

孫
ソン
まき

量
リョウ
はかる

158
ページ



ふりかえろう

- 知る
- 読む
- 書く
- つなぐ

どんなことに気をつけて、資料を使ったり整理したりしましたか。
 どの言葉や文に注意して、文章を短くまとめましたか。
 理由や例を挙げるとき、どんなことに気をつけましたか。
 何かのよさを伝えるときには、どんなことに気をつけたいですか。

5 リーフレットを読み合おう。

友達と読み合い、分かりやすく書いているところを伝え合いましょう。



④きかがくもよう



③おる様子

て糸をそめて、おっていきます。(写真③) そのため、写真④のように、細かい図形がならんだ「きかがくもよう」の美しさを楽しむことができます。

このように、博多おりは、とてもみりよくのあるおり物なのです。

〈参考〉

島崎春子「博多おりの美しさ」ひかり社、二〇二〇年

「博多おりパンフレット」博多工芸館、二〇一八年

「小学百科事典」林図書、二〇一七年

3

10

5



「例えば」という言葉が使っているから、例が挙げられていることが分かるね。

慣用句かんく



「羽をのばす」という言葉は、ここでは、自由にのびのびするという意味で使われています。

このように、いくつかの言葉が組み合わせられて、新しい意味をもつようになった決まり文句を、慣用句といいます。

慣用句には、体や心に関する言葉、動物や植物に関する言葉をふくむものがたくさんあります。また、かたかなで書く言葉が入ったものもあります。次の慣用句の意味を、国語辞典などを使って調べてみましょう。

借
かりる

仲
なか

底
そこ

浅
あさ

焼
やく



国語辞典を作る人になったつもりで、
下の慣用句の例文を作りましょう。

- ① 慣用句の意味を調べ、例文を作る。
- ② 友達とこうかんして、慣用句の使い方
が正しいかをたしかめ合う。

- 仲を取りもつ
- えりを正す
- 底が浅い
- 水に流す
- 世話を焼く

5

● 体や心

頭をひねる 心がおどる

● 動物

借りてきたねこ 馬が合う

● 植物

うり二つ 実を結ぶ

● かたかな

エンジンがかかる メスを入れる

よく使われる慣用句は、国語辞典で調べられるよ。



うま【馬】名 顔や首が長く、たてがみがあり、力が強くて走るのが速い動物。
▼馬が合う 句 おたがいの気持ちがあしっくりいく。気が合う。例 君とぼくは馬が合う。

○借りる ○仲 ○底 ○浅い ○焼く

慣用句の中には、時代に合わなくなつたものや、使い方によって相手をいやな気持ちにさせるものもあります。気をつけて使しましょう。

声に出して楽しもう

短歌・俳句に親しまおう(二)

声に出して読み、言葉の調子やひびきを楽しみましょう。作品に表された風景を想像してみましよう。

晴れし空^{あお}揚げばいつも

晴れた空を見上げると、いつも口笛を吹きたくなって、

口笛を吹きたくなくなりて

それを吹いて遊んでいた。

吹きてあそびき

石川 啄木

金色のちひさき鳥のかたちして銀杏^{いちよう}ちるなり夕日の岡に 与謝野 晶子

金色にかがやく小さな鳥のような形をして、銀杏の葉が散っている。夕日の差す岡の上に。

● 金色

ゆく秋の大和の国の薬師寺の塔の上なる一ひらの雲

佐佐木 信綱

秋も終わりのころの大和の国（今の奈良県）にある薬師寺。その塔を見上げると、すんだ空に一片の雲がうかんでいる。

柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺

正岡 子規

柿を食べていると、ちょうどそのとき、鐘の音がひびいてきた。ああ、法隆寺の鐘だ。

桐一葉日当たりながら落ちにけり

高浜 虚子

桐の葉が一まい、秋の日の光に照らされながら、落ちた。

外にも出よ触るるばかりに春の月

中村 汀女

外に出てごらんさい。手をのばせばさわれそうな、大きな春の月が出ているよ。





漢字の広場

3年生で
習った漢字

5



休日の様子です。絵の中の言葉を使って、どこで、どんな人が、何をしているのかを書きましよう。
 〈例〉二階では、お兄さんが、漢字の勉強をしています。



読む

登場人物の変化を中心に読み、
物語をしようかいしよう

プラタナスの木

3

この物語に出てくる「マーちゃん」たちは、
みなさんと同じ四年生です。「マーちゃん」た
ちは、だれと出会い、どのように変わってい
くのでしょうか。

これまでの学習



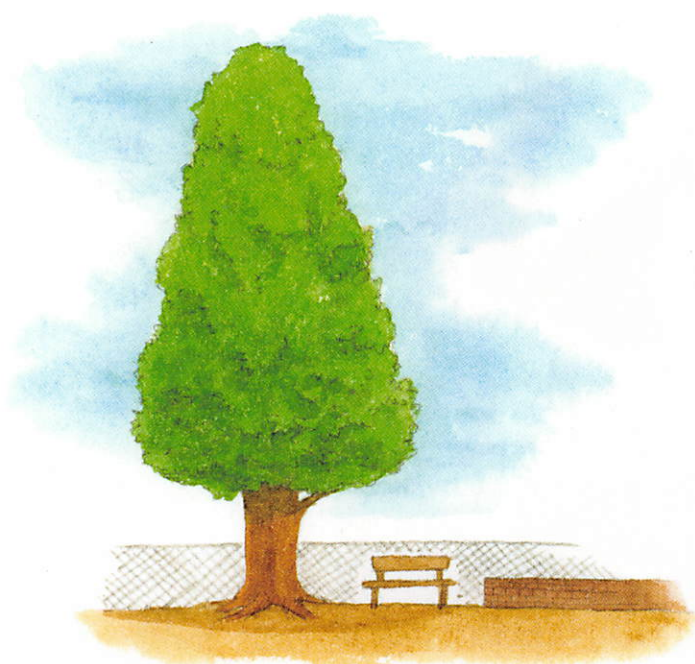
場面と場面のつながりを考える

(白いぼうし) ……………

上 28 ページ



話し合って、考えを深める (ごんぎつね) …… 32 ページ



プラタナスの木

マーちんといつも遊んでいる仲間は、せいの高い花島君はなじまとハイソックスが好きなクニスケ。それに、アラマちゃんだ。本当は荒井あらいさんというのだけれど、口ぐせが「あらま」。だから、いつのまにか、そうよばれるようになった。四年生になって、クラスは別々になったけれど、それまではずっと同じクラスで、家も近かったからいまだに仲よしだ。

マーちんたちが集まる場所は川ぞいの公園で、バスケットコートぐらいの広さしかない。公園は、何も植えられていない花だんとかこまれていて、古

10

5



椎名 誠しいな まこと 作
中島 梨絵なかじま りえ 絵

い大きなプラタナスの木が一本だけ生えているので、プラタナス公園とよばれている。中学生や幼児連れの母親などはめったにこないから、マーちゃんたちは、自分たちの遊びができた。水飲み場があるのも助かるけれど、何よりうれしいのは、この公園では、時間によってボール遊びができることだった。他の公園では、ボール遊びは禁止なのだ。

最近熱中しているのは、サッカー。リーダーはクニスケだ。クニスケは、サッカーをするときには、ハイソックスの中にすね当てを入れる。本格的なのだ。二人がゴールキーパーと守りになり、二人がドリブルやパスをしてせめる。花だんと花だんの間にニメートルぐらいの空間があつて、そこがゴールだ。

つゆ明けのころからだろうか、プラタナスの木の下にある、古い小さなベンチにおじいさんがやって来て、にこにこしながら、マーちゃんたちのサッカーをながめているようになった。

試合が白熱してくると、ときどきパスやドリブルのコースが外れて、プラタナ

スの木の下にボールが転がっていくことがある。そういうとき、おじいさんは、こしをかがめてボールを大切そうにつかみ、そのままじっとしている。

「こうしていないと、どっちかが有利になってしまいかもしれないからね。」
おじいさんは、そう言って笑う。

そのうちに、マーちゃんたちとおじいさんはだんだん親しくなり、サッカーにつかれると、みんなプラタナスの木の下に集まって、おじいさんと話をするようになった。おじいさんが「みんな水をもっとたくさん飲んで、少し日かげに入って休まないと熱中症しやうになるよ。」と言ったのがきっかけだった。太陽の光が夏に向かってずんずん強くなり、大きな葉のプラタナスの木の下が、とてもよい日かげになるのだ。

おじいさんの話はいつもおもしろかった。

ある日、おじいさんは不思議なことを言った。

「このプラタナスの木が、さか立ちしているところを考えたことがあるかい。」

「あらま。木がさか立ち。」

有利り
笑わらう

アラマちゃんが、いつものようにおどろいた。

「そう。この木がさか立ちするだろう。すると、木のみきや枝葉えだと同じぐらいの大きさの根が出てくるんだよ。木というのは、上に生えている枝や葉をささえるために、土の中でそれと同じぐらい大きな根が広がって、水分や養分を送っているんだ。」

「どの木もみんなそうなんですか。」

今度は、花島君がマーちんの頭ごしにきいた。
「たいていの木は、大きな根が地面の下にぎっしり広がっているのさ。だから、このプラタナスの木が公園全体を守っている、といってもいいくらいだ。もし、地上のみきや枝葉がなくなったら、根は水分や養分を送れなくてこまってしまうんだ。」
マーちんと花島君とクニスケは「ふうん。」と同じ

10

5



ような声を出したが、アラマちゃんはやっぱり「あらま。」と言った。

それにしても、木の根がこまってしまっなんて、初めて聞く話だ。おじいさんの話を聞いていると、おじいさんは、公園のできるずっと前からプラタナスのことを知っているみたいだ。

夏休みに入るとすぐ、花島君とクニスケはお母さんのふるさとに帰省し、アラマちゃんは、家族と海外旅行に出かけてしまった。一人残ったマーちゃんがプラタナス公園に行くと、いつものようにおじいさんがやって来て、ベンチにすわった。マーちゃんは、自分ももうすぐお父さんのふるさとに行くので、夏休みが終わったら、またみんなで来るから、と言った。

「お父さんのふるさとには、木がいっぱいあるだろう。みんなによろしく。」

おじいさんは、にっこり笑った。

夏休みも半ばというころ、マーちゃんは、祖父母の家^そにいた。家の周りには森が広がっている。森にはいろいろな木や草が生え、鳥やせみの声が満ちていた。森と

○周^{まわ}り
●祖^な父^な母^な
●父^な母^な

○残^{のこ}る
○帰^き省^{せい}

森の間には小川が流れ、小さな魚が、ときどき白いはらを見せてきらりと光った。マーちゃんは、この森の中で毎日走り回って遊んだ。

マーちゃんが祖父母の家に来て一週間ほどたったある日、大きな台風が森をおそった。森はおこったようにゆれ、小川は濁流だぐとなってあばれた。鳥やせみも、どこかにすがたを消した。テレビは、今年いちばんの強い台風だと伝えている。早々とふとんに入ったマーちゃんは、ゴーゴー鳴りひびく台風の音を聞きながら、プラタナス公園のおじいさんの顔を思いうかべた。最初ははっきりしていたおじいさんのえがおが、しだいにぼんやりとしていく。マーちゃんは、いつしか深いねむりに落ちていった。

一夜明けると、台風は通りすぎていた。青く晴れ上がった空の下で、あんなにゆれていた森は、今は静かに太陽の光を受けてぴかぴかかがやいている。小川はまだ濁流のままだったけれど、鳥やせみはうれしそうに鳴き始めている。マーちゃんは、おじいさんの言葉を思い出した。森の一本一本の木の下には、それと同じぐらい大きな根が広がっている。マーちゃんには、なぜか今、それがはっきりと

見えるような気がする。だから、強い風がふいても木はかんとんにはたおれたりしないし、森もくずれたりしないのだ。一本一本の木とその根が、ずっと昔から



森全体を守り、祖父母の家だって守ってきたのだ。

長い夏休みが終わり、新学期が始まった。

プラタナス公園の異変を最初に知らせてくれたのは、ハイソックスをずり落としながら走ってきたクニスケだった。プラタナスの木がなくなっている、というのだ。放課後、四人はプラタナス公園に走った。

本当だった。マーちゃんが、お父さんのふるさとで台風にあっていたころ、当然だけれど、この公園も台風におそわれていたのだ。近所の人に聞くと、プラタナスがたおれかかってきけんだったのだという。マーちゃんたちがいない間に、大きなプラタナスは切りかぶだけを残して消えてしまっていた。その横には、強い日

を浴びて、ベンチがぼつんと置かれている。

公園は、立ち入り禁止になっていた。

「根は、ほられてはいないみたいだ。でも残った根っこはきつとこまっているんだらうね。」

花島君が、かたを落として言った。アラマちゃんは、いつもの口ぐせを言わずにだまっている。

立ち入り禁止がとけて、また、マーちゃんたちは、公園に遊びに行くようになった。木が切られてから、おじいさんは公園にすがたを見せなくなっていた。サツカーも前ほど白熱しなくなり、マーちゃんたちは、おじいさんがいつもすわっていた、日かげのなくなったベンチにだまってすわりこんだ。だまっているけれど、みんなが何を考えているかは分かる。

そんなある日、ベンチにすわっていたマーちゃんは、思いついたように、プラタナスの切りかぶの上に立ってみた。今でも地下に広がっている根のことを想像ぞうしていたら、そうしたい気持ちになったのだ。

花島君が不思議そうに見ていたので、

「おいでよ。なんだか、根にささえられているみたいだよ。」

と言うと、花島君だけではなく、クニスケもアラマちゃんも切りかぶに乗ってきた。

せいの高い花島君を真ん中にして、両手を広げてプラタナスの切りかぶに乗っている、みんなが木のみきや枝になったみたいだ。

プラタナスは切りかぶだけになったけれど、ぼくたちのプラタナス公園は変わらない。春になれば、プラタナスも芽を出すだろう。そうすれば、きっとまた、おじいさんにも会える。それまでは、ぼくたちがみきや枝や葉っぱの代わりだ。そう思いながら、マーチンは大きく息をすって、青い空を見上げた。



○芽め

椎名誠

一九四四年、東京都生まれ。作家、映画かんたく。「岳物語」「大きな約束」などの作品がある。





見通しをもとう

登場人物の変化を中心に読み、物語をしようかいしよう

- ・登場人物の気持ちや想像できる言葉に着目しましょう。
- ・登場人物の変化とそのきっかけについて、考えながら読みましょう。

とらえよう

●「プラタナスの木」は、一行空気で五つの場面に分かれています。言葉や表現に気をつけながら読み、それぞれの場面の様子や出来事をたしかめましょう。

1

ふかめよう

- 物語の最初と最後で、「マーちゃん」はどう変わりましたか。それは、どの言葉や表現から分かりますか。
- プラタナスの木への思い
- ものの見方や考え方
- 「マーちゃん」が変わるきっかけとなった出来事は、何だと思いますか。それがきっかけだと考える理由とともに、友達と話しましょう。

●最後の場面で、「マーちゃん」は、どんなことを感じ

10

5

1 ノートの例

| 場面 | 様子や出来事 |
|----|---|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・最近、マーちゃんたちは、プラタナス公園でサッカーに熱中している。 |

2 考えを伝え合うときの言い方の例

「マーちゃん」は、「おじいさん」がすわっていたベンチにすわりこんでいたとき、——と考えていたんじゃないかな。だから、プラタナスの切りかぶの上に立ったときには、——と感じたと思うよ。



5



ふりかえろう

- 知る
- 読む
- つなぐ

登場人物の気持ちは、どんな言葉や表現に表れていましたか。

「マーちゃん」の気持ちや考え方は、何をきっかけに、どう変わりましたか。

物語のみりよくをしようかいるときには、どんなことに気をつけたいたですか。



ひろげよう

●登場人物の変化を中心に、「プラタナスの木」のみりよくをしようかいる文章を書きましょう。友達と読み合って、「いいな。」と思ったところや、まねしてみたいところを見つけましょう。

3

10

まとめよう

●「プラタナスの木」という物語のみりよくは、何だと思えますか。ノートにまとめましょう。

●「マーちゃん」たちは、また、「おじいさん」に会えると思えますか。理由とともに話しましょう。

2

ていたと思えますか。想像して、友達と話しましょう。

3 しようかいる文章の例

「プラタナスの木」という物語には、「マーちゃん」という人物が出てきます。最初は、
——だった「マーちゃん」は、
——や——という出来事を通して——。

最後まで読むと、——な気持ちになりました。ぜひ読んでみてください。



登場人物の変化と、
出来事の間係をとらえる

- 場面のうつり変わりに気をつけて読み、登場人物の気持ちや考え方が表れている部分を見つめる。
- それらを結びつけたり関係づけたりして、どう変化したのかを想像する。
- 人物の変化に、どんな出来事かどのような関わっているのかを考える。



自分と同じくらいの年の人物が出てくる物語を読むときには、人物の変化を、自分と照らし合わせながら読みましょう。

10

5

この本、読もう

みなさんと同じくらいの年の人物が出てくる物語です。どれを読んでみたいですか。



百まいのドレス
いつも同じ服を着ているワンダは、家には百まいのドレスがあると云いますが、だれも信じてくれません。

15



雨ふる本屋
ルウ子が入った雨ふる本屋には、わすれられた物語の種が、「ゆめの力」で本になるのを待っています。

10



雨やどりはすべり台の下で
みんなの不思議な思い出話の中に、必ず出てくる人——雨森^{あまもり}さんは、もしかしたらまほう使いかもしれません。

5

利
リ

笑
わらう

省
セイ
シヨウ
ウ
はぶく

残
ザン
のこる
のこす

周
シユウ
まわり

課
カ

然
ゼン
ネン

浴
ヨク
あびる
あびせる

芽
めガ

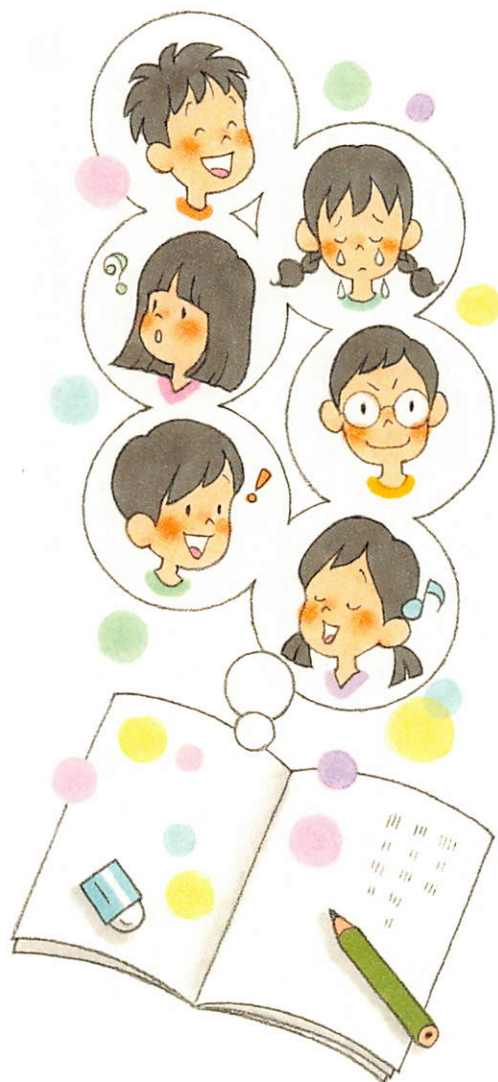


書く

心の動きを言葉にして、詩を書こう

感動を言葉に

毎日の生活の中での出会いや発見、感動を、詩にしてみましよう。詩は、短い文で、そのときの思いを言葉にしたものです。短いからこそ、伝えたいことをよりすぐり、表現を工夫（げん）しましょう。



● たしかめよう

「四年上までの学びをたしかめよう」
↓ 6ページ

● 学習の進め方

決めよう
集めよう

組み立てよう

書こう

つなげよう

● ふりかえろう

1 詩に書きたいことを決める。

2 詩の組み立てを考える。

3 言葉を選んで、詩を書く。

4 友達の詩の工夫を見つける。

1 詩に書きたいことを決めよう。

あなたは最近、何に心を動かされましたか。思い出して、詩に書きたいことを選びましょう。

■題材の例

- 考えたこと
- 見たこと
- 思ったこと
- 聞こえたこと
- したこと
- うれしかったこと
- くやしかったこと
- がんばっていること

2 詩の組み立てを考えよう。

詩は、ふつうの文章とはちがう改行のしかたをしていたり、連に分けて書かれたりします。また、一行だけの詩もあります。選んだ題材を、どのような詩にしたいか、考えてみましょう。

3 言葉を選んで、詩を書こう。

心を動かされたときのことを、言葉や短い文でたくさん書き出しましょう。その中から、あなたの気持ちが伝わる言葉を選

▼どんな工夫があるか、考えてみましょう。

ニンジン

おふるあがり

まど・みちお

およぐ

みずがいやだって ぼくはないた
そしたら めから なみだがでてきた
へんだな ぼくのなかにも
みずがある

たにかわしゅんたろう
谷川 俊太郎

みずがこわいって ぼくはないた
そしたら のどが かわいてきて――
へんだな みずが
のみたくなっちゃった

○改行^{カイ}

んだり、言葉と言葉を組み合わせたり、言葉の順序じょを入れかえたりして、整えていきます。

詩でよく使われる、次のような書き方も、使ってみましょう。

●あるものを、他のものにとえる。

●同じ言葉や文をくり返して、調子を整える。

●様子を表す言葉を使う。

書いたら読み返して、心が動かされたときのこと伝わる表

現になっているかをたしかめましょう。

4 友達の詩の工夫を見つけよう。

詩を読み合い、書き方の工夫を伝え合ひましょう。

10



ふりかえろう

知る

心の動きを表すときに、どんな言葉や表現を使いましたか。

書く

詩を書いた後、どんなことに気をつけて読み返しましたか。

つなぐ

友達の詩で、「こんな工夫をしてみたい」と思うものがありましたか。

改

カイ
あらためる
あらたまる



たいせつ

読み返して、
書いたものを整える

●自分の思いが読む人にも伝わるかを考える。

●他の言葉や言い方がないかを考える。

●言葉の順序や調子を変えると、作品の印象しやうが変わることがある。



いかそう

詩や物語を書くときだけでなく、手紙など、気持ち伝える文章を書くときにもいかしましょう。

10

5



159
ページ

十二月

師走しわす

冬の楽しみ

行事は、ちいきによって行い方や時期がちがいます。あなたのちいきの冬の行事に関する言葉を入れた、かるたを作りましょう。クラスやグループでかるた取りを楽しんでもいいですね。

ししまいだ
頭かまれて
元気な一年



・冬至とうじ

◆正月事始め (十三日)

正月に向けたじゆんぴを始める日。

もちつき



◆冬至じ (二十二日ごろ)

一年で最も昼の時間が短い日。

大そうじ

かぼちや

すすはらい



ゆず湯



◆大みそか (三十一日)

年こしそば



じよやのかね



一月

睦月 むつき

◆お正月

元旦 がんたん

新春

初日の出

初ゆめ



おせち

ぞうに

ぞうには、ちいきによって、味つけやもちの形、具がちがいます。



京都府



岩手県



香川県



東京都

◆七草がゆ (七日)



春の七草

せり

なずな

ごぎょう

はこべら

ほとけのぎ

すずな

すずしろ



二月

如月 きさらぎ

◆節分 (三日ごろ)

豆まき

福は内

おには外



わがこゑののこれる耳や福は内

飯田 いだ 蛇笏 だこく



詩の楽しみ方を見つけよう

自分だけの詩集を作ろう

三つの「月」の詩を、読み味わいましょう。言葉の使い方や書き方から、月のどんな様子が思いうかぶでしょうか。

まんげつ

みずかみかずよ

月

こやま
峰子みねこ

でっかいつきだ

雲のうんだ たまご

セメントこうばの えんとつおして

のん のん のん のん

ぼくのかたにのっかりそうだ

つき

たにかわしゆんたろ
谷川俊太郎

つきに いかないか

ぼくと いっしょに

つきに いかないか

おだんご もって

つきに いかないか

はらが たつとき

つきに いかないか

ちきゆうを ながめに

5

▼ 次のようにして、自分だけの詩集を作りましょう。

① テーマを決めて、詩を集める。

・「冬の詩」「食べ物の詩」など、取り上げている
事がらに共通点があるものを集める。

・ 同じ詩人の詩を集める。

・ 言葉や書き方のおもしろい詩を集める。 など

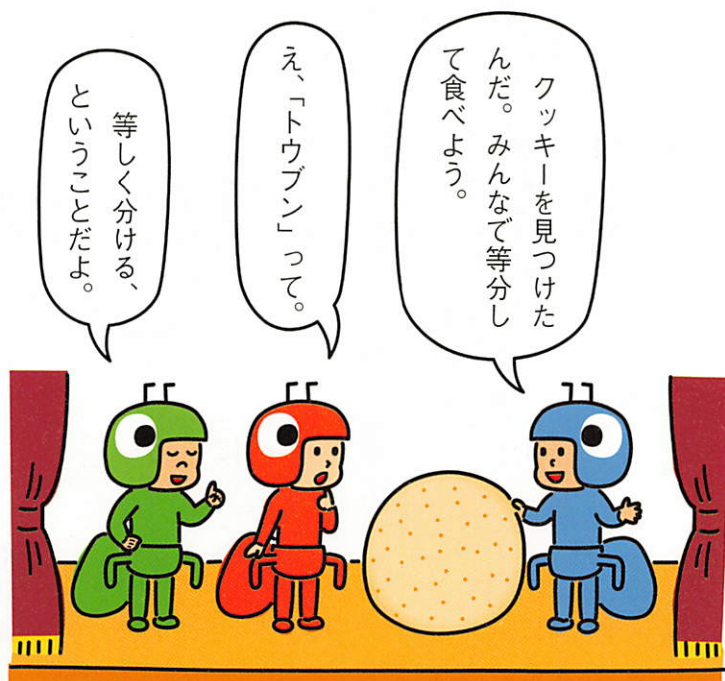
② 集めた中から、のせる詩を決め、順番を考えて
ならべる。

③ 表紙や目次をつけて、本にする。

この詩を集めた理由を、
最後のページに書こうかな。



訓を手がかりにする



二字以上の漢字の組み合わせでできた言葉を、熟語といいます。熟語には、「等分」―「等しく分ける」のように、「訓で読むと意味の分かるものがあります。

例えば、「改良（カイリヨウ）」という熟語は、「改（あらためる）」と「良（よい）」の組み合わせで、「改めて良くする」という意味を表します。

1 訓を手がかりにして、次の熟語の意味を考えましょう。

- 木刀
- 無色
- 流星
- 竹林
- 同時
- 人力
- 深海
- 伝言

漢字の組み合わせを手がかりにする

熟語には、次のような漢字の組み合わせ

せてできたものがたくさんあります。

①にた意味をもつ漢字の組み合わせ

・加入（加わる・入る）

・願望（願う・望む）

・消失（消える・失う）

・周辺（周り・辺り）

②反対の意味をもつ漢字の組み合わせ

・高低（高い・低い）

・勝敗（勝つ・敗れる）

・売買（売る・買う）

・強弱（強い・弱い）

願 ガシ
ねがう

失 シツ
うしなう

辺 ヘン
あたり

低 テイ
ひくい
ひくめる

敗 ハイ
やぶれる

老 ロウ
おいる

束 ソク
たば

票 ヒョウ

陸 リク

10

5

③上の漢字が、下の漢字を修飾する関係にある組み合わせ

係にある組み合わせ

・前進（前に進む）

・老木（老いた木）

④「―を」「―に」に当たる意味の漢字が

下に来る組み合わせ

・読書（書を読む）

・開票（票を開く）

・帰国（国に帰る）

②漢字の組み合わせを手がかりにして、

次の熟語の意味を考えましょう。

・明暗

・白紙

・岩石

・消火

・登山

・軽重

・運送

10

5

願望 消失 周辺 高低 勝敗 売買 老木 花束 開票 着陸 岩石 右折



漢字の広場

3年生で
習った漢字

6

絵の中の言葉を使いながら、一年間の出来事を、

学級新聞の記事にしましょう。

〈例〉 新学期になり、四年生に進級した。始業式では、

校長先生のお話をしっかり聞いた。





読む

きょうみをもったことを中心に、
しようかいしよう

ウナギのなぞを追って

4

身近な生き物のことでも、よく分かっていないことはたくさんあります。ウナギには、どんななぞがあるのでしょうか。

これまでの学習

筆者の考えをとらえる

(思いやりのデザイン・アップとルーズで伝える)

上 58 ページ

要約する (世界にはこる和紙) 51 ページ



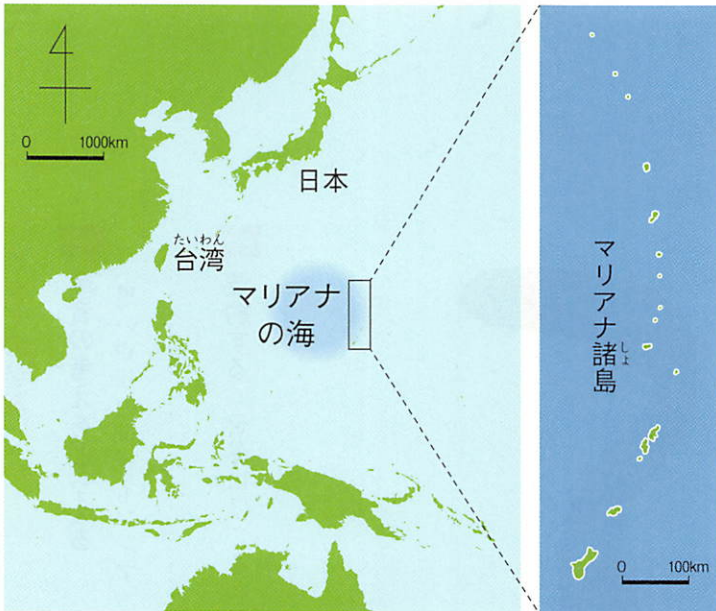
てらこし けいじ (寺越 慶司 絵)

ウナギのなぞを追って

塚本 勝巳

今年もマリアナの海にやって来ました。日本から真南に二千キロメートル、周りに島一つ見えない海の真ん中です（図一）。毎年のようにここにやって来るのは、ウナギがどんな一生を送る生き物なのかを調査するためです。あざやかなぐんじょう色の海は、白い船体を青くそめてしまいうそうです。

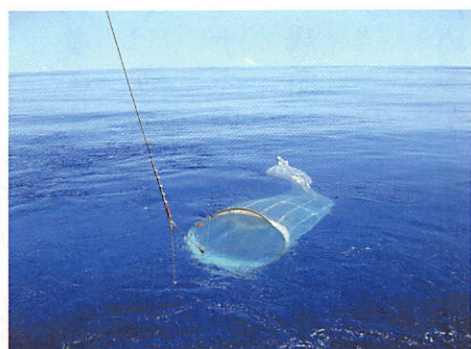
5



図一

ウナギ

ここでは、日本や中国、台湾、韓国に分布するウナギ（ニホンウナギ）を指す。



ウナギは、日本各地の川や池にすんでいます。それなのに、なぜ、はるか南の海にまで調査に来るのか、不思議に思う人もいるでしょう。実は、ここが、日本中のウナギが集まってきて、いっせいにたまごを産む場所なのです。ここで生まれたウナギの赤ちゃんは、海流に流され、しだいに成長しながら、はるばる日本にやって来ます。

ここがその場所だと分かったのは、つい最近のことです。それまでウナギの生態は深いなぞに包まれていたのです。その研究の第一歩として、たまごを産む場

5

○各地

○産む

海流

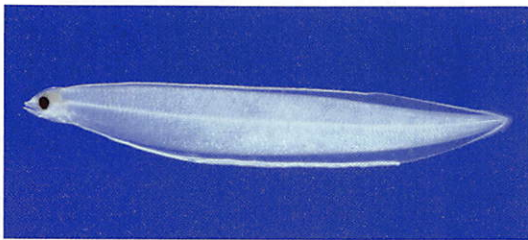
決まった方向へ進む、
海水の流れのこと。

所を見つける調査が始まったのは、一九三〇年ごろのことでした。それからこの場所がつき止められるまでに、実に八十年近くの年月がかかったのです。

たまごを産む場所をさがす調査は、より小さいウナギを追い求めることから始まりました。調査では、目の細かい大きなあみを使って、海の生き物を集める作業をくり返します。あみの中には、さまざまな色や形の小さな生き物が入ります。この中から、レプトセファルスとよばれる、ウナギの赤ちゃんをさがすのです。レプトセファルスは、とうめいで、やなぎの葉のような形をしています（図2）。海の中でしずみなく、海流に乗って運ばれやすくなっているのです。

ウナギのレプトセファルスが最初にとれたのは、一九六七年、場所は、台湾の近くの海でした。体長は五十四ミリメートル。この大きさと、生まれてからだいぶ時間がたっているため、かなりのきよりを海流で流されてきたものと思われる

図2



追もとい求める

レプトセファルス
ウナギなどが、親と
ちがう形をしている
ときのよび名。ウナ
ギのレプトセファル
スは、もう少し成長
して形が変わると、
「シラスウナギ」と
よばれるようになる。

ました。このレプトセファルスが生まれた場所は、海流をもっとさかのぼった先にあると考えられました。

わたしがこの調査に加わるようになったのは、一九七三年のことです。調査グループは、さらに小さなレプトセファルスを求めて、調査のはんいを南へ、そして東へと広げていきました。レプトセファルスは、海流に乗って運ばれます。海流の上流に行くほど、小さいものがあるはずで、予想どおり、とれるレプトセ



図3

ファルスの体長は、四十、三十、二十ミリメートルと、しだいに小さくなっていき、ました(図3)。

そして、一九九一年には、マリアナ諸島の西、北赤道海流の中で、十ミリメートル前後のレプトセファルスを、約千びきとることができたのです。レプトセファルスの体の中には、木の年輪にた、

北赤道海流
セキ

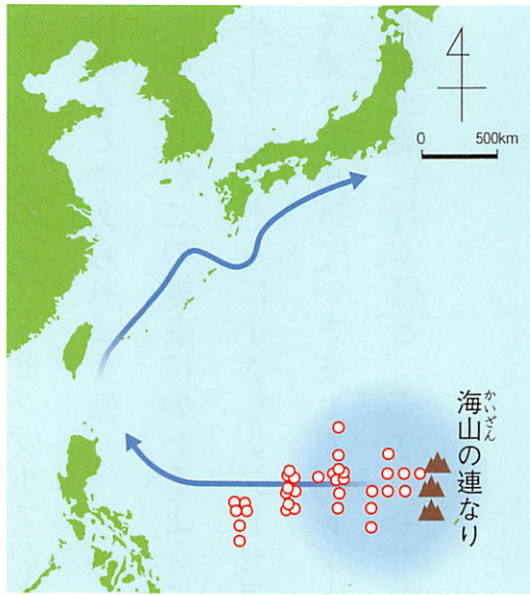


図 4

一日に一本ずつふえる輪のできる部分があります。その輪を数えれば、生まれてから何日たっているかを知ることができます。調べてみると、これらは生後二十日ほどのものだと分かりました。とれた所から、二十日分のきよりを計算して海流をさかのぼれば、親ウナギがたまごを産んだ場所にたどり着けるはずですよ。

一九九四年ごろ、わたしたちは、これまでの調査で分かったことを、もう一度整理しました。レプトセファルスがとれた場所を地図上に記し（図4）、とれた

ときの体長と合わせて考えていくと、あることに気がつきました。西向きに流れる北赤道海流をさかのぼって、東へ行くほど、とれるレプトセファルスは小さくなっています。しかし、ある地点をこえれば、ぱったりととれなくなっているのです。海底の地形図でたしかめると、そこには、大きな三つの海山かいざんが、南北に

• 記すしる

海山

海中で、海の底から一〇〇〇メートル以上の高さでそびえる山のような地形。多くは海底火山と考えられている。

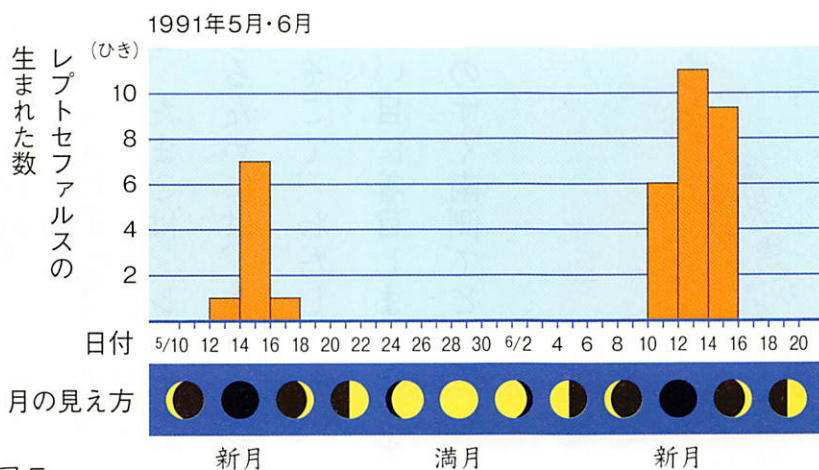


図5

連なっていました。親ウナギがたまごを産む場所を決めるときに、これらの海山が何かの役に立っているのかもしれない、わたしたちは、そう考えました。

それから、とれたレプトセファルスのたんじょう日を先ほどの輪の数から計算し、こよみと照らし合わせました。すると、多くのたんじょう日が、新月の日前後に集まっていることが分かりました(図5)。ウナギは、新月のところに合わせて、いっせいにたまごを産んでいるようなのです。

「海山の近く」「新月のころ」という二つの予想にもとづいて、わたしたちは調査を続けました。どういうわけか、たまごも、生まれてすぐのレプトセファルスもとれないことが、何年も続きました。しかし、二〇〇五年六月七日、新月の日、マリアナ諸島の西にある海山付近で体長五ミリメー

10

5

新月

すっかり欠けて、全く見えなくなった月のこと。反対は満月。

付近



図6

トル、生後わずか二日の、ウナギのレプトセファルスを見つけてきた。確かにたまごに近づいていると、わたしたちの期待は高まりました。けれども、たまごは、レプトセファルスよりずっとせまいはんに固まっているので、とるためには、さらに場所をしばらくこまなければなりません。

そこで、わたしたちは、フロントとよばれる、塩分のこさがことなる海水のさかい目に着目しました。生まれて間もないレプトセファルスは、これまでフロントのすぐ南側でとれていたからです(図6)。もしかしたら、親ウナギたちは、「新

月のころ」に、「フロントと海山の連なりが交わる地点」でたまごを産むのかもしれない、そう考えて、わたしたちはさらに調査を続けました。二〇〇九年五月二十二日、新月の二日前の明け方、ついにそのしゅんかんは、やって来ました。ウナギのたまごらしいものが二つとれたのです。大きさは、ほんの一・六ミリメートル。

南側^{がわ}

塩分^{エン}

固まる^{かた}

船内は、期待とこうふんに包まれました。船の研究室のモニターにうつし出されているたまごは、にじ色にかがやいていました。さらにくわしく調べてみると、これらはたしかにウナギのたまごにまちがいないことが分かりました（図7）。そのとき、船の中に大きなかんせいがあがりました。ついに、わたしたちは、ウナギがたまごを産む場所にたどり着くことができたのです。初めて調査に加わったときから、三十六年の年月が流れていました。

図7



ウナギがどこでたまごを産むのかという問題は、これでほぼ明らかになったといっているでしょう。しかし、なぜこんな遠くまでたまごを産みにやって来るのか、広い海の中でどうやってオスとメスは出会うことができるのか、知りたいことはまだまだふえるばかりです。これらのなぞをとくために、わたしたちは、今年もマリアナの海にやって来たのです。

10

塚本 勝巳

一九四八年、岡山県生まれ。海洋生物学者。特に、海と川を行き来する、ウナギやサケなどについて研究している。

この文章は、二〇〇八年に書かれ、二〇一八年に改稿された。



もっと読もう

「ウナギのなぞを追って」を書いた後の、塚本さんのインタビュー記事を読んでみましょう。あなたが関心をもった内容ように関わることはあるでしょうか。

——日本では、一九三〇年代からウナギのさんらん場ばさがしが始まりましたが、たまごの発見まで八十年近く。なぜこれほど時間がかかったのでしょうか。

5

それはね、まさにかぎられた時期のかぎられた場所にしか、たまごがないからなんです。この広い太平洋の中で、あの西マリアナ海嶺れいの南端部たんっていうピンポイントでしか、たまごを産まない。おまけにたまごである期間は一・五日しかなくて、その後はもうプレレプトセファルスになるんですよ。

10

——今はさんらんシンのさつえいにちようせんさされているとうかがいましたが。

5

たまごが確実にとれるようになったから、次はさんらんシンを見たいと考えています。先ほど、たまごの期間は一・五日と言いましたけど、さんらんシンの場合はほんのいっしゅんです。それに、親ウナギたちは、たまごよりさらにせまいはんに集まっているはずです。一辺十メートルくらいの四角い場所に固まって、いっしゅんで終わるものを見つけようと思ったら、きわめてむずかしい。

15

海嶺

大洋の海底に連なる、山脈さんみゃくのような地形のこと。

プレレプト

セファルス

生まれたばかりのレプトセファルスのこと。

でも、さんらんシーンを確実にとらえることができるようになれば、オスとメスがあの広い、そして真っ暗な海の中で、どうやっておたがいを見つづけるのかっていう、そのメカニズムが分かるんですね。それが分かるとすごく楽しいし、わくわくしますよね。

——塚本さんが研究を始められたときと今日では、ウナギをめぐるじょうきょうがずいぶん変わったように思います。

そのとおりです。ウナギ研究は楽しいなあと思ってむちゆうでやっていた時代は、あつというまに終わり、二〇一〇年ごろからシラスウナギしげんが大きくへって、大変なことになりましたね。

以前は、ウナギの保全活動とかそう

15

10

5

いったことは自分の仕事ではないと思っ
ていました。よく言われることですが、
学問をする人は学問にむちゆうになるあ
まり、その先にある応用はあまり考えな
い。ぼくも初めはウナギ研究のおもしろ
さのとりこになって、社会におけるウナ
ギと人の関わりなどあまり考えなかつた。
しげんによゆうがあるうちはまだよかつ
たけれど、そうも言っていられなくなつ
た。ウナギというきちょうなしげんを、
少なくともせつめつさせないようにする
のはわれわれ研究者のつとめだし、でき
れば元のしげんじょうたいにもどしてあ
げたい。そうでないとウナギも、ウナギ
の研究も、ウナギを食べる文化も、みん
ななくなってしまうますよね。

15

10

5

シラスウナギ
ウナギの幼魚のこと
とりすぎや、かん
きようはかいなどに
よって、数が大きく
へり、二〇一四年に
は、ニホンウナギが、
せつめつするおそれ
があるとされた。



見通しをもとう

きょうみをもったことを中心に、しよづかいしよづ

- ・説明の全体をとらえ、きょうみをもったことにそって、大事な言葉や文を見つけましょう。
- ・しよづかいする文章を読み合い、文章への着目のしかたや感想のちがいを考えましょう。

とらえよう

●「ウナギのなぞを追って」は、何の調査について書かれた文章ですか。そして、その調査はどんな結果になりましたか。たしかめましょう。

ふかめよう

- 「ウナギのなぞを追って」を読んで、あなたが最もきょうみをもったのは、どんなことですか。そのことを中心に、文章全体を読み、要約しましょう。
- 1
- 2
- ・文章を、内容のまとまりごとに整理しましょう。そして、きょうみをもったことにそって、大事な言葉や文を書き出しましょう。
- ・書き出した言葉や文を使ったり、自分の言葉を用い

10

5

1 文章への着目のしかたの例

「もっと読もう」(96ページ)を読んだり、次の例を参考にしたりして、きょうみをもったことをはつきりさせましょう。

- ・レプトセファルスの旅
- ・一つの研究に長い年月がかかること
- ・しだいになぞがとけていくところ など

2 整理の例——研究に長い年月がかかること

| ページ | 内容 | 大事な言葉など |
|--------------|--|--|
| 88ページ 一行目 | <ul style="list-style-type: none"> ・何の調査か。 ・マリアナの海に来た理由。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウナギがたまごを産む場所の調査。 |
| 90ページ 2行目 | <ul style="list-style-type: none"> ・調査の開始時期と、分かるまでの年月。 | <ul style="list-style-type: none"> ・一九三〇年ごろ始まる。 ・八十年近くの年月。 |

10

5



ふりかえろう

- 知る 大事な言葉や文を見つげるときに、どんなことに気をつけましたか。
- 読む 友達の感想で、「こんな感じ方もあるんだな。」と思ったのは、どんなことですか。
- つなぐ 読んだ文章をしようかいするときに気をつけたことは、何ですか。

苦勞ロウ

ひろげよう

●「ウナギのなぞを追って」をしようかいする文章を書き、友達と読み合ひましょう。友達がきょうみをもったことや感想について、自分とのちがいや、「いいな。」と思うところを見つけて伝えましょう。

3

10

まとめよう

●きょうみをもったことにそって「ウナギのなぞを追って」を読んだり、要約したりして、筆者の調査についてどのような感想をもちましたか。

5

たりして、文章を要約しましょう。きょうみをもったことによつて、要約はちがったものになります。友達と読み合ひて、たしかめましょう。

3 しようかいする文章の例

「ウナギのなぞを追って」は、ウナギがたまごを産む場所を明らかにするために、八十年近くもの年月がかかったという調査の話です。

筆者の塚本勝巳さんは、一九七三年からこの調査に参加している研究者本人です。

一九三〇年ごろ、たまごを産む場所をさがす調査が始まりました。三十年以上すぎた一九六七年、五十四ミリメートルのウナギの赤ちゃんが、見つかりました。

このように、長い苦勞の末、ついにたまごが見つかったのです。

それでも、まだまだなぞがあると、筆者は書いています。なぞをずっと追ひ続ける人たちがいるというところに、なんだかむねがいっぱいになりました。

感想

要約

何の話か

15

10

5



たいせつ

感じ方のちがいに気づき、
よさを見つける

● 読んだ文章に対する感想や考えには、
その人が文章をどう受け止めたり、
理解^{かひ}したりしたかが表れている。

● 自分とはちがう感想や考えに出会っ
たら、ちがいはどこから来ているの
か、他の人の感じ方のよさは何かを
考えると、読んだ文章への理解が深
まる。



いかそう

他の人の考えを聞くとときには、何に着
目しているかを考えながら聞きましょう。

10

5

この本、読もう

次のような本を読み、筆者と
ともに生き物のなぞにせまりました。



ゾウの長い鼻には、
おどろきのわけがある！
ゾウの鼻は、なんと、上くちびる
もいっしょにのびたものだそうです。

5



ノラネコの研究
ノラネコは、どんな生活をしてい
るのでしょう。ノラネコをかんさつ
した筆者が教えてくれます。

10



アリクイの口のなぞが、
ついにとけた！
少ししか開かない。歯が一本もな
い。アリクイの口のなぞにせま
ります。

15

各
カク

産

サン
うむ
うまれる

求

キユウ
もとめる

付

フ
つける

固

コ
かたまる
かたまる

塩

エン
しお

側

ソク
がわ(か)わ

労

ロウ



159
ページ

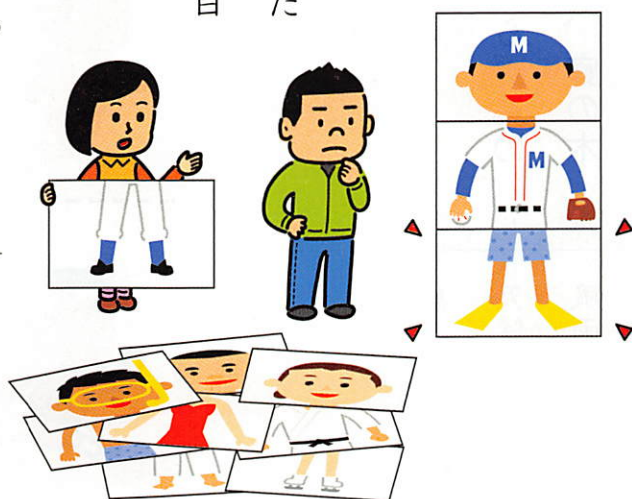
つながりに気をつけよう

自分が書いた文章を読み返したときに、「分かりにくいな。」と思ったことはありませんか。ここでは、言葉と言葉や、文と文のつながりに注目して、分かりやすい文章について考えてみましょう。

次の文は、主語と述語じゆつが正しく対応おうしていません。読んでみましょう。

• ぼくの目標は、外交官カウになって世界各国をめぐります。

「目標は」という主語に対応する述語がないため、読みづらさを感じます。「目標は」という主語をそのままにするならば、述語をどのように書き直すといでしょうか。考えてみましょう。



目標 ヒヨク

外交官 カウ

次の文は、どのようなことを表しているでしょう。

・女の子は必死で走る弟を追いかけた。

「必死で」という修飾語しゅうしよくがくわしくしている言葉が、「走る」

なのか「追いかける」なのかがはっきりしません。そのため、

「必死」なのが、「女の子」なのか「弟」なのかがよく分かりま

せん。読点を打ったり、言葉の順番を入れかえたりして、それ

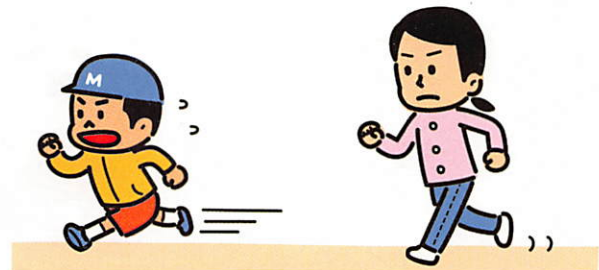
ぞれの意味が分かる二つの文にしてみました。

一文が長いと、表していることがつかみにくくなることがあります。①と②を

くらべてみましょう。どちらが読みやすいですか。理由も考えてみましょう。

①野鳥が、庭の木に来て、巣を作り、たまごを産んだので、家の中から野鳥の

様子を見守ったところ、天候が悪い日もあり、風雨の強い日もあり、庭の木



10

野鳥チヨウ　○巣す　天候テンコウ　風雨フウウ

に作った巣がこわれなにか心配だったが、ひなは無事に巣立っていった。

② 野鳥が、庭の木に来て、巣を作り、たまごを産んだ。そこで、家の中からその様子を見守った。天候が悪い日や、風雨の強い日もあり、巣がこわれなにか心配だった。しかし、ひなは無事に巣立っていった。

多くの場合、一文が短いほうが、その文で言いたいことがつかみやすくなります。文が長くなったときには、内容の切れ目で文を分けてみるとよいでしょう。

そのとき、つなぎ言葉を入れたほうがよいかどうかも考えましょう。

また、同じような言葉や内容をくり返しているところを、省いたり、こそあど言葉に置きかえたりすることでも、一文は短くなります。

ただし、主語が同じ文が続く場合など、一文でまとめたほうが分かりやすいこともあります。②の一文目と、次のページの例文をくらべて、たしかめてみましょう。

・野鳥が、庭の木に来了。野鳥が、巢を作った。野鳥が、たまごを産んだ。

どう書くと読む人にとって分かりやすいかを、考えるようにしましょう。



次の文章を、分かりやすくなるように書き直しましょう。どのよう
に直したのか、友達と見せ合ひましょう。

冬の夜空を観察して感じたことは、夏よりも明るい星が多く見える。
特に青白く光るシリウスが気になり、姉と調べたところ、シリウスは
太陽と同じく自ら光る星で、シリウスは夜空で最も明るく見える星だ
ということが分かり、シリウスは地球から約八十一兆三千億キロメー
トルもはなれたところにあることも知った。ぼくは姉と父に願ひし
て、望遠鏡を買ってもらおうつもりだ。

標
ヒヨウ

官
カン

巢
サ

候
コウ

察
サツ

兆
チョウ

億
オク

鏡
キョウ
かがみ

10

5

観
察
サツ

・自
ら
みずか

八
十
一
兆
チョウ

三
千
億
オク

望
遠
鏡
キョウ

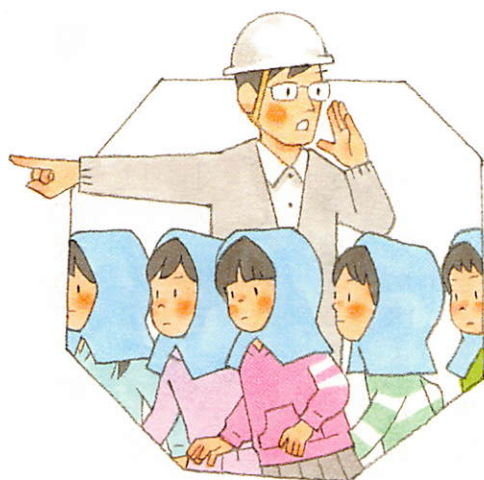


書く

考えたことを書き、読み合おう

もしものときにそなえよう

じしんや大雨など、自然災害はいつ起こるか分かりません。「そなえあれば、うれしいなし」という言葉がありますが、どうそなえるとよいのでしょうか。調べて、自分の考えを書き、クラスみんなに知らせましょう。



● たしかめよう

「四年上までの学びをたしかめよう」
「伝統工芸のよさを伝えよう」
↓ 6ページ
↓ 53ページ

● 学習の進め方

決めよう
集めよう

- 1 テーマを決めて、調べる。
- 2 調べたことを整理する。

組み立てよう

- 3 組み立てをたしかめる。

書こう

- 4 考えを伝える文章を書く。
- 5 書いた文章を読み返す。

つなげよう

- 6 文章を読み合い、感想を伝える。

● ふりかえろう

1 テーマを決めて、調べよう。

あなたは、どんなときのそなえについて考えたいですか。まず、大きなテーマを選びます。次に、そのテーマについてくわしく知りたいことを決めましょう。

知りたいことが決まったら、それに合った方法で調べていきます。複数の本を読んだり、ちがう方法で調べたりすることで、調べた内容が正しいかどうかをたしかめるようにしましょう。

気になったことや分かったことは、カードなどに書き出しておきましょう。何から調べたのかも、書きとめておきます。

2 調べたことを整理しよう。

自分の考えをはっきりさせたり、文章の組

15

10

5

■テーマの例

- ・台風
- ・大雨・大雪
- ・かみなり
- ・じしん
- ・つなみ
- ・火山のふんか など

テーマに関する本や図鑑かんを読み、気になることをさらにくわしく調べていくのもいいですね。

5

大雨でひなんするとき、気をつけることを知りたいな。

じしんでひなんするとき、持っていくとよい物が、いろいろあるんだなあ。

■調べる方法の例

- ・図書館の本や図鑑を読む。
- ・ちいきの資料しを見る。
- ・関係するしせつや資料館などに行く。
- ・インターネットを活用する。
- ・くわしく知っている人にきく。

10



- ・自然災害ガイ

み立てを考えやすくしたりするために、調べた分かったことを整理しましょう。読む人に役立つかどうかを考えて、内容ごとに分類しておく、書くときに便利です。

「分ける・くらべる」
9ページ

3 組み立てをたしかめよう。

調べることを通して、あなたはどんなことが大切だと考えましたか。考えを伝える文章を、「初め」「中」「終わり」の組み立てで書きましょう。

「初め」と「終わり」には、自分の考えを書きましょう。「中」には、理由やくわしい説明を書きます。調べたことの中から、取り上げるものを決めましょう。

メモの例

「水があふれた道路では、水の流れて動けなくなるおそれがあるので、早めにひなんする」

松下正一「天気的安全ブック」
海山書店、2019年

大雨のときは、早めにひなん所に行くことが大切だと思う。

おくれると、きけんがあることを理由として挙げるといいから、――。



4 考えを伝える文章を書こう。

読む人に、自分の考えが伝わるように書きましよう。

北山さんと木村さんの文章には、どのような書き方の工夫がありますか。気づいたことを出し合って、参考にしましよう。

■北山さんの文章

(理由を挙げている)

5



わたしは、調べたことを通して、大雨のときは早めにひなんすることが大切だと考えました。

なぜなら、水があふれた道路を歩くのは、きけんだからです。「天気的安全ブック」によると、「水があふれた道路では、水の流れて動けなくなるおそれがある」そうです。水があふれて、道路と用水路などのさかい目が分からなくなっている写真ものっていました。もう一つ理由があります。それは、大雨の

15

10

中

理由や説明を、内容のまともりに、くわしく書く。

初め

自分の考えを書く。

■木村さんの文章

(例を挙げて説明している)



じしんへのそなえて大切なことは、自分や家族にとって必要なものを用意することだと考える。

例えば、ぼくの妹は、生後八か月だ。「災害にそなえよう」という本の「赤ちゃんに必要な物リスト」を見ると、飲みなれている種類のミルクやほにゅうびん、紙おむつなどを用意しておくことが分かった。

ぼくの家には犬もいる。市の資料によると、東中学校が、けがをした動物のちりようもし

10

5

中のひなさんは、周りがよく見え、きけんが
ますということ。ぼうさい資料室の岸さ
んは、「雨が強いと、車などが近づいてくる
のにも気づきにくくなります。」とおっしゃっ
ていました。

これらの理由から、大雨が予想されるとき
は、ひなんしやすいうちに、安全な場所に行
くことが大切だと考えます。

終わり

自分の考えを、
もう一度書く。

てもらえるひなん所になるようだ。同じ資料
には、「ふだんからほえないようにしつけ、
キャリーバッグや食事を用意しておくよう
に」と書いてあった。

このように、必要なそなえは、人によっ
ちがってくる。みなさんも、自分や家族には
何が必要かを考え、そなえを見直してはど
うだろう。

文章の最後には、引用したり参考にしたりした本などを、
出典としてまとめましょう。

〈出典〉

松下 正一 「天気的安全ブック」

海山書店、二〇一九年

大谷 良子 「災害から身を守る」

大空図書、二〇一七年

理由や例を書くときに使いたい言葉

〈理由〉

- なぜなら――。
- その理由は、――。
- ――ためである。

〈例〉

- 例えば、――。
- 例を挙げると――。
- ――が当たる。

5 書いた文章を読み返そう。

- 書き終わったたら、次の点を見直しましょう。
 - 引用した部分の数字や言葉は正しいか。
 - 言葉と言葉、文と文のつながりは正しいか。
 - 文末の書き方はそろっているか。
- 声に出して読み、読みづらいところはないかもたしかめましょう。

6 文章を読み合い、感想を伝えよう。

- 書き手が何を伝えたいのかを考えながら読み、感想を伝えましょう。
- 「なるほど。」となっとくしたこと。
 - 「分かりやすいな。」と思った書き方。
- 気になることや、くわしく知りたいことがあれば、しつもんしてみましょう。

10

5





ふりかえろう

- 知る
- 書く
- つなぐ

どのような理由や例を挙げると、自分の考えが伝わりやすいと思いましたか。
友達の感想を知ること、自分の文章のどんなよさや改善点ぜんに気づきましたか。
文章で自分の考えを伝えるためには、どのようなことに気をつけたいですか。

みんなが書いた文章を印刷するなどして、
クラスのぼうさいブックを作ってもいいで
すね。



たいせつ

文章の感想を伝え合う

- 書き手の考えをふまえながら、くわしく感想を伝える。
- 相手の考えを理解かいするのに、役立つ点。
- 工夫していると思った書き方。
- 感想を聞くときは、自分の考えが正しく伝わっているかどうかをたしかめる。



いかそう

次に考えを伝える文章を書くとき、友達や自分の文章の工夫した点を取り入れましょう。



話す・聞く

調べて分かったことを話そう

調べて話そう、生活調査隊さ

ふだんの生活の中で、「みんなはどうしているのかな。」と思うことはありませんか。生活に関するぎもんをグループで調査して、クラスみんなに発表しましょう。資料しを使って、分かったことや考えたことが伝わるように話しましょう。



● たしかめよう

「四年上までの学びをたしかめよう」
5ページ

● 学習の進め方

決めよう
集めよう

- 1 調べたいことを決める。
- 2 アンケートを取る。

じゅんびしよう

- 3 アンケート結果を整理し、資料を作る。

話そう
聞こう

- 4 発表する。

つなげよう

- 5 感じたことを伝え合う。

● ふりかえろう

1 調べたいことを決めよう。

自分やみんなの生活について、感じていることをグループで出し合ひましょう。その中から、調べたいことを選びましょう。

わたしは、放課後、家の中ですごすことが多いのだけれど、みんなはどうかかな。



2 アンケートを取ろう。

調べたいことについて、アンケートを作りましょう。回答をおおまかに予想して、問いを作ります。

「アンケート調査のしかた」

上96ページ

調べることの例

- すいみんについて
- 食生活について
- 放課後の過ごし方について
- 読書について

5

アンケートの例

放課後の過ごし方についてのアンケート

4年1組 2はん

【問い1】 放課後をどこですごすことが多いですか。いちばん多い場所に○をつけてください。

5

【答え】 ア 自分や友達の家
イ 学校の教室
ウ 学校の校庭
エ 公園や広場
オ 図書館や児童館
カ その他 ()

10

【問い2】 放課後、何をしていますか。(最大三つまで)

【答え】

【問い3】 3年生のときとくらべて、放課後の過ごし方は変わりましたか。

15

3 アンケート結果を整理し、資料を作ろう。

アンケート結果を整理し、そこからどんなことが分かるかを考えましょう。そして、それが分かりやすく伝わるように、グラフや表などにまとめましょう。

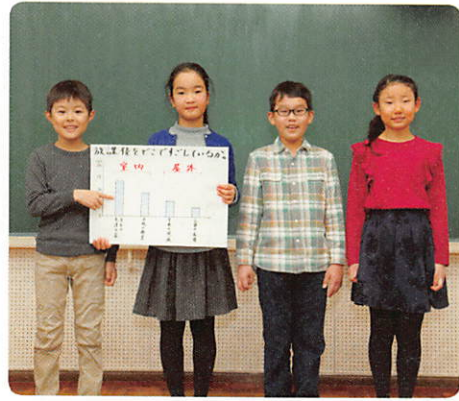
ぼうグラフにまとめると、多いものと少ないものが、ひと目で分かるね。



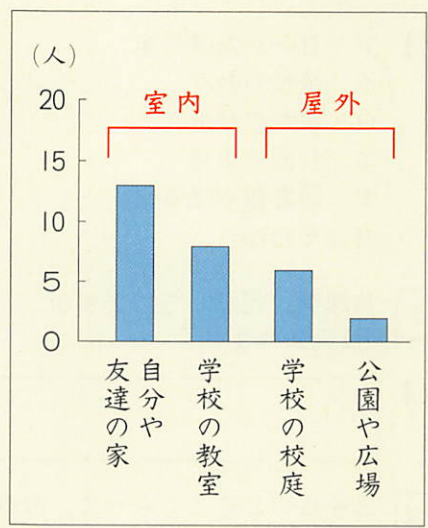
4 発表しよう。



アンケート結果をまとめた資料を見せながら、発表しましょう。資料を見てほしいときは、そのことが聞き手に分かるように話しましょう。



放課後をどこですごしているか。



■資料の例

北山

わたしたちは、「放課後の過ごし方」というテーマで、調査をしました。
 みなさんは、放課後をどのようにすごしていますか。わたしたちの町には、
 聞く人のきょうみを引くようによびかける
 緑ゆたかな公園や広場がたくさんありますが、みなさんのふだんの会話を聞
 いていると、室内ですごしていることが多いと感じました。そこで、アンケー
 トを取って、その実態を調べました。アンケート結果から分かったことや考
 えたことを発表します。

5

初め

- 話題をはつきり伝える。
- 調べたきっかけや目的を話す。

竹中

まず、放課後をどこですごしているかの調査結果です。このグラフを見て
 間を取る ← グラフの見てほしい部分を指さす
 ください。いちばん多いのは、「自分や友達の家」で、十三人でした。そして、
 グラフの見てほしい部分を指さす
 二番目が「学校の教室」で、八人でした。この二つを合わせると二十一人で、
 やや強く言う
 予想どおり、多くの人が室内ですごしていることが分かりました。

10

中

- 何を調べたのかを話す。
- 調べて分かったことを話す。

5

木村

次に、放課後に何をしているかについての調査結果です。「テレビゲーム
 をしている」と回答した人が十人で、最も多い結果になりました。

伝えたいことを

15

終わり

- 考えたことや伝えたいこと
 を話す。

原田

わたしたちの町には、たくさんのできな公園があります。ときには、外
 に出で、自然を感じながら、体を動かしてみませんか。
 特に強く言う
 これで、わたしたちの発表を終わります。

5 感じたことを伝え合おう。

自分の生活とくらべながら聞き、しつもんをしたり、発表のよかったところを伝えたりしましょう。

■しつもん

外で遊んでいる人が少ないのは、どうしてだと思いますか。



■感想

声の大きさや速さに変化があったので、大事なところが分かりやすかったです。



たいせつ

調べたことを発表する

● 声の大きさや速さ、強弱、間の取り方に気をつけて、大事なことが伝わるように話す。

● 表やグラフなどの資料を見せながら、聞く人に分かりやすく話す。



いかそつ

調べたことを発表するときには、伝えたいことが聞く人に分かるように工夫しましょう。



ふりかえろう

- 知る
- 話す・聞く
- つなぐ

みんなの前で発表するとき、どんなことに気をつけましたか。
自分の考えが伝わるように、どんな話し方の工夫をしましたか。
これから調べたことを話すときは、どんな工夫をしたいと思いますか。

まちがえやすい漢字

みなさんには、書くときや読むときに
まちがえやすい漢字がありませんか。



平がなで書くと同じになる言葉

平がなで書くと同じになる言葉は、たくさんあります。しかし、意味は、どれも同じではありません。文の中での言葉の意味を考えて、正しい漢字を使いましょう。

1 次の文では、それぞれ、どちらの漢字を使うのが正しいでしょうか。意味を考えて下から選びましょう。

- きずがはやく治るとよい。
- はやく走れるよう努力する。

| | |
|----|----|
| 早く | 速く |
|----|----|

○^{なほ}治る
○^ド努力

治

チジ
おさめる
おさまる
なわる
なおす

努

トド
つとめる

倉

ソウ
くら

札

サツ
ふだ

功

コウ

器

キ

英

エイ

牧

ボク

倉庫の戸があく。

向かい側の席があく。

受付に名札をかえす。

妹を先にかえす。

工場のきかい化に成功する。

打楽器を習うきかいをえる。

英語いがいの言語も学ぶ。

牧場は、いがいに遠かった。

開く 空く

帰す 返す

機会 機械

意外 以外

5

なじみのない読み方

漢字は知っていても、その漢字が使わ
れている言葉になじみがないと、読めな
いことや読みまちがうことがあります。

2 次の言葉の意味を、国語辞典で調べ

ましょう。また、それぞれの言葉を
使って、文を作りましょう。

- ・米作(べいさく) ・戸外(こがい)
- ・木かげ(こかげ) ・半ば(なかば)

まちがえやすい漢字に気づいたら、
その漢字の意味や読み方をたしかめま
しょう。

10

5

- 倉庫(ソウクラ)
- 名札(ナシラ)
- 成功(コウコウ)
- 打楽器(ウチガキ)
- 英語(エイゴ)
- 牧場(ボクバウ)
- 米作(ベイサク)
- 戸外(コガイ)
- 木かげ(コカゲ)



読む

読んで感じたことをまとめ、
伝え合おう

これまでの学習

話し合って、考えを深める（ごんぎつね）…… 32ページ

初雪のふる日

5

初雪のふる日に、女の子にどんなことが起こるのでしょう。この物語を読んで、あなたは何を感じるでしょうか。



初雪のふる日

安房 直子 あわ なおこ 作

寺門 孝之 てらかど たかゆき 絵

秋の終わりの寒い日でした。

村の一本道に、小さな女の子がしゃがんでいました。女の子は、うつむいて地面をながめていました。それから、首をかしげて、ほうっと大きな息をつくど、



「だれが、石けりしたんだろう。」

とつぶやきました。その道には、ろうせきでかかれた石けりの輪が、どこまでも続いていたのです。どこまでも、どこまでも、橋をわたって、山の方まで。女の子は立ち上がって、目を真ん丸にして、

「なあんて長い石けり。」

とさけびました。それから、ろうせきの輪の中に、ぴよんと飛びこんでみました。すると、女の子の体は軽くなって、ゴムまりみたいにはずんできたのです。

かた足、かた足、両足、かた足——。

両手をポケットに入れて、女の子は進んでゆきました。石けりをしながら、女の子は橋をわたりました。キャベツ畑の細い道を通りました。村でたった一軒の、たばこ屋の前を通りました。

10

5

石けり

地面に丸や四角の図形をかき、その中に小石を投げ入れたり、けったりして、順に進んでいく遊び。地方により、さまざまなよび名がある。

ろうせき

ろうのように見える石で作った筆記具のこと。チヨークのように使って線をかく。



「おや、元気がいいねえ。」

と、店番のおばあさんが言いました。女の子は、あらい息をし
ながら、とくいそうに笑いました。おかし屋の前では、大きな
犬が歯をおき出してほえました。それでも、女の子は進んでゆ
きました。石けりの輪は、まだまだ続いていたので。

「こんなに長い石けり、だれがかいたんだらう。」とびながら、
女の子は、そればかり考えていました。

バスのていりゆう所の辺りまで来たとき、ほろほろと雪が
ふり始めました。かわいたこな雪でした。それでも、石けりの
輪は終わりません。女の子は、顔を真っ赤にして、あせをびっ
しりかいて、とんでゆくのです。

かた足、かた足、両足、かた足――。

空はどんよりと暗くなり、風も冷たくなりました。雪は、
だんだんはげしくふり始め、女の子の赤いセーターの上に、

10

5

。冷たい

ほっほっほど、白いもようを付けました。

「ふぶきになるわ。」と、女の子は思いました。

「もう帰ろうかな。」

そうつぶやいたときです。後ろで、こんな声がありました。

「かた足、両足、とんとんとん。」

びっくりして、とびながらふり向くと、真っ白いうさぎが、

石けりをしながら女の子の後を追いかけてくるじゃありませんか。

「かた足、両足、とんとんとん——」。

よくよく見ると、その後ろにも白うさぎ、そのまた後ろにも白うさぎ——。

ふりしきる雪の中を、もう後から後から、白いうさぎが続いてくるのでした。女の子はびっくりして、目をぱちぱちさせました。すると、今度は前で声がありました。

10

5



「後ろから来るのは白うさぎ、前をゆくのも白うさぎ、かた足、両足、とんとんとん。」

あわてて前を見ると、女の子の前を、やっぱりたくさんのうさぎが、一列になってとんでゆくのでした。

「うわあ、ちっとも知らなかった。」

女の子は、ゆめを見ているような気がしました。

「ねえ、どこへ行くの。この石けりの輪、どこまで続いているの。」

すると、前のうさぎがとびながら答えました。

「どこまでも、どこまでも、世界の果てまで。わたしたちみんな、雪をふらせる雪うさぎですからね。」

「ええっ。」

このとき、女の子はどきっとしました。いつか、おばあさんから聞いた話を思い出したからです。

10

5

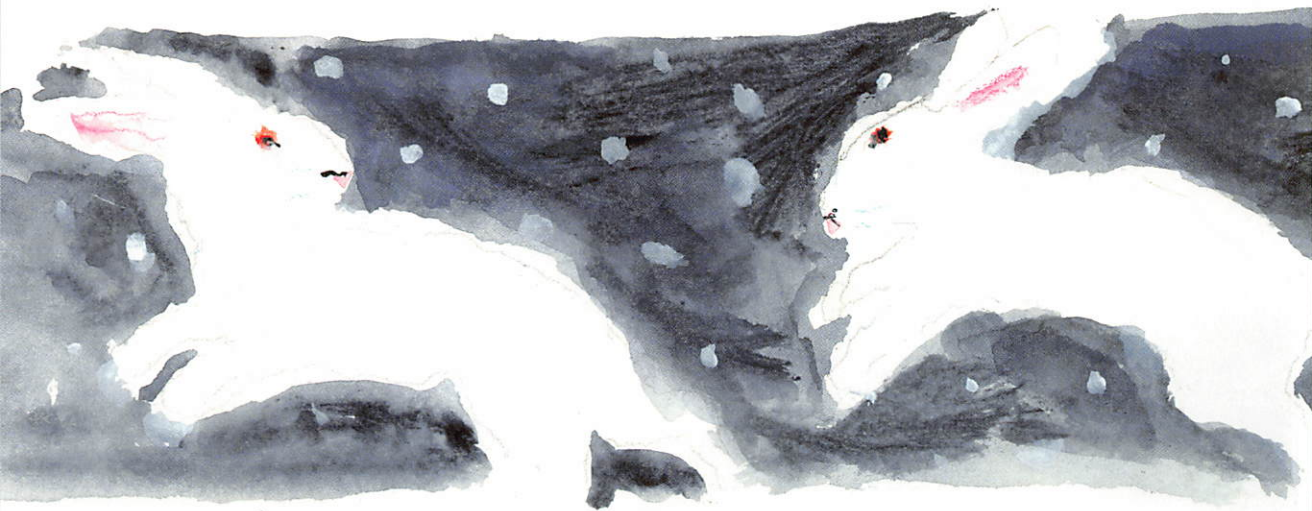


初雪のふる日には、北の方から、白いうさぎが、どっとやって来るのだと、おばあさんは言いました。うさぎの群れは、一列になって、山から山へ、村から村へと雪をふらせてゆくのだと。その速いことといったら、もう目が回るくらいで、人の目には、一本の白いすじにしか見えないのだと。

「だから、気をつけなけりゃいけないよ。もしも、そのうさぎの群れにまきこまれたりしたら、もう帰ってこられなくなるからね。うさぎといっしょに、世界の果てまでとんでいって、最後には、小さい雪のかたまりになってしまふんだから。」

あのととき、女の子は目を大きく見開いて、なんとおそろしい話だろうかと思ったのでした。が、たった今、自分は、そのうさぎにさらわれてゆくところなのでした。

「大変だ。」女の子は止まろうとしました。次の輪の中に、足を入れるのをやめようと思いました。けれどもこのとき、後ろの



うさぎがこう言いました。

「止まっちゃいけない。後がつかえる。かた足、両足、とんとんとん。」

それだけで、女の子の体は、また、ゴムまりみたいに
はずみだし、ろうせきの輪のとおりにとんでゆくのでした。
とびながら、女の子は、一生けんめいおばあさんの話
を思い出しました。あるとき、おばあさんははり仕事の
手をちよつと休めて、こんなことを言いましたっけ。

「それでも、昔、たった一人だけ、白うさぎにさらわれて、
生きて帰れた子どもがいたっけねえ。その子は、一生
けんめいおまじないを唱えたのさ。よもぎ、よもぎ、
春のよもぎって。よもぎは、まよけの草だからね。」

それなら、わたしもやってみようと、女の子は思いまし
た。女の子は、とびながら、春のよもぎの野原を思いうか

10

5



べました。あたたかいお日様と、たんぽぽの花と、みつばちと、ちようちようのことを考えました。それから、大きく息をついて、

「よもぎ、よもぎ——」。

と言いかけたとき、もううさぎたちは、声をそろえて自分たちの歌を歌いだしたのです。

ぼくたちみんな雪うさぎ

雪をふらせる雪うさぎ

うさぎの白は、雪の白

かた足、両足、とんとんとん

10

女の子は、急いで耳をふさぎました。が、うさぎの歌声は
どんどん大きくなり、ふさいだ指のすき間からつむじ風の



5

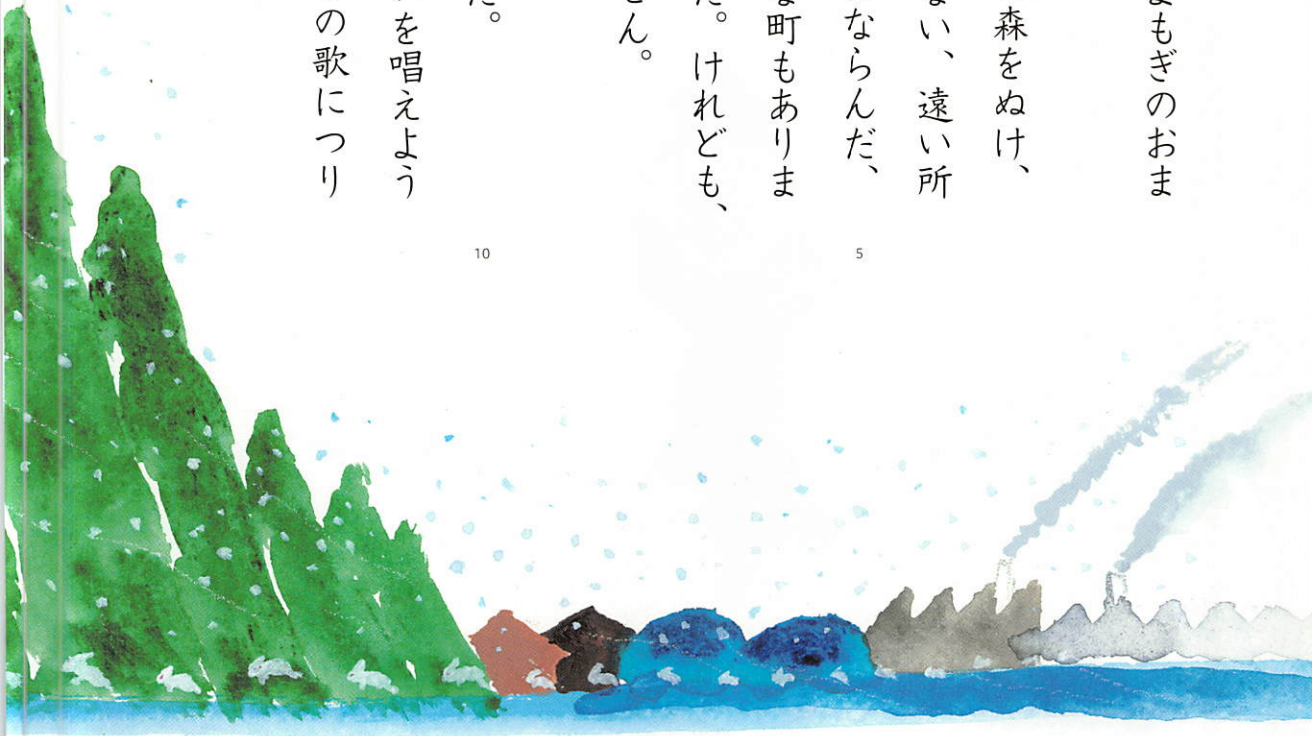
ように入りこんできて、女の子は、どうしても、よもぎのおまじないを唱えることができないのでした。

こうして、白うさぎの群れと女の子は、もみの森をぬけ、こおった湖をわたり、これまで一度も来たことのない、遠い所までやって来ました。小さな草屋根がひっそりとならんだ、谷間の村もありました。さざんかのさいた、小さな町もありました。工場のたくさんある、大きな町もありました。けれども、人々はだれも、うさぎの群れと女の子に気づきません。

「ああ、初雪だ。」

とつぶやいて、小走りに通りすぎてゆくだけでした。

女の子は、とびながら、一生けんめいおまじないを唱えようとするのですが、その声は、どうしても、うさぎの歌につりこまれてしまうのでした。



うさぎの白は、雪の白

かた足、両足、とんとんとん

女の子の手足はかじかんで、もう氷のようになりました。

ほほは青ざめ、くちびるはふるえていました。

「おばあちゃん、助けて——」。女の子は、心の中でさけびました。

このときです。たった今かた足を入れた輪の中に、女の子は、一まいの葉を見つけたのです。思わず拾い上げると、それは、よもぎの葉でした。あざやかな緑の、そして、うら側には白い毛のふっくりと付いた、やさしいよもぎの葉でした。

「うわあ、だれが。だれが、落としてくれたの」。女の子は、よもぎの葉を、そっとおねに当ててみました。

すると、女の子は、だれかにはげまされているような気がする

10

5



してきました。たくさんの小さなものたちが、声をそろえて、
がんばればれと言っているように思えてきました。

そうです。それは、雪の下にいる、たくさんの草の種の声で
した。今、土の中でじつと寒さにたえている草の種のいぶきが、
一まいの葉を通して、女の子のむねに伝わってきたのでした。

「がんばれ、がんばれ。」

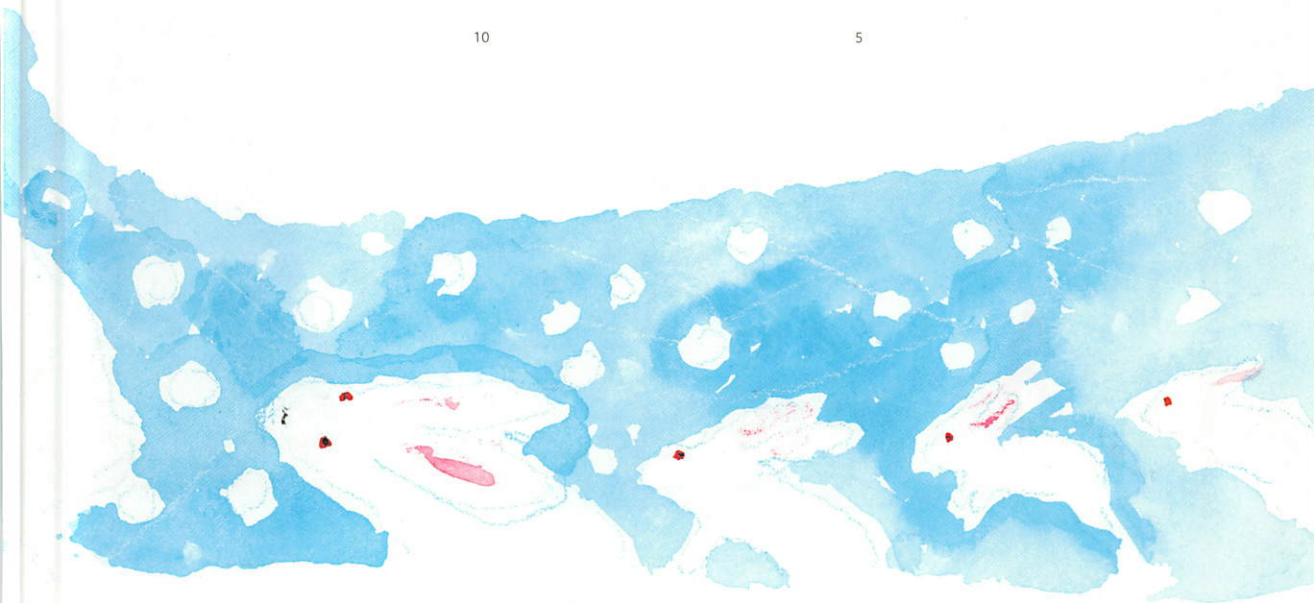
このとき、女の子の頭に、ふつとすてきななぞなぞがかび
ました。女の子は目をつぶって、大きく息をつくと、

「よもぎの葉っぱのうら側は、どうしてこんなに白いのかしら。」
とさけびました。

これを聞いて、前のうさぎの足取りがみだれました。前の
うさぎは、歌うのをやめてふり向きしました。

「よもぎの葉っぱのうら側だって。」

すると、今度は後ろのうさぎが、ちよつとよろけて、



「どうしてだろうなあ。」

と言いました。うさぎたちの歌声はとぎれて、足取りもおそくなりしました。そこで、女の子は、ひと息に言いました。

「そんなことはかんたんよ。あれは、みんな、うさぎの毛。

野原でうさぎが転がって、よもぎの葉っぱのうら側に、白い毛がどっさり落ちたのよ。」

これを聞いて、うさぎたちはすっかりよろこんで、

「そうだ、そうだ、それにちがいない。」



と言いました。そして、こんな歌を歌い始めたのです。

うさぎの白は、春の色

よもぎの葉っぱのうらの色

かた足、両足、とんとんとん

5



すると、どうでしょう。この歌に合わせてとびながら、女の子は、花のにおいをかいだような気がしました。小鳥の声を聞いたような気がしました。あたたかい春の日をいっぱいに浴びて、よもぎの野原で石けりをしているような気持ちになりました。女の子の体は、だんだん温かくなり、ほほは、ほんのりばら色になりました。女の子は、目をつぶって大きく息をすうと、むちゅうでさけびました。

「よもぎ、よもぎ、春のよもぎ。」

気がついたとき、女の子は、たった一人で、知らない町の知らない道をとんでいました。前にも後ろにも、うさぎなんか一ぴきもいません。ほろほろと雪のまう一本道に、もう石けりの輪はなく、そして、女の子の手の中のをよもぎの葉も、消えていました。

「ああ、助かった。」と、女の子は思いました。けれどもこのとき、女の子の足はもうぼうのようで、動きませんでした。

どこからかやって来た見知らぬ女の子を、町の人々が取りかこみました。そして、名前や住所をたずねました。女の子が自分の村の名前を言うと、人々は顔を見合わせて、口々に、とても信じられないと言いました。いくつも山をこえたそんな遠い所から、子どもが歩いてこられるわけがなかったのです。

このとき、一人の年よりが言いました。

「この子は、きっと、白うさぎにさらわれそうになったのだ」と。

女の子は、町の食堂どうどうで温かいものを食べさせてもらい、日のないうちに、バスで送り返してもらったことになりました。

安房 直子

一九四三〜九三年。

東京都生まれ。作家。

「風と木の歌」「遠い野ばらの村」などの作品がある。





見通しをもとう

読んで感じたことをまとめ、伝え合おう

- ・場面の様子や、登場人物の気持ちを表す言葉に着目しましょう。
- ・どの表現から何を感じたかを伝え合い、感じ方のちがいを見つけましょう。

とらえよう

- 「初雪のふる日」では、どんな出来事が起こりましたか。そして、物語の結びで登場人物はどうなりましたか。たしかめながら読みましょう。
- この物語を読んで、どんなことを感じましたか。ノートにかんたんに書いておきましょう。

5

ふかめよう

- 女の子の様子や気持ちの変化を考えましょう。
- おばあさんの話を思い出したとき
- よもぎの葉を見つけたとき
- 町の人に取りかこまれたとき
- 場面の様子を表す言葉に着目して読み返し、気づい

10

1 着目する言葉や表現

- ・ 天気などに関係する言葉
- ・ 色や、さわった感じを表す言葉
- ・ 大きさや数などを表す言葉
- ・ くり返しの表現
- ・ くわしくする表現 (修飾語)
- ・ 対比的な表現

2 考えをまとめた文章の例

わたしは、「初雪のふる日」は、読む人こ
わさを感じさせる物語だと思えます。
わたしが特にそう感じるのは、何度も出てく
る、「かた足、両足、とんとんとん」という歌



ふりかえろう

- 知る
- 読む
- つなぐ

感想に結び付いている言葉や表現を、どのように見つけましたか。
 自分の感じ方を友達とくらべるときに大切なのは、どんなことだと思えますか。
 感じたことを友達と伝え合うと、どんないいことがあると思えますか。

ひろげよう

●書いたものをグループで読み合いました。友達は、物語の何に着目し、どんなふうに感じたのでしょうか。あなたの感想とにているところや、ちがうところを見つながら読み、考えたことを伝えましょう。

3

まとめよう

たことや感じたことをノートに書きましょう。

1

●この物語を、あなたはどんな物語だと感じましたか。初めに読んだときに感じたことや、言葉や表現から感じたことなどを理由に挙げて、二百字くらいで書きましょう。

2

5

です。初めに出てくるときは何も感じないこの歌が、出てくるごとに、だんだん女の子の追いつめて、白うさぎの列からぬけ出せなくなるじゅもんのように思えてきます。
 物語を読んだ後も、この歌が頭をはなれなくなりません。「初雪のふる日」は、そんなこわさを感じさせる物語だと思います。

3 友達と自分の感じ方をくらべる

次のようなことを見つながら、友達の書いた文章を読みましょう。

- 感じたことはにているが、着目したことがちがう。
- 着目したことは同じだが、感じたことがちがう。
- 自分にはない読み方や感じ方。



たいせつ

感じ方のちがいを楽しむ

● 物語の印象は、使われている言葉や表現から生まれる。着目する言葉やそこから何を思いうかべるかがちがえば、印象も変わってくる。

● 物語の何を、どのように受け止めたかを伝え合うと、同じ作品を新たな角度から味わうことができる。



印象に残った言葉や表現に着目して、物語をしようかいしてみましよう。

10

5

冷

つめたい
ひえる
ひや
ひやす
ひやかす
さめる
さます

唱

シヨウ
となえる

この本、読もう

読んで感じたことや考えたことを、友達と話してみましよう。



おおきな木
昔、りんごの木があつて、ちびつこと仲よしてした。ちびつこも、木も、おたがいが大好きで――。

5



花豆の煮えるまで
山おくの温泉宿でおばあさんと住む小夜に、さまざま不思議がおとずれます。

10



空とぶライオン
ねこたちをがっかりさせたくなくて、空を飛ぶことがやめられなくなったライオンのお話です。

15

付録

学習を広げよう



「たいせつ」のまとめ

聞くことのトレーニング

本の世界を広げよう

百人一首に親しもう

これまでに習った漢字

この本で習う漢字

言葉のたから箱

148 146 144 140

161 157 150



「たいせつ」のまとめ

- 四年生で学習する、大切なことをまとめています。
- たしかめたり、他の学習で使ったりしましょう。
- できるようになったことを、どんな場面でいかしたいですか。くうらんに書きましょう。



四年上

聞きながらメモを取るときは

- 必要なことは何かを考え、大事な言葉を書く。

など

役わりをいしきしながら話し合う

〈司会グループの役わり〉

- 多くの参加者の意見が出るように、工夫して進行する。
- 出された意見や、どうやって決めるかなどを、黒板などで整理してしめす。



41ページ

〈参加者の役わり〉

- 自分の立場を明らかにして、積極的に発言したりしつもんしたりする。

調べたことを発表する



116ページ

- 声の大きさや速さ、強弱、間の取り方に気をつけて、大事なことが伝わるように話す。
- 表やグラフなどの資料を見せながら、聞く人に分かりやすく話す。

10

5



こんな場面でいかそう



つなげる

書く

組み立てる

決める
集める

 四年上

手紙で気持ちを伝える

- 何に對して、どんな気持ちなのかを書く。
 - 手紙の型にそって、ていねいな言葉を使って書く。
- 事実を分かりやすく伝える

- 伝えたいことの内容を明らかにする。
- 文章の書きだしに、最も伝えたいことを書く。 など

理由や例を挙げて考えを伝える

- 伝えたいことを考えて、調べたことを整理する。
- 理由や例と、伝えたいこととの関わりが分かるように書く。

読み返して、書いたものを整える

- 自分の思いが読む人にも伝わるかを考える。
- 他の言葉や言い方がないかを考える。
- 言葉の順序や調子を変えると、作品の印象が変わることがある。

文章の感想を伝え合う

- 書き手の考えをふまえながら、くわしく感想を伝える。
- 相手の考えを理解するのに、役立つ点。
- 工夫していると思った書き方。

- 感想を聞くときは、自分の考えが正しく伝わっているかどうかをたしかめる。

 111ページ

 79ページ

 56ページ

15

10

5

 こんな場面でいかそう





説明する文章

四年上 筆者の考えをとらえる

● 考えをのべた文章では、文章の初めと終わりの両方で、考えをくり返しのべていることが多い。 など

要約する

51ページ

● まとまりごとに、中心となる語や文をたしかめる。
● 分量を考えて、元の文章の組み立てをいかしたり、自分の言葉を用いたりして、短くまとめる。

感じ方のちがいに気づき、よさを見つける

100ページ

● 読んだ文章に対する感想や考えには、その人が文章をどう受け止めたり、理解したりしたかが表れている。
● 自分とはちがう感想や考えに出会ったら、ちがいはどこから来ているのか、他の人の感じ方のよさは何かを考えると、読んだ文章への理解が深まる。

物語・読書

四年上 場面と場面のつながりを考える

● 人物や場面の様子を表す言葉に気をつけて、場面と場面のつながりを見つける。 など
特別な言葉に着目する

● 題名に用いられる言葉や、くり返し用いられる言葉などに

20

15

10

5

こんな場面でいかそう

〈説明する文章〉



〈物語〉



着目することで、作者の思いにせまることができる。
事実にもとづいて書かれた本を読む

●ノンフィクションには、さまざまな内容ようのものがある。事実の取り上げ方のちがいなどに着目すると、選びやすい。など

話し合つて、考えを深める

↓ 32ページ

●場面と場面を、結びつけたりくらべたりして、気持ちの変化へんをとらえる。

●他の人の考えや、自分とはちがう見方を知ると、物語に対する考えを深めることができる。 など

登場人物の変化と、出来事の間係をとらえる

↓ 76ページ

●場面のうつり変わりに気をつけて読み、登場人物の気持ちや考え方が表れている部分を見つける。

●人物の変化に、どんな出来事がどのように関わっているのかを考える。 など

感じ方のちがいを楽しむ

↓ 138ページ

●物語の印象しやうは、使われている言葉や表現から生まれる。着目する言葉や、そこから何を思いうかべるかがちがえば、印象も変わってくる。

●物語の何を、どのように受け止めたかを伝え合うと、同じ作品を新たな角度から味わうことができる。

〈読書〉

聞く相手の顔を見て聞く

みなさんは、友達と話すときに、うまく会話が続かないと感じたことはありますか。会話をよりよいものにするためには、聞き手の聞き方がとても大切です。相手が気持ちよく話せるような聞き方を練習してみましよう。

相手の顔を見て聞く

話を聞くときは、相手の顔を見て、うなずいたり相づちを打ったりすることが大切です。聞き手が相手の顔を見るかどうかで、話し手の感じ方がどのようにちがうかを体験してみましよう。

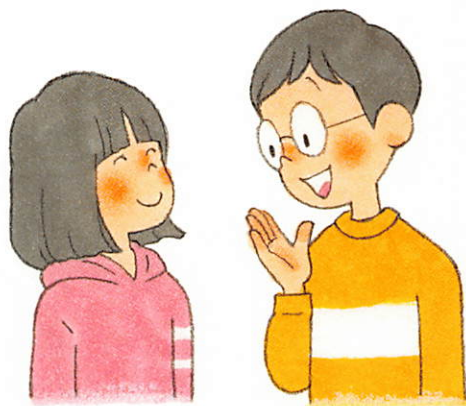


5

活動の方法

- ① 二人一組になる。
- ② 話し手と聞き手に分かれ、話し手は「好きなもの」とその理由について二文程度で話す。
- ③ 一回目は、聞き手は、相手を見ないで聞く。
- ④ 二回目は、聞き手は、相手を見て、うなずいたり相づちを打ったりしながら聞く。
- ⑤ ③と④で、話し手がどのように感じたかを交流する。

5



会話を続ける

会話をするときには、聞き手がしつもんをするこ
とで、話し手が話しやすくなります。相手の話を
受けて、しつもんをしながら、会話を続ける練習
をしましょう。

活動の方法

- ① 二人一組になる。
- ② 話し手と聞き手に分かれ、話し手は「最近
の出来事」を一文で話す。
- ③ 聞き手は、相手の話した言葉を使ってしつ
もんをし、話し手はそのしつもんに答える。
- ④ 聞き手は、ふたたび相手の話した言葉を
使ってしつもんをし、会話をできるだけ長く
続ける。

10

5

会話の例



「昨日、動物園に行ったんだ。」



「それは、どこの動物園。」



「〇〇市の△△動物園だよ。」



「いいね。だれと△△動物園に行ったの。」



「お父さんとお母さんと妹。」



「妹が好きな動物は何なの。」



「妹は、パンダが好きなんだ。ぼくも、

パンダが大好きだよ。」



「その動物園で、パンダは見られたの。」

...

10

5

本の世界を 広げよう



窓ぎわの トットちゃん



黒柳 徹子
いわさき ちひろ 絵

トットちゃんこと黒柳徹子さんは、トモエ学園に通いました。そこで、すてきな友達と温かい先生に出会います。

りこうなおきさき



モーゼスII ガスター文
光吉 夏弥 訳

市場に行つて羊を売り、お金といっしょに羊を連れて帰る方法とは。お話のおもしろさに引きこまれます。

物語・絵本

狂言えほん ぶす



内田 麟太郎 文
長谷川 義史 絵

近づくだけで命を失うという、ぶす。しかし、ぶすは、なんともおいしそうです。ぶすとは、何でしょう。

リターン！



山口 理 作
岡本 順 絵

ブーメランとの出会いが、めんどくさがりで引っこみ思案だったイツキを変えた。そして、はんの仲間も。

つるばら村の パン屋さん



茂市 久美子 作
中村 悦子 絵

宅配パン屋のくるみさんのゆめは、駅前ですきなお店を開くこと。毎日不思議な注文を受けています。さて、今日のお客さんは。

大どろぼう ホッツエンプロッツ



プロイスラー 作
中村 浩三 訳

大どろぼうホッツエンプロッツを、少年たちが追いかけます。ゆかいで、楽しくて、ひやひやするお話です。

オンネリとアンネリのおうち



マリヤッタII クレンニエミ 作
マイヤII カルマ 絵
渡部 翠 訳

オンネリとアンネリは親友です。ある日二人はお金を拾い、そのお金で自分たちのおうちを買ったのです。

夜やってくる 動物のお医者さん



高橋 うらら 文

梅原先生は、夜せんもんの動物のお医者さん。車に乗って、病院に行けない病気のペットのちりように来てくれます。

科学・ちしき



日食・月食のひみつ

関口 シュン 絵・文
木村 直人 監修

「月食って何だろう」と、
ぎもんに思ったヨウスケ。
ミヅキさんは、月と太陽の
動きについて教えてくれま
した。



冬眠のひみつ

近藤 宣昭 監修

きびしい冬を乗りこえる
方法の一つが「冬眠」です。
ねむる生き物の体の中では、
何が起きているのでしょうか。

詩・言葉



写真でわかる 慣用句辞典

慣用句を写真で表し、意
味を説明しています。慣用
句を知っている人も、よく
知らない人も楽しめる辞典
です。



文化のちがいは習慣のちがひ 1 モグモグ 食事のマナー

須藤 健一 監修

食事をすわってする国と
立ってする国。食べ方や食
事のマナーは、国によって
ちがうようです。



雪の結晶ノート

マークIIカッシーノ・
ジョンIIネルソン 作
千葉 茂樹 訳

小さな雪の結晶は、一つ
として同じ形のものはない
ません。いったいどのよう
にして生まれるのでしょうか。



算数で観察 フムフム! 世界の生き物

アンリルーニー 著
みちしたのぶひろ 訳
伊藤 真由美・瀬沼 花子・
富永 順一 監訳

あなたは、世界中の生き
物を調査するチームリー
ダーです。算数の力を使っ
たミッションに取り組みま
しょう。



ピカピカ俳句

齋藤 孝 著

おもしろい句、かっこい
い句、心が温かくなる句、
有名な俳句が大集合。どれ
もピカピカにかがやいてい
ます。



いわさきちひろ 子どもの幸せと平和を絵にこめて

松本 由理子 文

子どもたちの絵をえがき
続けた、いわさきちひろ。
だれのために、どんな気持
ちでえがいたのかをさぐっ
てみましょう。



明日をつくる 十歳のきみへ

日野原 重明

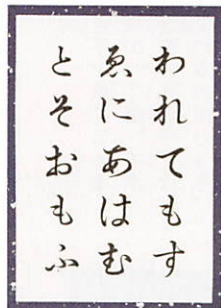
「長生きすればするほど、
もつとたくさんの時間を人
のために使いたくなりま
す」。日野原さんの言葉です。

読み終わった本には、□に印を付けましょう。

百人一首に親しもう

百人一首は、百人の歌人の短歌を一首ずつ選んで、まとめたものです。藤原定家ふじわらのさだいえが選んだとされる「小倉百人一首」が、よく知られています。

百人一首のかるたには、読み札と取り札があり、取り札には、下の句しもくしか書かれていません。読み手が読み上げた短歌を聞いて、その短歌の下の句が書かれた取り札を取って遊びます。



五・七・五・七・七の前半の
五・七・五を上の句、後半の
七・七を下の句といひます。

遊び方1 一人こで競きそう

個人で競う遊び方に、ふつうのかるた取りと同じ、「散らし取り」があります。何人でも遊ぶことができます。

• 百まいの取り札を、ばらばらにならべる。

• 参加者さんかは、札まわの周りに自由にすわる。

• 読み上げられた短歌の取り札を取る。

• より多くの取り札を取った人の勝ち。

まちがえてちがう取り札を取ってしまったときのルールを決めて、遊ぶこともできます。



遊び方2 ― チームで競う

二つのチームに分かれて遊びます。

・チームごとに、五十まいの取り札を三列にならべる。ならば方は、チームで自由に考える。

・読み上げられた短歌の取り札を取る。相手側の取り札を取ったら、自分のチームの取り札の中から、一まいを相手側にわたす。

・相手側の取り札にまちがってさわった場合、相手側の取り札を一まいもらわなければならぬ。
・取り札がなくなったチームの勝ち。

百首全てではなく、二十首ずつ遊ぶなど、自分で工夫しながら遊ぶこともできます。

この遊び方は、昔、源氏と平氏という一族どうしが戦ったことにちなみ、「源平合戦」とよばれます。

10

5

「む」「す」「め」「ふ」「さ」「ほ」「せ」で始まる歌は、それぞれ一首しかありません。そのため、最初の一言を聞くだけで、取り札をさがすことができます。

⑬ 村雨の露もまだ千ぬまきの葉に

霧立ち昇る秋の夕暮れ

⑭ 住の江の岸に寄る波よるさへや

夢の通ひ路人目よくらむ

⑮ めぐり逢ひて見しやそれとも分かぬ間に

雲隠れにし夜半の月かな

⑯ 吹くからに秋の草木のしをるれば

むべ山風をあらしと言ふらむ

⑰ 寂しさに宿を立ち出でてながむれば

いづこも同じ秋の夕暮れ

⑱ ほとぎす鳴きつる方をながむれば

ただ有明の月ぞ残れる

⑲ 瀬を早み岩にせかるる滝川の

われても末に逢はむとぞ思ふ

15

10

5

これまでに習った漢字

△は、これから習う読み方。()は、小学校では習わない読み方。

| | | | | | | | | | | | |
|---------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------|
| □ ₄ 位 ⑦ くらい | □ ₄ 衣 ⑥ (ころも) | い | □ ₃ 暗 ⑬ くら | □ ₄ 案 ⑩ アン | □ ₃ 安 ⑥ やす | □ ₃ 悪 ⑪ わる | □ ₄ 愛 ⑬ アイ | あ | □ ₂ 夏 ⑩ なつ | —チェックらん —学年 —漢字 —画数 —読み方 | |
| □ ₃ 飲 ⑫ のむ | □ ₃ 院 ⑩ イン | □ ₃ 員 ⑩ イン | □ ₄ 印 ⑥ しるし | □ ₂ 引 ④ ひ | □ ₄ 茨 ⑨ いばら | □ ₁ 一 ① ひと | □ ₃ 育 ⑧ イク | □ ₃ 意 ⑬ イ | □ ₃ 委 ⑧ ゆだねる | □ ₃ 医 ⑦ イ | |
| □ ₁ 円 ④ まるい | □ ₃ 駅 ⑭ エキ | □ ₄ 栄 ⑨ さか | □ ₃ 泳 ⑧ およ | え | □ ₂ 雲 ⑫ くも | □ ₃ 運 ⑫ はこ | □ ₁ 雨 ⑧ あめ | □ ₂ 羽 ⑥ はね | □ ₁ 右 ⑤ みぎ | う | |
| □ ₃ 温 ⑫ あたた | □ ₁ 音 ⑨ ね | □ ₃ 屋 ⑨ や | □ ₄ 岡 ⑧ おか | □ ₃ 横 ⑮ よこ | □ ₃ 央 ⑤ おう | □ ₁ 王 ④ おう | お | □ ₂ 遠 ⑬ とおい | □ ₂ 園 ⑬ その | □ ₄ 媛 ⑫ エン | |
| □ ₂ 夏 ⑩ なつ | □ ₂ 科 ⑨ カ | □ ₄ 果 ⑧ は | □ ₁ 花 ⑦ はな | □ ₂ 何 ⑦ なん | □ ₁ 火 ④ ひ | □ ₃ 化 ④ かは | □ ₁ 下 ③ ゲ | か | | | |
| □ ₃ 開 ⑫ あ | □ ₂ 絵 ⑫ エ | □ ₃ 界 ⑨ カイ | □ ₂ 海 ⑨ うみ | □ ₂ 会 ⑥ あ | □ ₂ 回 ⑥ まわ | □ ₄ 賀 ⑫ ガ | □ ₂ 画 ⑧ カ | □ ₂ 歌 ⑭ うた | □ ₄ 貨 ⑪ カ | □ ₃ 荷 ⑩ に | □ ₂ 家 ⑩ ケ |
| □ ₄ 完 ⑦ カン | □ ₂ 活 ⑨ カツ | □ ₄ 瀉 ⑮ かた | □ ₂ 楽 ⑬ ガク | □ ₁ 学 ⑧ ガク | □ ₄ 覚 ⑫ おぼ | □ ₂ 角 ⑦ カク | □ ₄ 街 ⑫ ガイ | □ ₂ 外 ⑤ ガイ | □ ₁ 貝 ⑦ かい | □ ₃ 階 ⑫ カイ | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------|--------------------|---|---------------------------|---------------------------|--------------------------|---|--------------------|---------------------------|----------------------------|--------------------|--------------------|---------------------------|---------------------------|
| □4 岐 ⑦ (キ) | □1 気 ⑥ ケキ | キ | □2 顔 ⑱ △ガン かお | □2 岩 ⑧ △ガン いわ | □3 岸 ⑧ ガン きし | □2 丸 ③ △ガン まる まる まる める | □4 観 ⑱ カン | □3 館 ⑯ カン やかた | □4 関 ⑭ カン かかわる | □3 漢 ⑬ カン | □3 感 ⑬ カン | □2 間 ⑫ カン まいだ | □3 寒 ⑫ カン さむい |
|---------------------|--------------------|---|---------------------------|---------------------------|--------------------------|---|--------------------|---------------------------|----------------------------|--------------------|--------------------|---------------------------|---------------------------|

| | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|---------------------------|---------------------------------|-----------------------------|-------------------------|-------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| □1 休 ⑥ やすむ やすめる | □2 弓 ③ キユウ ゆみ | □1 九 ② ク キユウ このつ | □3 客 ⑨ キヤク (カク) | □4 機 ⑯ キ はた | □4 旗 ⑭ キ はた | □3 期 ⑫ キ (ゴ) | □2 帰 ⑩ キ かえる | □3 起 ⑩ キ おこす | □2 記 ⑩ キ しるす | □4 季 ⑧ キ | □2 汽 ⑦ キ | □4 希 ⑦ キ |
|-----------------------------|---------------------------|---------------------------------|-----------------------------|-------------------------|-------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|-------------------|-------------------|-------------------|

| | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|-----------------------------|---------------------------|--------------------------|--------------------------|---------------------------|---------------------|---------------------------|-----------------------------|---------------------|----------------------------|---------------------------|-----------------------------|
| □2 強 ⑪ キヨウ つよめる | □2 京 ⑧ キヨウ (ケイ) | □4 漁 ⑭ ギョ リヨウ | □2 魚 ⑪ ギョ うお | □3 去 ⑤ キョ さる | □2 牛 ④ ギユウ うし | □4 給 ⑫ キユウ | □3 球 ⑪ キユウ たま | □3 宮 ⑩ キユウ (クウ) | □3 級 ⑨ キユウ | □3 急 ⑨ キユウ いそぐ | □4 泣 ⑧ キユウ なく | □3 究 ⑦ キユウ きわめる |
|-----------------------------|-----------------------------|---------------------------|--------------------------|--------------------------|---------------------------|---------------------|---------------------------|-----------------------------|---------------------|----------------------------|---------------------------|-----------------------------|

| | | | | | | | | | | | | |
|---------------------------|----------------------------|---|--------------------------|--------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------|----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|---------------------------|-----------------------------|
| □3 苦 ⑧ ク くるしむ | □3 区 ④ ク くらしめる | キ | □3 銀 ⑭ ギン かな | □1 金 ⑧ キン かね | □2 近 ⑦ キン ちかい | □1 玉 ⑤ キョク たま | □3 局 ⑦ キョク | □3 曲 ⑥ キョク まがる | □3 業 ⑬ ギョウ (ゴウ) | □4 競 ⑳ キョウ (セウ) | □3 橋 ⑯ キョウ はし | □2 教 ⑪ キョウ おしえる |
|---------------------------|----------------------------|---|--------------------------|--------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------|----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|---------------------------|-----------------------------|

| | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------|---------------------------|---------------------------|--------------------------|---|---------------------------|--------------------|--------------------|--------------------------|--------------------|--------------------------|--------------------------|-------------------------|
| □3 係 ⑨ ケイ かか | □4 徑 ⑧ ケイ かたち | □2 形 ⑦ ケイ かたち | □2 兄 ⑤ ケイ あに | キ | □4 群 ⑬ グン むれる | □4 郡 ⑩ グン | □4 軍 ⑨ グン | □4 訓 ⑩ クン きみ | □3 君 ⑦ クン | □4 熊 ⑭ クマ くま | □1 空 ⑧ クウ から | □3 具 ⑧ グ おと |
|--------------------------|---------------------------|---------------------------|--------------------------|---|---------------------------|--------------------|--------------------|--------------------------|--------------------|--------------------------|--------------------------|-------------------------|

| | | | | | | | | | | | | |
|----------------------------|--------------------|----------------------------|---------------------------|---------------------------|--------------------------|--------------------------|---------------------------|---------------------------|-------------------------|-------------------------|--------------------------|---------------------------|
| □4 健 ⑪ ケン すこやか | □3 県 ⑨ ケン | □3 研 ⑨ ケン (ケン) | □4 建 ⑨ ケン たてる | □1 見 ⑦ ケン みせる | □1 犬 ④ ケン いぬ | □1 月 ④ ゲツ つき | □4 結 ⑫ ケツ むすぶ | □3 決 ⑦ ケツ きまる | □3 血 ⑥ ケツ ち | □4 欠 ④ ケツ か | □3 軽 ⑫ ケイ かる | □2 計 ⑨ ケイ はかる |
|----------------------------|--------------------|----------------------------|---------------------------|---------------------------|--------------------------|--------------------------|---------------------------|---------------------------|-------------------------|-------------------------|--------------------------|---------------------------|

| | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|--------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|---------------------------|--------------------------|-------------------------|------------------------|---|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| □1 口 ③ ク くち | □2 語 ⑭ ゴ かたる | □2 後 ⑨ ゴ のち | □2 午 ④ ゴ あど | □1 五 ④ ゴ いつ | □3 湖 ⑫ コ みずうみ | □3 庫 ⑩ コ (ク) | □2 古 ⑤ コ ふる | □2 戸 ④ コ と | キ | □2 原 ⑩ ゲン はら | □2 言 ⑦ ゲン こと | □2 元 ④ ゲン もと |
|-------------------------|--------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|---------------------------|--------------------------|-------------------------|------------------------|---|--------------------------|--------------------------|--------------------------|

| | | | | | | | | |
|---|--|---------------------------------------|--|--|---|--|--|-------------------------------|
| □ ₂ 行 ⑥ コウ ゆく いく (アン) ギョウ | □ ₂ 考 ⑥ △コウ かんがえる | □ ₄ 好 ⑥ このむ すく | □ ₃ 向 ⑥ コウ むく むける むかう | □ ₂ 光 ⑥ ひかり ひかる | □ ₂ 交 ⑥ マシ まじえる まじる まさる まさる まざる (かわす) | □ ₂ 広 ⑤ ひろ ひろまる ひろめる ひろがる ひろげる | □ ₂ 公 ④ コウ おおよけ | □ ₂ 工 ③ ク |
|---|--|---------------------------------------|--|--|---|--|--|-------------------------------|

| | | | | | | | | | | |
|-------------------------------|--------------------------------|--|--------------------------------|---------------------------------------|---|--------------------------------|--|--------------------------------|---|--|
| □ ₂ 国 ⑧ ク | □ ₂ 谷 ⑦ タニ | □ ₂ 合 ⑥ △カツ ゴウ あわす あわせる | □ ₃ 号 ⑤ ゴウ | □ ₃ 港 ⑫ コウ みなと | □ ₂ 黄 ⑪ △オウ (コウ) コウ | □ ₄ 康 ⑪ コウ | □ ₂ 高 ⑩ △コウ たかい たか たかまる たかめる | □ ₁ 校 ⑩ コウ | □ ₄ 香 ⑨ カ かおり (キョウ) | □ ₃ 幸 ⑧ コウ さいわい さち しあわせ |
|-------------------------------|--------------------------------|--|--------------------------------|---------------------------------------|---|--------------------------------|--|--------------------------------|---|--|

| | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--|--------------------------------|--|---------------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|---------------------------------------|---|-------------------------------------|--------------------------------------|--|
| □ ₄ 崎 ⑪ サキ | □ ₄ 材 ⑦ サイ | □ ₄ 埼 ⑪ さい | □ ₄ 最 ⑫ サイ もつとも | □ ₄ 菜 ⑪ サイ | □ ₂ 細 ⑪ △サイ ほそい ほそ こまかい | □ ₃ 祭 ⑪ サイ まつり | □ ₂ 才 ③ サイ | □ ₄ 佐 ⑦ サ | □ ₁ 左 ⑤ △サ ひだり | サ | □ ₃ 根 ⑩ ネ コン | □ ₂ 今 ④ キン いま | □ ₂ 黒 ⑪ ク くろ くろい |
|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--|--------------------------------|--|---------------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|---------------------------------------|---|-------------------------------------|--------------------------------------|--|

| | | | | | | | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------------------------|---|-------------------------------------|---|--------------------------------|---|--------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|---------------------------------------|
| □ ₃ 仕 ⑤ シ つかえる | □ ₄ 氏 ④ シ (うじ) | □ ₂ 止 ④ △シ とまる とどめる | □ ₁ 子 ③ コ コシ | シ | □ ₂ 算 ⑭ サン | □ ₄ 散 ⑫ サン ちらす ちらかす ちらかる | □ ₁ 山 ③ サン やま | □ ₁ 三 ③ ミ みつ | □ ₃ 皿 ⑤ サラ | □ ₄ 昨 ⑨ サク | □ ₂ 作 ⑦ サク つくる |
|---------------------------------------|---------------------------------------|---|-------------------------------------|---|--------------------------------|---|--------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|---------------------------------------|

| | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------------|---|--------------------------------|--------------------------------|---|---------------------------------------|-------------------------------------|---|--------------------------------------|--------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|---|
| □ ₃ 詩 ⑬ シ | □ ₄ 試 ⑬ シ (ためす) こころみる | □ ₃ 齒 ⑫ ハシ | □ ₂ 紙 ⑩ カミ | □ ₃ 指 ⑨ シ ゆび さす | □ ₂ 思 ⑨ △シ おもふ | □ ₂ 姉 ⑧ シ あね | □ ₃ 始 ⑧ シ はじめる はじまる | □ ₃ 使 ⑧ シ つかう | □ ₁ 糸 ⑥ イト | □ ₃ 死 ⑥ シ しぬ | □ ₂ 矢 ⑤ ヤシ | □ ₂ 市 ⑤ イチ | □ ₁ 四 ⑤ ヨ よつ よつ よつ |
|-------------------------------|---|--------------------------------|--------------------------------|---|---------------------------------------|-------------------------------------|---|--------------------------------------|--------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|---|

| | | | | | | | | | | | | | |
|--|--------------------------------|---------------------------------|--|--------------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|---------------------------------------|---|--------------------------------|--|--------------------------------|---------------------------------------|
| □ ₁ 七 ② シ なな ななつ | □ ₃ 式 ⑥ シキ | □ ₄ 鹿 ⑪ カシカ | □ ₄ 辞 ⑬ シ (やめる) | □ ₄ 滋 ⑫ シ (ジ) | □ ₂ 時 ⑩ トキ | □ ₃ 持 ⑨ モツ | □ ₃ 事 ⑧ コト | □ ₄ 児 ⑦ ニ (ニジ) | □ ₂ 自 ⑥ △△シ みずから | □ ₁ 耳 ⑥ ミミ | □ ₃ 次 ⑥ ツギ (ツギ) | □ ₂ 寺 ⑥ テラ | □ ₁ 字 ⑥ ジ (あじ) |
|--|--------------------------------|---------------------------------|--|--------------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|---------------------------------------|---|--------------------------------|--|--------------------------------|---------------------------------------|

| | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|---|--------------------------------------|--------------------------------------|---|--------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|--|
| □ ₂ 首 ⑨ シユ くび | □ ₃ 取 ⑧ シユ とる | □ ₃ 守 ⑥ シユ (もり) まもる | □ ₃ 主 ⑤ シユ ぬし | □ ₁ 手 ④ テ (た) | □ ₂ 弱 ⑩ ジヤク よわい よわる よわめる | □ ₃ 者 ⑧ シヤ もの | □ ₁ 車 ⑦ シヤ くるま | □ ₂ 社 ⑦ シヤ やしろ | □ ₃ 写 ⑤ シヤ うつす | □ ₃ 実 ⑧ ジツ み | □ ₂ 室 ⑨ シツ (むろ) |
|--------------------------------------|--------------------------------------|---|--------------------------------------|--------------------------------------|---|--------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|--|

| | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------|---|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| □ ₂ 組 ⑪ くむ | そ | □ ₂ 前 ⑨ まえ | □ ₃ 全 ⑥ ぜん | □ ₄ 選 ⑮ せん | □ ₂ 線 ⑮ せん | □ ₄ 戦 ⑬ せん | □ ₂ 船 ⑪ ふね | □ ₁ 先 ⑥ さき | □ ₁ 川 ③ かわ | □ ₁ 千 ③ ち | □ ₄ 説 ⑭ せつ | □ ₄ 節 ⑬ せつ | □ ₂ 雪 ⑪ ゆき |
|--------------------------------|---|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|

| | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| □ ₁ 村 ⑦ むら | □ ₄ 卒 ⑧ ソツ | □ ₃ 族 ⑪ ソク | □ ₃ 速 ⑩ すみ | □ ₃ 息 ⑩ いき | □ ₁ 足 ⑦ あし | □ ₃ 想 ⑬ ソウ | □ ₃ 送 ⑨ おく | □ ₁ 草 ⑨ くさ | □ ₃ 相 ⑨ あい | □ ₂ 走 ⑦ はし | □ ₄ 争 ⑥ あら | □ ₁ 早 ⑥ はや |
|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|

| | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|---|
| □ ₃ 代 ⑤ しろ | □ ₁ 大 ③ おほ | □ ₄ 隊 ⑫ たい | □ ₄ 帯 ⑩ おび | □ ₃ 待 ⑨ まつ | □ ₂ 体 ⑦ たい | □ ₃ 对 ⑦ たい | □ ₂ 太 ④ ふた | □ ₃ 打 ⑤ うつ | □ ₂ 多 ⑥ おほ | □ ₃ 他 ⑤ ほか | た |
|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|---|

| | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|---|--------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| □ ₁ 竹 ⑥ たけ | □ ₄ 置 ⑬ おき | □ ₂ 知 ⑧ しる | □ ₂ 池 ⑥ いけ | □ ₂ 地 ⑥ ぢ | ち | □ ₃ 談 ⑮ だん | □ ₁ 男 ⑦ おとこ | □ ₃ 短 ⑫ たん | □ ₃ 炭 ⑨ すみ | □ ₄ 単 ⑨ たん | □ ₄ 達 ⑫ たつ | □ ₃ 題 ⑮ だい | □ ₃ 第 ⑪ だい | □ ₂ 台 ⑤ たい |
|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|---|--------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|

| | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|
| □ ₂ 朝 ⑫ あさ | □ ₂ 鳥 ⑪ とり | □ ₃ 帳 ⑪ ちヨウ | □ ₂ 長 ⑧ なが | □ ₁ 町 ⑦ まち | □ ₃ 丁 ② ちヨウ | □ ₃ 柱 ⑨ はしら | □ ₂ 昼 ⑨ ひる | □ ₃ 注 ⑧ そそ | □ ₄ 冲 ⑦ おき | □ ₁ 虫 ⑥ むし | □ ₁ 中 ④ なか | □ ₃ 着 ⑫ ちヤク | □ ₂ 茶 ⑨ チャ |
|--------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|

| | | | | | | | | | | |
|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---|---------------------------------|--------------------------------|---|---------------------------------|---------------------------------|
| □ ₃ 笛 ⑪ ふえ | □ ₄ 的 ⑧ まて | □ ₃ 庭 ⑩ にわ | □ ₃ 定 ⑧ じヨウ | □ ₂ 弟 ⑦ おとう | て | □ ₂ 通 ⑩ かよう | □ ₃ 追 ⑨ おっ | つ | □ ₂ 直 ⑧ ちヨク | □ ₃ 調 ⑮ しらべ |
|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---|---------------------------------|--------------------------------|---|---------------------------------|---------------------------------|

| | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|---|--------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| □ ₁ 土 ③ つち | □ ₃ 都 ⑪ みやこ | □ ₄ 徒 ⑩ ト | と | □ ₂ 電 ⑬ デン | □ ₄ 伝 ⑥ でん | □ ₁ 田 ⑤ た | □ ₃ 転 ⑪ てん | □ ₂ 点 ⑨ てん | □ ₂ 店 ⑧ みせ | □ ₄ 典 ⑧ てん | □ ₁ 天 ④ あま | □ ₃ 鉄 ⑬ てつ |
|--------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|---|--------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|

| | | | | | | | | | | | | |
|--|---|---------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|--|-------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|--|
| □ ₃ 等 ⑫ トウ ひとしい | □ ₂ 答 ⑫ トウ こたえる こたえ | □ ₃ 登 ⑫ トウ のぼる | □ ₃ 湯 ⑫ トウ ゆ | □ ₃ 島 ⑩ トウ しま | □ ₂ 東 ⑧ トウ ひがし | □ ₃ 豆 ⑦ ズトウ まめ | □ ₃ 投 ⑦ トウ なげる | □ ₂ 当 ⑥ トウ あてる あたる | □ ₄ 灯 ⑥ トウ ひ | □ ₂ 冬 ⑤ トウ ふゆ | □ ₂ 刀 ② トウ かたな | □ ₃ 度 ④ トウ たび たび |
|--|---|---------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|--|-------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|--|

| | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------|---|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--|--------------------------------------|---------------------------------------|---|---------------------------------------|--|
| □ ₄ 梨 ⑪ なし | □ ₂ 内 ④ ナイ うち | □ ₄ 奈 ⑧ ナ | な | □ ₄ 栃 ⑨ トウ とち | □ ₂ 読 ⑭ トウ よむ | □ ₄ 徳 ⑭ トウ とく | □ ₄ 特 ⑩ トウ とく | □ ₄ 働 ⑬ トウ はたらく | □ ₂ 道 ⑫ トウ みち | □ ₃ 童 ⑫ トウ わらべ | □ ₃ 動 ⑪ トウ うごかう うごく | □ ₂ 同 ⑥ トウ おなじ | □ ₂ 頭 ⑯ トウ あたま かしら |
|--------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------|---|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--|--------------------------------------|---------------------------------------|---|---------------------------------------|--|

| | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------------------|---|--------------------------------|---|--------------------------------------|---------------------------------------|---|--|--------------------------------------|--------------------------------|--------------------------------------|---|---------------------------------------|
| □ ₃ 波 ⑧ ハ なみ | は | □ ₃ 農 ⑬ ノウ | の | □ ₁ 年 ⑥ ネン とし | □ ₄ 熱 ⑮ ネツ あつい | ね | □ ₁ 入 ② ニユウ はいれる いれる | □ ₁ 日 ④ ジツ かひ | □ ₂ 肉 ⑥ ニク | □ ₁ 二 ② ニ ふたつ | に | □ ₂ 南 ⑨ ナン みなみ |
|-------------------------------------|---|--------------------------------|---|--------------------------------------|---------------------------------------|---|--|--------------------------------------|--------------------------------|--------------------------------------|---|---------------------------------------|

| | | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|
| □ ₃ 発 ⑨ ハツ (ハツ) | □ ₁ 八 ② ハチ やっつ やっつ | □ ₃ 畑 ⑨ ハタけ はたけ | □ ₃ 箱 ⑮ はこ | □ ₂ 麦 ⑦ バク むぎ | □ ₁ 白 ⑤ ハク しろい | □ ₂ 買 ⑫ バイ かう | □ ₄ 梅 ⑩ バイ うめ | □ ₃ 倍 ⑩ バイ | □ ₂ 売 ⑦ バイ うれる | □ ₃ 配 ⑩ ハイ くばる | □ ₂ 馬 ⑩ ウマ ま |
|--|--|--|--------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|

| | | | | | | | | | | | | |
|--|-------------------------------------|--|---------------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------|---|--------------------------------|--------------------------------------|--|--------------------------------------|--|---------------------------------------|
| □ ₄ 必 ⑤ ヒツ かならず | □ ₃ 鼻 ⑭ ビ はな | □ ₃ 美 ⑨ ビ うつくしい | □ ₃ 悲 ⑫ ヒ かなしい | □ ₄ 飛 ⑨ ヒ とばす | □ ₃ 皮 ⑤ カ かわ | ひ | □ ₂ 番 ⑫ バン | □ ₃ 板 ⑧ バン いた | □ ₄ 阪 ⑦ ハン (ハン) | □ ₃ 坂 ⑦ ハン さか | □ ₂ 半 ⑤ ハン なにかは | □ ₃ 反 ④ ハン そらす |
|--|-------------------------------------|--|---------------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------|---|--------------------------------|--------------------------------------|--|--------------------------------------|--|---------------------------------------|

| | | | | | | | | | | | | |
|---------------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|---|--------------------------------------|--|---------------------------------|--|--|---------------------------------|--------------------------------------|
| □ ₃ 負 ⑨ フ おまかす | □ ₄ 阜 ⑧ フ | □ ₄ 府 ⑧ フ | □ ₂ 父 ④ フ ちち | □ ₄ 夫 ④ フ おとと | ふ | □ ₃ 品 ⑨ ヒン しな | □ ₃ 病 ⑩ ビョウ やまい | □ ₃ 秒 ⑨ ビョウ | □ ₃ 表 ⑧ ヒョウ おもて | □ ₃ 氷 ⑤ ヒョウ こおり | □ ₁ 百 ⑥ ヒャク | □ ₃ 筆 ⑫ ヒツ ふで |
|---------------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|---|--------------------------------------|--|---------------------------------|--|--|---------------------------------|--------------------------------------|

| | | | | | | | | | |
|--|--------------------------------------|---|--------------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------|-------------------------------------|
| □ ₂ 聞 ⑭ ブン きこえる | □ ₁ 文 ④ モン ふみ | □ ₂ 分 ④ ブン わかれる わかれる わかつ | □ ₃ 物 ⑧ モノ もの | □ ₃ 福 ⑬ フク | □ ₄ 副 ⑪ フク | □ ₃ 服 ⑧ フク | □ ₂ 風 ⑨ フウ かぜ | □ ₃ 部 ⑪ ブ | □ ₄ 富 ⑫ フ とむ |
|--|--------------------------------------|---|--------------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------|-------------------------------------|

| | | | | | | | | | | | |
|---------------------------|--------------|--------------|--------------|---------------------|---|--------------|--------------|--------------|-----------------|--------------|------------------|
| □3 放 ⑧ | □4 包 ⑤ | □2 方 ④ | □2 母 ⑤ | □2 步 ⑧ | ほ | □3 勉 ⑩ | □3 返 ⑦ | □4 別 ⑦ | □2 米 ⑥ | □4 兵 ⑦ | □3 平 ⑤ |
| はなす はなつ はなれる ほうる | ほう つむ | かた ほう | はは △ポ | あるく △あゆむ (フ)ホ | | ベン | かえす △へん | わかれる ベツ | こめ △ペイ マイ | へい ヒョウ | ひら たいら ビョウ |

| | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|--------------|--------------|---|-------------------|--------------|--------------|--------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| □4 民 ⑤ | □3 味 ⑧ | □4 未 ⑤ | み | □4 満 ⑫ | □2 万 ③ | □2 妹 ⑧ | □2 毎 ⑥ | ま | □1 本 ⑤ | □1 木 ④ | □2 北 ⑤ | □4 望 ⑪ | □4 法 ⑧ |
| (た)ミン | あじわう △あじ | ミ | | みちる △みたす マン | (パン) | (マイ) いもうと | マイ | | もと ホン | △こ モク | きた ホク | (モウ) のぞむ | (ホツ) ホウ |

| | | | | | | | | | |
|--------------|--------------|--------------|---|--------------------|-----------------|-----------------------------|---------------------|----------------|---|
| □2 門 ⑧ | □1 目 ⑤ | □2 毛 ④ | も | □3 面 ⑨ | □2 鳴 ⑭ | □2 明 ⑧ | □3 命 ⑧ | □1 名 ⑥ | め |
| (か)モン | (ま) | け モウ | | (おもて) △おも メン | なく △なく メイ | あかり あかるい あかるむ あからむ | いのち △メイ (ミョウ) | な △メイ ヨウ | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|--------------|----------------|--------------|--------------|--------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|---|-----------------|
| □3 遊 ⑫ | □4 勇 ⑨ | □3 有 ⑥ | □2 友 ④ | □3 油 ⑧ | □3 由 ⑤ | ゆ | □3 薬 ⑬ | □4 約 ⑨ | □3 役 ⑦ | □2 野 ⑪ | □2 夜 ⑧ | や | □3 問 ⑪ |
| あそぶ ユウ | いさむ ユウ | ある △ウ ユウ | とも ユウ | あぶら ユ | (よし) ユウ | | くすり ヤク | ヤク | (エキ) | のヤ | よる よヤ | | とん △どう モン |

| | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------|------------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|---|
| □3 落 ⑫ | □2 来 ⑦ | ら | □2 曜 ⑮ | □4 養 ⑮ | □3 様 ⑭ | □3 陽 ⑫ | □3 葉 ⑫ | □4 要 ⑨ | □3 洋 ⑨ | □3 羊 ⑥ | □2 用 ⑤ | □3 予 ④ | よ |
| おちる △おとす ラク | くる △きたる ライ | | ヨウ | やしなう ヨウ | さま ヨウ | ヨウ | は ヨウ | (いる) かなめ ヨウ | ヨウ | ひつじ ヨウ | もちいる ヨウ | ヨ | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|--------------|--------------|----------------------|-------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------------------|-------------------|--------------|---------------|---|
| □4 類 ⑮ | □4 輪 ⑮ | □1 林 ⑧ | □3 緑 ⑭ | □1 力 ② | □4 料 ⑩ | □4 良 ⑦ | □3 両 ⑥ | □3 旅 ⑩ | □3 流 ⑩ | □1 立 ⑤ | □2 理 ⑪ | □2 里 ⑦ | り |
| たぐい ルイ | わ リン | はやし リン | (みどり) △リョク リョク | ちから △リキ リョク | リョウ | よい リョウ | リョウ | たび リョ | (ル) ながれる △リウ リウ | (たつ) △リウ リウ | リ | さと △リ リ | |

| | | | | | | | | | | | |
|------------------|-------------------|---|-----------------|----------------|---|-----------------|--------------|-------------------|-------------------|--------------|---|
| □2 話 ⑬ | □3 和 ⑧ | わ | □1 六 ④ | □3 路 ⑬ | ろ | □3 練 ⑭ | □3 列 ⑥ | □4 例 ⑧ | □3 礼 ⑤ | □4 令 ⑤ | れ |
| はなす △はなし ワ | (なごや) △なご ワ | | むい △むい ロク | むつ △むつ ロ | | ねる △レン レン | レッ | たどえる △レイ レイ | (ライ) △レイ レイ | レイ | |

感動を言葉に

78 改 7画

改改改改改改
カイ 改行 改良
あらためる 行いを改める
あらたまる 年が改まる

自分だけの詩集を作ろう

83 共 6画

共共共共共共
キヨウ 共通 公共
とも 共に行動する

熟語の意味

85 願 19画

願願願願願願
ガン 願望 念願
ねがう お願いする

85 失 5画

失失失失失
シツ 消失 失礼
うしなう 気を失う

85 辺 5画

辺辺辺辺辺
ヘン 周辺 近辺
あたり 辺り一面
べ 海辺 岸辺

85 低 7画

低低低低低低
テイ 高低 最低
ひくい 低い山
ひくめる 声を低める
ひくまる 気温が低まる

85 敗 11画

敗敗敗敗敗敗
ハイ 勝敗 失敗
やぶれる 戦いに敗れる

85 老 6画

老老老老老老
ロウ 老木 老人
おいる 年老いた父
(ふける)

85 束 7画

束束束束束束
ソク 約束 結束
たば 花束 束ねる

85 票 11画

票票票票票票
ヒョウ 開票 一票

85 陸 11画

陸陸陸陸陸陸
リク 着陸 陸地

ウナギのなぞを追って

89 各 6画

各各各各各各
カク 各地 各段落
(おのおの)

89 産 11画

産産産産産産
サン 原産地 出産
うむ たまごを産む
うまれる 犬が産まれる
(うぶ)

90 求 7画

求求求求求求
キユウ 追求 要求
もとめる 追い求める

93 付 5画

付付付付付付
フ 付近 付録
つける わり付け
つく へばり付け

94 固 8画

固固固固固固
コ 固定 固有
かためる 雪を固める
かたまる 土が固まる
かたい 頭が固い

94 塩 13画

塩塩塩塩塩塩
エン 塩分 食塩
しお 塩をふる

94 側 11画

側側側側側側
ソク 側面
がわ(かわ)南側 右側

99 勞 7画

勞勞勞勞勞勞
ロウ 苦勞 労働

つながりに気をつけよう

101 標 15画

標標標標標標
ヒョウ 目標 標本

101 官 8画

官官官官官官
カン 器官 長官

102 巢 11画

巢巢巢巢巢巢
(ソウ) クモの巣 巢箱

102 候 10画

候候候候候候
コウ 氣候 天候
(そろう)

104 察 14画

察察察察察察
サツ 觀察 考察

104 兆 8画

兆兆兆兆兆
チヨウ 一兆
(きぎす)
(きぎす)
(きぎし)

104 億 15画

億億億億億億億
オク 一億

104 鏡 19画

鏡鏡鏡鏡鏡鏡鏡
キヨウ 望遠鏡 鏡台
かがみ 手鏡 鏡開き

もしものときにそなえよう

105 害 10画

害害害害害害害
ガイ 災害 有害

111 刷 8画

刷刷刷刷刷刷
サツ 印刷物 刷新
する 新聞を刷る

まちがえやすい漢字

117 治 8画

治治治治治治治
ジ 政治
チ 自治会 治安
おさめる 国を治める
おさまる いたみが治まる
なおる きずが治る
なおす むし歯を治す

117 努 7画

努努努努努努努
ド 努力
つとめる 学業に努める

118 倉 10画

倉倉倉倉倉倉倉
ソウ 倉庫
くら 米倉

118 札 5画

札札札札札
サツ お札 表札
ふだ 名札

118 功 5画

功功功功功
コウ 成功
(ク)

118 器 15画

器器器器器器器
キ 楽器 器官
(うつわ)

118 英 8画

英英英英英英英
エイ 英語

118 牧 8画

牧牧牧牧牧牧牧
ボク 牧場 遊牧
(まき)

初雪のふる日

122 冷 7画

冷冷冷冷冷冷冷
レイ 冷気 寒冷
つめたい 風が冷たい
ひえる 体が冷える
ひや 冷やあせ
ひやす 頭を冷やす
ひやかす 弟を冷やかす
さめる お茶が冷める
さます 熱を冷ます

126 唱 11画

唱唱唱唱唱唱唱
シヨウ 合唱 暗唱
となえる 平和を唱える



言葉のたから箱

考えや気持ちを伝える言葉

人物や出来事について説明するときや、自分の考えや感想を伝えるときに役立てましょう。

人物を表す言葉

- のんき
- 温和
- 気のいい
- 行動力のある
- 根気強い
- 器用
- 用心深い
- 強がり
- 生意気
- ずうずうしい

物や事からを表す言葉

- かんぺき
- さすが
- せいけつ
- きょうみ深い
- ゆとりのある
- 重大
- 力強い
- はげしい
- ささやか
- 単調

考え方を表す言葉

- きつい
- あらい
- 気味が悪い
- あやしい
- 弱点
- かた苦しい

- 例えば――
- たとえ――だとしても
- によると
- かもしれない
- のはずだ
- にちがいない

気持ちを表す言葉

- うっとり
- ぐっとくる
- 好む
- 親しむ
- こいしい
- いたわる
- ほこらしい
- しんけん
- はり切る

注目

- 思いこむ
- こだわる
- こりる
- 苦心
- しんぼう
- こらえる
- ふきげん

心が晴れる

- 心がはずむ
- 冷やあせをかく
- はらを決める
- 気が遠くなる
- 気がすむ
- 気が重い
- 熱が冷める

慣用句に親しもう

「心」や「気」を使った慣用句には、人のせいやくや気持ちを表すものが多くあります。国語辞典などを使って、さがしてみましよう。

「心が晴れる」「気が晴れる」のよ
うに、下の部分が共通しているもの
もあります。意味にちがいはあるの
かたしかめてみましょう。

学習に用いる言葉

国語の学習で、よく使われる言葉です。意味や使い方をたしかめて、学習に役立てましょう。

情景

物語や詩において、登場人物の気持ちとひびき合うようにえがかれた風景や場面の様子。その登場人物の目にうつった景色や、耳に聞こえた音などとして、修飾語とともにえがかれることが多い。

会話文や地の文で、登場人物の気持ちが分かる言葉がなくても、情景から人物の気持ちを想像することができる。

30ページ

議題

話し合いや会議などで取り上げる題材のこと。生活の中の問題点や、参加者の関心のあることなど、話し合うことによって何かを決めたり、たがいの考えを交流したりしたい事から選ぶとよい。

議題を、話し合いの初めにたしかめたり、いつも参加者から見えるところにしめておいたりすると、参加者が話し合いの方向性を理解でき、うまく進行しやすくなる。

37ページ

出典

話や文章の中で、引用したり参考にした本や資料などのこと。本の場合は、①著者(作者)名、②書名、③出版社名、④発行年をしめす。ウェブサイトの場合は、⑤ウェブサイト名と、⑥サイト管理者の名前などのじょうほうをしめす。

〈出典のしめし方の例〉

- 本の場合
 - ① 増田勝彦
 - ② 「世界にはこる和紙」
 - ③ ○○図書
 - ④ 二〇二〇年
- ウェブサイトの場合
 - ⑤ 「防災情報のページ」
 - ⑥ (内閣府ウェブサイト)

意見文やほくこく文などでは、末尾で出典をしめしておくことで、読んだ人が、同じ本や資料などを後からさがして読むことができる。

55ページ

これまでに学んだ言葉

アンケート調査

多くの人に同じしつもんをして調べる方法。答えを書きこんでもらったり、用意した答えの中から選んでもらったりする。

かじょう書き

事がらを、短く、一つ一つ分けて書きならべる書き方のこと。「・」「①」「②……」など、記号や数字を用いることが多い。

取材

知りたいことなどについて、さまざまな方法で調べて材料を集めること。実際に見たり聞いたりする、本やインターネットで調べる、アンケート調査をするなどの方法がある。

対比

二つのものをくらべて、ちがいははっきりさせること。

設定

時(いつの話か)、場所(どこの話か)、登場人物(だれが出てくる話か)など、その物語全体に関わることをいう。物語の始まりに書かれていることが多い。

見出し

文章のまとまりの初めに置かれる、要点を短くまとめた言葉。

要点

物事や人の話などの中心となる、大事な事からのこと。

要約

目的や必要におうじて、話や本、文章の内容を短くまとめること。元の文章の組み立てや表現をいかしてまとめるものと、自分の言葉に言いかえてまとめるものがある。

わりつけ

新聞などで、記事や見出し、写真・図などの大きさと、入れる場所を決めること。

編集委員

甲斐陸朗

元国立国語研究所所長

桂 聖

筑波大学附属小学校教諭

藤森裕治

信州大学術研究院教授

高木まさき

横浜国立大学大学院教授

茅野政徳

山梨大学教職大学院准教授

細川太輔

東京学芸大学教職大学院准教授

青山由紀

筑波大学附属小学校教諭

工藤直子

作家

三浦登志一

山形大学術研究院教授

赤木雅宣

ノートルダム清心女子大学教授

鴻上尚史

作家・演出家

邑上裕子

明星大学客員教授

阿辻哲次

京都大学名誉教授

興水かおり

前玉川大学客員教授

森 篤嗣

京都外国語大学教授

阿部 昇

秋田大学特別教授

佐渡島紗織

早稲田大学教授

森山卓郎

早稲田大学教授

池上 彰

ジャーナリスト

達富洋二

佐賀大学教授

吉永幸司

前京都女子大学教授

石井陸美

作家

田中洋一

東京女子体育大学教授

市原恭代

カラーユニバーサルデザインに関する校閲
工学院大学准教授

石黒 圭

国立国語研究所教授

棚橋尚子

奈良教育大学教授

市原恭代

NPO法人カラーユニバーサル
デザイン機構(CUDO)理事

稲田八穂

筑紫学園大学教授

土山和久

大阪教育大学教授

井上一郎

前京都女子大学教授

永池啓子

横浜国立大学講師

特別支援教育に関する校閲

佐島 毅

筑波大学准教授

浮田真弓

岡山大学教授

中川一史

放送大学教授

内田伸子

お茶の水女子大学名誉教授

中村桂子

生命誌研究館館長

岡田博元

お茶の水女子大学附属小学校教諭

長谷浩也

環太平洋大学教授

学習のユニバーサルデザインに関する校閲

小貫 悟

明星大学教授

甲斐雄一郎

筑波大学教授

蜂飼 耳

詩人・作家

鹿毛雅治

慶應義塾大学教授

原田義則

鹿児島大学大学院准教授

光村図書出版株式会社編集部

アート・ディレクション/デザイン 図工室(坂 啓典/近田宏生/堀ノ内達也)

表紙絵 大野八生 とびら詩 羽曾部 忠 とびら絵 原田マサミ

さし絵 浅倉田美子/神山博光/川口澄子/川村 易/河原崎秀之/芝野公二/たかおかゆみこ/タラジロウ/土居香桜里/ナシエ

Hama-House/原田マサミ/三木麻都

書き文字 樋口咲子

写真 浅倉紙業/アフロ/小川町教育委員会/門倉商店/工房レストア/佐藤英世/正倉院宝物/ゲッティ・イメージズ/長岡博史

博多織工業組合/林 義勝/平取町立二風谷アイヌ文化博物館/ポプラ社/本願寺

国語

四

下はばたき

38光村 国語408 小学校国語科用

年月日印刷
年月日発行

(平成三十一年二月二十五日検定済)

定価 文部科学大臣が認可し官報で告示した定価
(右記の定価は、各教科書取次供給所に表示
します。)

この教科書にもとづくワークブック・解説書、
ならびにこれに類するものの無断発行を禁じます。

ISBN978-4-8138-0071-2

著作者

甲斐陸朗 ほか四十三名別記

発行者

光村図書出版株式会社

代表者 小泉 茂

東京都品川区上大崎二十九九

印刷者

協和オフセット印刷株式会社

代表者 鴨 三津夫

東京都港区浜松町一三二一

発行者

光村図書出版株式会社

東京都品川区上大崎二十九九

電話(〇三)三四九三二二二一(代表)

ISBN978-4-8138-0071-2
C4381 ¥00000E



9784813800712



1924381000000

保護者の皆様へ

この教科書は、これからの社会を生きる子どもたちが、言葉に出会う喜びや、人とつながる楽しさを実感しながら、確かな「言葉の力」を身につけることを願って編集したものです。ご家庭においても、この教科書を子どもたちと語り合うきっかけとしてご活用ください。

この教科書は、次のような配慮や工夫をしています。

- カラーユニバーサルデザインや特別支援教育の観点から、全てのページについて専門家による校閲を行っています。
- 児童の学習負担を軽減するよう、本文には書き文字と差異の生じない書体を使用しています。
- 単元名や見出しには、見やすいユニバーサルデザイン書体を使用しています。
- 環境に配慮した紙、植物油インキを使用しています。

UD
FONT



この教科書では、学習の参考となる動画などの資料を小社ウェブサイトを用意し、その箇所には二次元コードを示しています。機種やインターネット環境等によってはアクセスできないことがあります。また、通信料が発生する場合があります。読み取れない場合は、下記のURLをご参照ください。



<https://m-manabi.jp/20/qr/k4g/>

この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。



光村図書

四年

組

